

帝國議會 貴族院議事速記錄第九號

第四十三回

大正九年七月十四日(水曜日)

午前十時七分開議

議事日程 第九號 大正九年七月十四日

午前十時開議

第一 大正八年法律第九號中改正法律案(政府提出、衆議院送付)

第二 所得稅法改正法律案(政府提出、衆議院送付)

第三 所得稅法ノ施行ニ關スル法律案(政府提出、衆議院送付)

第四 酒造稅法中改正法律案(政府提出、衆議院送付)

第五 酒精及酒精含有飲料稅法中改正法律案(政府提出、衆議院送付)

第六 麥酒稅法中改正法律案(政府提出、衆議院送付)

第七 明治四十一年法律第二千四號中改正法律案(政府提出、衆議院送付)

第八 明治四十年法律第二十一號中改正法律案(政府提出、衆議院送付)

第九 議院法中改正法律案(政府提出、衆議院送付)

第十 大正九年勅令第五十二號(承諾ヲ求ムル件)(衆議院送付)

第十一 國運發展ニ適切ナル社會組織及風俗慣習調査機

關設置ニ關スル建議案(前田正名君發議)

第一讀會
第一讀會

○議長(公爵徳川家達君) 是ヨリ報告ヲ致サセマス
 ○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス
 「〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ」

○議長(公爵徳川家達君) 是ヨリ報告ヲ致サセマス
 〔瀬古書記官朗讀〕
 一昨十二日本院ニ於テ可決シタル左ノ政府提出案ハ即日之ヲ衆議院ニ送付
 セリ
 大正九年勅令第五十二號(承諾ヲ求ムル件)
 明治二十九年法律第十三號中改正法律案
 同日衆議院ヨリ左ノ政府提出案ヲ受領セリ
 大正八年法律第九號中改正法律案
 昨十三日衆議院ヨリ左ノ政府提出案ヲ受領セリ

所得稅法改正法律案
所得稅法ノ施行ニ關スル法律案
酒造稅法中改正法律案
麥酒稅法中改正法律案
明治四十一年法律第二十四號中改正法律案
明治四十年法律第二十一號中改正法律案
議院法中改正法律案

所得稅法改正法律案
所得稅法ノ施行ニ關スル法律案
酒造稅法中改正法律案
麥酒稅法中改正法律案
明治四十一年法律第二十四號中改正法律案
明治四十年法律第二十一號中改正法律案
議院法中改正法律案

○議長(公爵徳川家達君) 是ヨリ本日ノ會議ヲ開キマス

○伯爵廣澤金次郎君 是ヨリ郵便貯金法中改正法律案特別委員會ヲ開會イタシタイト考ヘマス、就キマシテハ右委員ノ退席ノ御許可ヲ願ヒマス
 ○議長(公爵徳川家達君) 廣澤伯爵ノ特別委員會ヘノ退席ノ要求ハ、許可ヲ致シテ御異存ゴザイマセヌカ

○阪本鉄之助君 本日ノ日程ニ入リマス以前ニ、一言、御許シヲ願ヒタイト思ヒマスガ、十二日ノ會議ノ速記録ヲ今朝受取リマシテ、一讀イタシマシタ所ガ、本員ノ尼港ニ關シマスル質問ニ對シマシテ、陸軍大臣ガ御答辯ニナラレマシタコトノ一節ハ九十七頁ニ載シテ居ルノデアリマスガ、當時陸軍大臣ノ御答辯ハ情意ヲ竭サレタモノデアリマシテ、殊ニ末節ノ一語ハ私共ノ甚ダ……後ニ申シタ通り、佩服イタシマシテ質問ヲ打切りマシタ次第ゴザイマスガ、其卽チ速記ヲ讀ミマスルト、甚ダ意外デアルノデアリマス、是ハ併シ或ハ速記者ガ文字ヲ書違ヘタノデハナイカトハ存ジマスルガ、併シドウモ當時彼ノコトハ確ニ記憶イタシマセヌガ、是ハ滿場ノ諸君ニモ御記憶ノ御喚起ヲ願ヒタイノデアリマスガ、速記ヲ讀ミマスガ、一番仕舞ヒニ至リマシテ、「又此事柄ハ別トシテ、斯様ナ事柄ガアリマシテ、陛下ニ對シ奉ッテハ、誠ニ宸襟ヲ惱シ奉ツタ次第デアリマス、國民ノ義憤ヲ招イタ次第デアリマス、其點ニ付キマシテハ、私ハ親切ヲ缺カヌ積リデアリマス」、斯ウゴザイマスガ、此「親切」ナル文字ハ親ト云フ字ト切ト云フ字、即チ俗ニ云フ親切ヲ盡スト云フ親

切ト云フ字ガ書イテアリマスルガ、當時「シンセツ」ト云フ字ハドウデアラウ

カト云フコトハ、何人モ耳ヲ傾ケテ聽キマシタガ、私共解釋スルニハ君臣ノ

臣、節操ノ節、臣節ヲ缺カヌ、内閣大臣ノ責任ノアル臣節ヲ瞭カニスルト云
フ誠意ヲ寵メタ、又其當時ノ態度ガ如何ニモ私共敬服スル態度ヲ以テ、臣節
ヲ缺カヌ積リデアルト仰シヤッタト云フコトニ確ニ記憶シテ居リマスルガ、唯

漫然ト親切……物事ヲ親切ニスルト云フ親切デハ薩張リ折角ノ御演説ガ體ヲ
成サヌ次第デアリマス、而カモ又此前ノ「陛下ニ對シ奉ツテハ、誠ニ宸襟ヲ惱

マシ奉ツタ次第デアリマス、國民ノ義憤ヲ招イタ次第デアリマス」、是モドウ

モスウデハナカッタ、モウ少シ申譯ガナイトカ、恐懼ノ至リトカ云フ御言葉ガ

アツカト存ジマスケレドモ、是ハ或ハ水掛論ニナリハシマセヌカト思ヒマス
ガ、斯様デアルト事務局デ御承認ニナリマスレバ致方ナインデアリマスルガ、

此「親切」ト云フ字ハ、確ニ矢張リ單ニ親切デナク君臣ノ臣節操ノ節デアルト
私共解釋ヲ致シテ居リマシテ、當時大ニ大臣ノ御話ヲ御丁寧デ、佩服ヲ致シ

マシタト、斯ウ自分ハ申シテ居ルノデアリマスガ、矢張リ「親」ト云フ字ト
「切」ト云フ字ガ大臣ノ本意デアツカ、若クハ私共ノ解釋スル如ク、君臣ノ節

操デアツカト云フコトヲ一應陸軍大臣ニ御質シニナリマシテ、議場ニ徹底スルヤウニ議長
ハ御答ニハ及ビマセヌガ、御質シニナリマシテ、議場ニ徹底スルヤウニ議長

ヨリ御報告ヲ願ヒタイト存ズルノデアリマス、是ダケノコトヲ申述ベマシテ、
尙ホ其前ノ所ニ脱字ハナイカ、即チ此「陛下ニ對シ奉ツテ」云々以下ノ所ニ脱

字ハナイカ、又「シンセツ」ト云フ字ハドウ云フ字デアツカト云フコトヲ御

確カメニナリマシテ、御報告ヲ願ヒタイト思ヒマス、ソレカラ私ノソレニ付
テ述ベマシタ裏ノ貢ノ數行ノ所ニ「ハイフク」ト云フ字ガ拜スル……御辭儀ヲ

スルト云フ「拜」ノ字ガ書イテアリマス、私ノ「ハイフク」ト申シタノハ感佩ノ
佩、何モ御辭儀ヲシテ服サウト云フノデハアリマセヌ、感佩シタト云フノデ

アリマスガ、是ハ私ヨリ正誤ヲ求メテ置キマス、「ハイフク」ト申シタ所以
ノモノハ、即チ臣節ヲ缺カヌト言ハレタ御言葉ニ、非常ニ佩服シタノデアリ

マス、ガ唯今申述ベタ「親切」ト云フ字デハ甚ダ感服イタシマシマセヌ、此點

ハ議長ニ御願ヒ旁、一言申上グマス
○議長（公爵徳川家達君） 唯今陸軍大臣ハ出席シテ居ラレマセヌカラ、阪本
彰之助君ノ御希望ノ點ハ、早速議長ヨリ田中陸軍大臣ニ傳ヘマセウ、左様御

承知ヲ請ヒマス

○議長（公爵徳川家達君） 本日ノ議事日程ニ移リマス、日程第一、大正八年
法律第九號中改正法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會、本日モ通牒文
ノ朗讀ハ省略イタシタク存ジマス、御異議ハゴザイマセヌカ
〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

〔左ノ送付文及議案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ載錄ス以下之
ニ倣フ〕

大正八年法律第九號中改正法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也
大正九年七月十二日

衆議院議長奥繁三郎

貴族院議長公爵徳川家達殿

大正八年法律第九號中改正法律案

大正八年法律第九號中左ノ通改正ス

〔大正十一年度〕〔大正十一年度〕ニ「二百六十一萬四千九百五十二圓」〔三
百四十五萬二千二百二十九圓〕ニ改ム

附 則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
參 照

大正八年法律第九號

大正八年度ニ於テ造幣局据置運轉資本ニ百五十萬圓ヲ增加ス

前項資本ノ増加及大正八年度乃至大正十年度ニ瓦リ造幣局ノ設備擴張ニ要
スル經費ニ充用スル爲造幣局資金ノ内二百六十一萬四千九百五十二圓ヲ限
リ一般會計ニ繰入ルルコトヲ得

〔國務大臣男爵高橋是清君演壇ニ登ル〕

○國務大臣（男爵高橋是清君） 唯今議題トナリマシタル本案ハ、造幣局ノ設
備擴張ニ要シマスル所ノ費用ニ充テマスル爲ニ、造幣局ノ資金ノ一部ヲ一般
會計ニ繰入レマスル爲ニ提案ヲ致シタノデゴザイマス、其趣意ノ大要ヲ申シ
マスレバ、曩ニ第四十一議會ニ於キマシテ、補助貨ノ需要ガ增加シマスルニ

應ジマスル爲メ、造幣局ノ貨幣鑄造能力ハ一箇年約二億枚デアリマスノデ、

二倍ニ増加イタシマスルガ爲ニ、大正八年度以後三箇年ノ繼續費ト致シマシ

テ總額百十一萬餘圓、設備擴張費ノ御協賛ヲ得マシタノデゴザイマスルガ、

其後銀塊相場ノ狀勢ニ鑑ミマシテ、銀貨ノ鑄造ハ之ヲ見合セマシテ、新タニ

十錢ノ白銅貨ヲ制定イタシテ鑄造スルコトニシマシテ、尙ホ五錢ノ白銅貨ト

一錢ノ青銅貨ヲ一層増鑄スルノ必要ガゴザイマシテ、茲ニ更ニ鑄造能力ヲ一

箇年一億枚増加スルノ計畫ヲ立ツルコトニ致シマシタ此計畫ヲ實行イタシマ

スル爲メ、既定計畫ノ設備擴張費ノ外ニ、更ニ設備擴張ノ爲ニ七十三萬餘圓

ノ經費ヲ要シマスル、ソレト又物價騰貴ノ爲ニ既定經費ニ九萬餘圓ヲ追加ス

ルノ必要ガゴザイマシテ、合計八十三萬餘圓ヲ既定繼續費ニ増額スルコト。

致シマシタ、且ツ此繼續年限ヲ一箇年延長イタシマシテ追加豫算ニ計上イタ

シタ次第デゴザイマス、右增加ヲ要シマスル經費ノ財源ト致シマシテ、造幣

局資金ヨリ之ニ相當スル金額ヲ一般會計ニ繰入レマスル必要ガゴザリマスノ

デ、茲ニ本改正案ヲ提出イタシマシタル次第デゴザイマス、御審議ノ上御協

贊アラムコトヲ切望イタシマス

○議長(公爵德川家達君) 別ニ御質疑モナイヤウデゴザイマスカラ、特別委員ノ氏名ヲ書記官ヲシテ朗讀ヲ致サセマス

〔瀬古書記官朗讀〕

大正八年法律第九號中改正法律案特別委員

伯爵川村 鐵太郎君 子爵稻垣 太祥君 子爵本多 忠鋒君
男爵毛利 五郎君 男爵矢吹 省三君 大谷 嘉兵衛君

津村 紀陵君 高橋 源次郎君

高橋 隆一君

第一種

○議長(公爵德川家達君) 此際議長ハ諸君ニ御諮詢致シマス、日程第二ヨリ第七マデ束ネテ説明ヲ煩ハシ、議題ト致シタイト考ヘマス、御異存ゴザイマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵德川家達君) 御異議ナイト認メマス

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵德川家達君) 日程第二、所得稅法改正法律案、第三、所得稅法ノ施行ニ關スル法律案、第四、酒造稅法中改正法律案、第五、酒精及酒精含有飲料稅法中改正法律案、第六、麥酒稅法中改正法律案、第七、明治四十一

年法律第二十四號中改正法律案、政府提出衆議院送付、第一讀會

所得稅法改正法律案

右政府提出案本院ニ於テ修正議決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付

候也

大正九年七月十三日

衆議院議長奥繁三郎

貴族院議長公爵德川家達殿

〔小字ハ衆議院ノ修正、同削除ノ符號ナリ〕

所得稅法

第一條 本法施行地ニ住所ヲ有シ又ハ一年以上居所ヲ有スル者ハ本法ニ依リ所得稅ヲ納ムル義務アルモノトス

第二條 前條ノ規定ニ該當セサル者左ノ各號ノ一二該當スルトキハ其ノ所得ニ付テノミ所得稅ヲ納ムル義務アルモノトス

一 本法施行地ニ資產又ハ營業ヲ有スルトキ

二 本法施行地ニ於テ公債、社債、銀行定期預金又ハ定期預金ノ性質ヲ有スル銀行預金ノ利子支拂ヲ受クルトキ

三 本法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ヨリ利益若ハ利息ノ配當、剩餘金ノ分配又ハ利益若ハ剩餘金ノ處分タル賞與若ハ賞與ノ性質ヲ有スル給與ヲ受クルトキ

第三條 所得稅ハ左ノ所得ニ付之ヲ賦課ス

甲 法人ノ超過所得
乙 法人ノ留保所得
丙 法人ノ配當所得

丁 法人ノ清算所得

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

本法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有セサル法人ノ本法施行地ニ於ケル資產又ハ營業ヨリ生スル所得

第二種

甲 本法施行地ニ於テ支拂ヲ受クル公債、社債、銀行定期預金又ハ定期預金ノ性質ヲ有スル銀行預金ノ利子

乙 第一條ノ規定ニ該當セサル者ノ本法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ヨリ受クル利益若ハ利息ノ配當、剩餘金ノ分配又

ハ利益若ハ剩餘金ノ處分タル賞與若ハ賞與ノ性質ヲ有スル給與

第三種

第二種ニ屬セサル個人ノ所得

第四條 法人ノ所得ハ各事業年度ノ總益金ヨリ總損金ヲ控除シタル金額ニ

依ル但シ保険會社ニ在リテハ各事業年度ノ利益金又ハ剩餘金ニ依ル

本法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有セサル法人ノ所得ハ本法施行地ニ

ニ於ケル資產又ハ營業ニ付前項ノ規定ニ準シ之ヲ計算ス

法人カ事業年度中ニ解散シ又ハ合併ニ因リテ消滅シタル場合ニ於テハ其

ノ事業年度ノ始ヨリ解散又ハ合併ニ至ル迄ノ期間ヲ以テ一事業年度ト看

做ス

第五條 法人ノ各事業年度ノ所得カ同年度ノ資本金額ニ對シ年百分ノ八ノ

割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超過スルトキハ其ノ超過金額ヲ以テ法人ノ

超過所得トス

第六條 法人ノ各事業年度ノ資本金額ハ各月末ニ於ケル拂込株式金額、出

資金額又ハ基金及積立金額ノ月割平均ヲ以テ之ヲ計算ス

前項計算ノ場合ニ於テ繰越缺損金アルトキハ其ノ各月末ニ於ケル金額ノ

月割平均ヲ以テ之ヲ計算シ資本金額ヨリ控除ス

第七條 本法施行地ニ本店若ハ主タル事務所ヲ有セサル法人又ハ所得稅ヲ

課スヘキ所得ト其ノ他ノ所得トヲ有スル法人ノ各事業年度ノ資本金額ハ

命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ計算ス

第八條 本法ニ於テ積立金ト稱スルハ積立金其ノ他名義ノ何タルヲ問ハス

法人ノ所得中其ノ留保シタルモノヲ謂フ

第九條 法人ノ各事業年度ノ所得中積立金ト爲シタル金額ヲ以テ法人ノ留

保所得トス

法人カ積立金ヲ減少シタルトキハ其ノ減少額ヲ填補スルニ至ル迄其ノ後

ノ各事業年度ノ留保所得ニ付所得稅ヲ課セス

積立金ヲ減少シタル法人カ合併ニ因リテ消滅シタルトキハ合併後存續スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ニ付前項ノ規定ヲ適用ス但シ合併ノ際合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ積立金ヲ以テ合併後存續スル法人

又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ノ株式金額又ハ出資金額ニ充當シタルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十條 法人ノ各事業年度ノ所得中利益ノ配當又ハ剩餘金ノ分配ニ充當シタル金額ヲ以テ法人ノ配當所得トス

法人ノ積立金ヲ減少シテ利益ノ配當又ハ剩餘金ノ分配ニ充當シタル金額ハ之ヲ前項ノ配當所得ニ加算ス

第十一條 法人解散シタル場合ニ於テ其ノ殘餘財產ノ價額カ解散當時ノ拂込株式金額、出資金額、積立金及最後ノ事業年度ニ於ケル留保所得ノ合計金額ヲ超過スルトキハ其ノ超過金額ヲ以テ法人ノ清算所得トス

法人合併ヲ爲シタル場合ニ於テ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ株主又ハ社員カ合併後存續スル法人若ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ヨリ合併ニ因リテ取得スル株式ノ拂込濟金額又ハ出資金額及金錢ノ總額カ合併ニ因

リテ消滅シタル法人ノ合併當時ノ拂込株式金額、出資金額、積立金及最後ノ事業年度ニ於ケル留保所得ノ合計金額ヲ超過スルトキハ其ノ超過金額ハ之ヲ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ清算所得ト看做ス

第十二條 合併後存續スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ハ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ所得ニ付所得稅ヲ納ムル義務アルモノトス

第十三條 第三種ノ所得ハ左ノ各號ノ規定ニ依リ之ヲ算出ス

一 債給給料歲費年金恩給退隱料及此等ノ性質ヲ有スル給與、營業ニ非

サル貸金ノ利子並第二種ノ所得ニ屬セサル公債社債及預金ノ利子ハ

其ノ收入豫算年額

二 田又ハ畠ノ所得ハ前三年間毎年ノ總收入金額ヨリ必要ノ經費ヲ控除

シタルモノノ平均ニ依リ算出シタル收入豫算年額但シ前三年以來引

續キ自作セス、小作セス又ハ小作ニ付セサル田又ハ畠ニ在リテハ近

傍類地ノ所得ニ依リ算出シタル收入豫算年額

三 山林ノ所得ハ前年ノ總收入金額ヨリ必要ノ經費ヲ控除シタル金額

日ニ至ル期間ノ收入金額

四 賞與又ハ賞與ノ性質ヲ有スル給與ハ前年四月一日ヨリ其ノ年三月末

五 法人ヨリ受クル利益若ハ利息ノ配當又ハ剩餘金ノ分配ハ前年四月一

日ヨリ其ノ年三月末日ニ至ル期間ノ收入金額ヨリ其ノ十分ノ二ニ相

當スル金額ヲ控除シタル金額但シ無記名式ノ株式ヲ有スル者ノ受ク
ル配當ハ同期間ニ於テ支拂ヲ受ケタル金額ヨリ其ノ十分ノ二ニ相當
スル金額ヲ控除シタル金額

六 前各號以外ノ所得ハ總收入金額ヨリ必要ノ經費ヲ控除シタル收入豫
算年額

法人ノ社員其ノ退社ニ因リ持分ノ拂戻トシテ受クル金額カ其ノ退社當時
ニ於ケル出資金額ヲ超過スルトキハ其ノ超過金額ハ之ヲ其ノ法人ヨリ受
クル利益ノ配當ト看做ス株式ノ消却ニ因リ支拂ヲ受クル金額カ其ノ株式
ノ拂込済金額ヲ超過スルトキハ其ノ超過金額亦同シ

第十四條^(五) 前條ノ規定ニ依リ算出シタル金額一萬二千圓以下ナルトキハ其
ノ所得中俸給給料歲費年金恩給退隱料賞與及此等ノ性質ヲ有スル給與ニ
付テハ其ノ十分ノ一、六千圓以下ナルトキハ同十分ノ二ニ相當スル金額
ヲ控除ス

戸主及其ノ同居家族ノ所得ハ之ヲ合算シ其ノ總額ニ付前項ノ規定ヲ適用
ス戸主ト別居スル二人以上ノ同居家族ノ所得ニ付亦同シ

第十五條^(六) 前二條ノ規定ニ依リ算出シタル金額三千圓以下ナル場合ニ於テ
其ノ年四月一日現在ノ同居ノ戸主及家族中年齡十八歳未滿若ハ六十歳以
上ノ者又ハ不具廢疾者アルトキハ其ノ所得ヲ有スル者ノ申請ニ依リ其ノ
所得ヨリ左ノ各號ノ規定ニ依ル金額ヲ控除ス但シ第二條ノ規定ニ依ル納
稅義務者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

一 所得千圓以下ナルトキ
年齡十八歳未滿若ハ六十歲
以上ノ者又ハ不具廢疾者
二人付百圓

二 所得二千圓以下ナルトキ
同
一人付七十圓

三 所得三千圓以下ナルトキ
同
一人付五十圓

戸主及其ノ同居家族ノ所得ハ之ヲ合算シ其ノ總額ニ付前項ノ規定ヲ適用
ス戸主ト別居スル二人以上ノ同居家族ノ所得ニ付亦同シ

前項ノ場合ニ於テハ所得ヨリ控除セラルヘキ金額ハ各其ノ所得ニ案分シ

テ之ヲ計算ス

同一人ニシテ山林ノ所得ト山林以外ノ所得トヲ有スル場合ニ於テハ前三
項ノ規定ニ依ル控除ハ先ツ山林以外ノ所得ニ付之ヲ爲シ不足アルトキハ
山林ノ所得ニ及フ

第一項ノ不具廢疾者ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十六條^(七) 北海道府縣郡市町村其ノ他命令ヲ以テ指定スル公共團體、神社、所

院、祠宇、佛堂及民法第三十四條ノ規定ニ依リ設立シタル法人ニハ所
得稅ヲ課セス

第十七條^(八) 第三種ノ所得ニシテ左ノ各號ニ該當スルモノニハ所得稅ヲ課セ
ス

一 軍人從軍中ノ俸給及手當
二 扶助料及傷痍疾病者ノ恩給又ハ退隱料
三 旅費、學資金及法定扶養料
四 郵便貯金、產業組合貯金及銀行貯蓄預金ノ利子
五 營利ノ事業ニ屬セサル一時ノ所得
六 日本ノ國籍ヲ有セサル者ノ本法施行地外ニ於ケル資產、營業又ハ職
業ヨリ生スル所得

七 乘馬ヲ有スル義務アル軍人カ政府ヨリ受クル馬糧、繫畜料及馬匹保
ムル所ニ依リ開業ノ年及其ノ翌年ヨリ三年間其ノ業務ヨリ生スル所得ニ
付所得稅ヲ免除ス

第十八條^(九) 勅令ヲ以テ指定シタル重要物產ノ製造業ヲ營ム者ニハ命令ノ定
ムル所ニ依リ開業ノ年及其ノ翌年ヨリ三年間其ノ業務ヨリ生スル所得ニ
付所得稅ヲ免除ス

第十九條^(十) 第三種ノ所得ハ六百圓ニ満タサルトキハ所得稅ヲ課セス第十四
條及第十五條ノ規定ニ依ル控除ヲ爲シタル爲六百圓ニ満タサルニ至リタ
ルトキ亦同シ

戸主及其ノ同居家族ノ所得ハ之ヲ合算シ其ノ總額ニ付前項ノ規定ヲ適用
ス戸主ト別居スル二人以上ノ同居家族ノ所得ニ付亦同シ

第二十條^(十一) 第一種ノ所得ニ對スル所得稅ハ左ノ稅率ニ依リ之ヲ賦課ス
甲 超過所得金額ヲ左ノ各級ニ區分シ遞次ニ各稅率ヲ適用ス
所得金額中資本金額ニ對シ年百分ノ八ノ割合ヲ以テ算出シタル金額

ヲ超ユル金額

同百分ノ十ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユル金額

百分ノ四

同百分ノ二十ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユル金額

百分ノ八

同百分ノ三十ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユル金額

百分ノ十五

同百分ノ四十ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユル金額

百分ノ七、五

同百分ノ五十ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユル金額

百分ノ四

同百分ノ六十ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユル金額

百分ノ七、五

同百分ノ七十ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユル金額

百分ノ七、五

同百分ノ八十ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユル金額

百分ノ七、五

同百分ノ九十ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユル金額

百分ノ七、五

同百分ノ一百ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユル金額

百分ノ七、五

同百分ノ一百二十ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユル金額

百分ノ七、五

同百分ノ一百三十ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユル金額

百分ノ七、五

同百分ノ一百四十ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユル金額

百分ノ七、五

同百分ノ一百五十ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユル金額

百分ノ七、五

同百分ノ一百六十ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユル金額

百分ノ七、五

同百分ノ一百七十ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユル金額

百分ノ七、五

同百分ノ一百八十ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユル金額

百分ノ七、五

同百分ノ一百二十ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユル金額

百分ノ七、五

同百分ノ一百三十ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユル金額

百分ノ七、五

同百分ノ一百四十ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユル金額

百分ノ七、五

同百分ノ一百五十ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユル金額

百分ノ七、五

同百分ノ一百六十ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユル金額

百分ノ七、五

同百分ノ一百七十ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユル金額

百分ノ七、五

同百分ノ一百二十ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユル金額

百分ノ七、五

同百分ノ一百三十ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユル金額

百分ノ七、五

同百分ノ一百四十ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユル金額

百分ノ七、五

同百分ノ一百五十ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユル金額

百分ノ七、五

同百分ノ一百六十ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユル金額

百分ノ七、五

同百分ノ一百七十ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユル金額

百分ノ七、五

千圓ヲ超ユル金額

百分ノ二

千五百圓ヲ超ユル金額

百分ノ三

二千圓ヲ超ユル金額

百分ノ四

三千圓ヲ超ユル金額

百分ノ五

五千圓ヲ超ユル金額

百分ノ六、五

七千圓ヲ超ユル金額

百分ノ七、五

一萬圓ヲ超ユル金額

百分ノ九、五

一萬五千圓ヲ超ユル金額

百分ノ十、五

二萬圓ヲ超ユル金額

百分ノ十一、三

三萬圓ヲ超ユル金額

百分ノ十二、七

五萬圓ヲ超ユル金額

百分ノ十九、九

七萬圓ヲ超ユル金額

百分ノ二十一、一

十萬圓ヲ超ユル金額

百分ノ二十三、三

二十萬圓ヲ超ユル金額

百分ノ二十三、五

五十萬圓ヲ超ユル金額

百分ノ二十七、七

百萬圓ヲ超ユル金額

百分ノ三十一、七

二百萬圓ヲ超ユル金額ハ其ノ百萬圓迄每ニ遞止ム

百分ノ三十一、七

三百萬圓ヲ超ユル金額

百分ノ三十三、三

四百萬圓ヲ超ユル金額

百分ノ三十六、三

前項ノ場合ニ於テ戸主及其ノ同居家族ノ所得金額ハ之ヲ合算シ其ノ總額ニ對シ税率ヲ適用シテ算出シタル金額ヲ各其ノ所得金額ニ案分シテ各其ノ税率ヲ定ム戸主ト別居スル二人以上ノ同居家族ノ所得金額ニ付亦同シ

第二十三條 第一種ノ所得ニ付納稅義務アル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ財產目錄、貸借對照表、損益計算書又ハ清算若ハ合併ニ關スル計算書並第四條乃至第十條ノ規定ニ依リ計算シタル所得及資本金額ノ明細書ヲ添附シ其ノ所得ヲ政府ニ申告スヘシ但シ本法施行地ニ本店又ハ主タル事務

所ヲ有セアル法人ハ本法施行地ニ於ケル資産又ハ營業ニ關スル損益ヲ計算シタル所得及資本金額ノ明細書ヲ添附スヘシ
前項ノ規定ハ第一種ノ所得ニ付所得稅ヲ課セラルヘキ法人ニ付其ノ所得ナキ場合ニ之ヲ準用ス

第二十四條 第三種ノ所得ニ付納稅義務アル者ハ毎年四月中ニ所得ノ種類及金額ヲ詳記シ政府ニ申告スヘシ

第五十五條 第五種ノ規定ニ依ル控除ヲ受ケムトスル者ハ前項ノ申告ト同時ニ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ申請書ヲ提出スヘシ

第二十五條 第一種ノ所得金額ハ第二十三條ノ申告ニ依リ、申告ナキトキ又ハ申告ヲ不相當ト認ムルトキハ政府ノ調査ニ依リ政府ニ於テ之ヲ決定シ第三種ノ所得金額ハ所得調査委員會ノ調査ニ依リ政府ニ於テ之ヲ決定ス

所得調査委員會閉會後第三種ノ所得ヲ有スル者納稅義務アルコトヲ申出テ又ハ納稅義務者所得金額ノ増加アルコトヲ申出テタルトキハ政府ニ於テ其ノ所得金額ヲ決定ス

第二十六條 稅務署長ハ毎年第三種ノ所得ニ付納稅義務アリト認ムル者ノ所得金額ヲ調査シ其ノ調査書ヲ所得調査委員會ニ送付スヘシ

第二十七條 各稅務署所轄内ニ所得調査委員會ヲ置ク但シ稅務署所轄内ニ在ル市又ハ北海道、沖繩縣ノ區ニ付テハ命令ヲ以テ特ニ所得調査委員會ヲ置クコトヲ得

調査委員ノ定數ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム但シ定數ノ増減ハ改選期ニ於テスルノ外之ヲ爲スコトヲ得ス

第二十八條 調査委員ハ各選舉區ニ於テ之ヲ選舉ス調査委員ヲ選舉スルトキハ同時ニ之ト同數ノ補闕員ヲ選舉スヘシ

第二十九條 調査委員及補闕員ノ選舉區域ハ所得調査委員會ヲ置クヘキ區域ニ依リ投票區及開票區ハ市町村又ハ北海道、沖繩縣ノ區ノ區域ニ依ル但シ市制第六條ノ規定ニ依リ指定セラレタル市ニ在リテハ區ノ區域ニ依ル

第三十條 選舉區域内ニ住居シ前年第三種ノ所得稅ヲ納メ其ノ年第二十

五 四條ノ申告ヲ爲シタル者ニシテ選舉人名簿ニ登録セラレタルモノハ調查委員及補闕員ヲ選舉シ又ハ調査委員若ハ補闕員ニ選舉セラルルコトヲ得但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ此ノ限ニ在ラス

一 無能力者

二 破產若ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者又ハ身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨濟ヲ了ヘサル者

三 國稅滯納處分ヲ受ケタル後一年ヲ經サル者

四 六年以上ノ懲役若ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタル者ニシテ其ノ刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至ル迄ノ者

五 六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタル者ニシテ其ノ刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至ル迄ノ者

六 第七十三條乃至第七十五條ノ規定ニ依リ處罰セラレタル後五年ヲ經

前項ノ場合ニ於テ被相續人ノ爲シタル納稅又ハ申告ハ其ノ相續人ノ納稅又ハ申告ト看做ス

選舉人名簿ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十一條 投票及開票ニ關スル事務ハ市區町村長又ハ戸長之ヲ擔任シ選舉會ニ關スル事務ハ稅務署長之ヲ擔任ス

第三十二條 稅務署長ハ調査委員及補闕員ノ選舉期日ヲ定メ之ヲ市區町村長又ハ戸長ニ通知スヘシ

市區町村長又ハ戸長前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ少クトモ選舉期日七日前其ノ旨ヲ公示スヘシ

第三十三條 選舉ハ無記名投票ヲ以テ之ヲ行フ

投票ハ調査委員及補闕員ノ各選舉ニ付一人一票ニ限ル

選舉人ハ選舉ノ當日投票時間内ニ自ラ投票所ニ至リ被選舉人各一人ノ氏名ヲ各別ノ投票用紙ニ記載シテ投票スヘシ

投票用紙ハ選舉ノ當日投票所ニ於テ之ヲ選舉人ニ交付ス

第三十四條 市區町村長又ハ戸長ハ投票ヲ調査シ直ニ其ノ結果ヲ稅務署長ニ報告スヘシ

第三十五條 稅務署長前條ノ報告ヲ受ケタルトキハ選舉會ヲ開キ之ヲ調査スヘシ

第三十六條 投票、開票及選舉會ニハ立會人ヲ立會ハシムヘシ
立會人ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十七條 ^(八)投票ノ多數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トス投票ノ數同シキトキ
ハ年齡多キ者ヲ取リ年齡同シキトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

調査委員ニ當選シタル者同時ニ補闕員ニ當選スルモ補闕員タルコトヲ得ス

第三十八條 調査委員及補闕員ノ選舉終了シタルトキハ稅務署長ハ當選人
ノ氏名ヲ公示シ且之ヲ當選人及市區町村長又ハ戸長ニ通知スヘシ

市區町村長又ハ戸長前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ當選人ノ氏名ヲ公示ス
ヘシ

第三十九條 調査委員又ハ補闕員ニ當選シタル者ハ正當ノ事故ナクシテ之
ヲ辭スルコトヲ得ス

第四十條 調査委員及補闕員ノ任期ハ選舉期日ノ屬スル月ヨリ四年トス
但シ選舉區域ニ變更ヲ生シタル場合ニ於テハ其ノ任期ハ選舉區域ニ變更
ヲ生シタル日ノ屬スル月ヲ以テ終了スルモノトス

第四十一條 調査委員及補闕員ノ改選ハ前任者ノ任期終了ノ月ノ翌月ニ於
テ之ヲ行フ

第四十二條 ^(三)調査委員ニ關員ヲ生シタルトキハ投票ノ最多數ヲ得タル補闕
員ヨリ順次之ヲ補充シ投票ノ數同シキトキハ年齡多キ者ヲ取リ年齡同シ
キトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

調査委員ニ關員ヲ生シ之ヲ補充スヘキ補闕員ナキトキハ調査委員ノ補闕
選舉ヲ行フ

第四十三條 前條ノ規定ニ依リ調査委員又ハ補闕員ト爲リタル者ハ前任者
ノ殘任期間を任ス

選舉區域ノ變更ニ因リ新ニ選舉セラレタル調査委員及補闕員ノ任期ハ選
舉區域變更前ニ於ケル調査委員及補闕員ノ選舉期日ノ屬スル月ヨリ四年

ヲ以テ終了ス

第四十四條 ^(五)調査委員又ハ補闕員第三十條第一項各號ノニ該當スルニ
至リタルトキ、第三種ノ所得ニ付納稅義務ヲ有セサルニ至リタルトキ又
ハ其ノ選舉區域内ニ住居セサルニ至リタルトキハ其ノ職ヲ失フ

第四十五條 ^(六)所得調査委員會ノ開會日數ハ三十日以内トシ地方ノ情況ニ依
リ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十六條 ^(七)所得調査委員會ハ稅務署長ノ通知ニ依リ之ヲ開ク
選舉スヘシ

第四十七條 ^(八)所得調査委員會ハ毎年開會ノ始ニ於テ調査委員中ヨリ會長ヲ
選舉スヘシ

第四十八條 ^(九)所得調査委員會ハ定員ノ過半數ニ當ル委員出席スルニ非サレ
ハ決議スルコトヲ得ス

議事ハ出席員ノ多數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ會長ノ決スル所
ニ依ル

第四十九條 ^(十)調査委員ハ自己及自己ト同一戸籍内ニ在ル者ノ所得ニ關スル
議事ニ與ルコトヲ得ス

第五十條 ^(一)八月三十日迄ニ所得調査委員會成立セサルトキハ政府ニ於テ
所得金額ヲ決定ス

所得調査委員會開會ノ日ヨリ第四十五條ノ期間内又ハ八月三十日迄ニ調
査結了セサルトキハ政府ニ於テ調査未済ノ所得金額ヲ決定ス

第五十一條 ^(二)政府ハ所得調査委員會ノ決議ヲ不當ト認ムルトキハ七日以内
ノ期間ヲ定メ之ヲ再調査ニ付ス仍其ノ決議ヲ不當ト認ムルトキ又ハ再調
査期間内ニ調査結了セサルトキハ政府ニ於テ所得金額ヲ決定ス

第五十二條 ^(三)稅務署長又ハ其ノ代理官ハ所得調査委員會ニ出席シ意見ヲ陳
述スルコトヲ得

第五十三條 ^(四)調査委員ニハ手當及旅費ヲ給ス

第五十四條 ^(五)本法施行地ニ於テ利子支拂ヲ爲スヘキ公債又ハ社債ヲ募集シ
タル者ハ遲滯ナク其ノ公債又ハ社債ニ付左ノ事項ヲ記載シタル調書ヲ政

府ニ提出スヘシ

一 公債又ハ社債ノ名稱及其ノ總額

二 利子支拂期限及利率

三 償還ノ方法及時期

四 敷回ニ分チテ拂込ヲ爲サシムルトキハ其ノ拂込ノ金額及時期

第五十五條 第三種ノ所得ニ屬スル俸給給料歳費年金恩給退隱料賞與若ハ此等ノ性質ヲ有スル給與ノ支拂ヲ爲ス者又ハ利益若ハ利息ノ配當若ハ剩餘金ノ分配ヲ爲ス法人ハ命令ノ定ムル所ニ依リ支拂調書ヲ政府ニ提出スヘシ

前項ノ支拂調書ヲ提出シタル者ニ對シテハ命令ノ定ムル金額ヲ交付スルコトヲ得

第五十六條 稅務署長又ハ其ノ代理官ハ調査上必要アルトキハ納稅義務者、納稅義務アリト認ムル者又ハ前條第一項ノ支拂調書ヲ提出スル義務アル者ニ質問スルコトヲ得

第五十七條 稅務署長又ハ其ノ代理官ハ調査上必要アルトキハ納稅義務者又ハ納稅義務アリト認ムル者ニ金錢又ハ物品ヲ支拂フノ義務ヲ有スト認ムル者ニ對シ其ノ金額、數量、價格又ハ支拂期日ニ付質問スルコトヲ得

第五十八條 第二十五條、第五十〇條又ハ第五十一條ノ規定ニ依リ第一種又ハ第三種ノ所得金額ヲ決定シタルトキハ政府ハ之ヲ納稅義務者ニ通知スヘシ

本法施行地内ニ住所又ハ居所ヲ有セサル納稅義務者納稅管理人ノ申告ヲ爲ササルトキハ前項ノ通知ハ公告ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テ公告ノ初日ヨリ七日ヲ経過シタルトキハ其ノ通知アリタルモノト看做ス

第五十九條 納稅義務者前條ノ規定ニ依リ政府ノ通知シタル所得金額ニ對シテ異議アルトキハ通知ヲ受ケタル日ヨリ二十日内ニ不服ノ事由ヲ具シ政府ニ審査ノ請求ヲ爲スコトヲ得前項ノ請求アリタル場合ト雖政府ハ稅金ノ徵收ヲ猶豫セス

第六十條 前條第一項ノ請求アリタルトキハ所得審査委員會ノ決議ニ依

リ政府ニ於テ之ヲ決定ス

所得審査委員會ハ前條第一項ノ請求ヲ爲シタル者ニ對シ其ノ所得ニ關スル事實ヲ質問スルコトヲ得

第五十一條 ^(二)ノ規定ハ所得審査委員會ノ決議ニ之ヲ準用ス
第六十一條 ^(二) 各稅務監督局所轄内ニ所得審査委員會ヲ置ク
所得審査委員會ハ左ノ審査委員ヲ以テ之ヲ組織ス

一 収稅官吏中ヨリ大藏大臣ノ命シタル者三人

二 稅務監督局所轄内各府縣又ハ北海道ニ於テ調査委員ノ互選シタル者府縣ニ在リテハ各一人北海道ニ在リテハ四人

所得審査委員會、審査委員及其ノ補闕員ニ關スル事項ハ本法ニ定ムルモノヲ除クノ外命令ヲ以テ之ヲ定ム

第六十二條 調査委員ヨリ選舉セラレタル審査委員ニハ日當及旅費ヲ給ス
第六十三條 ^(四) 第三種ノ所得ニ付納稅義務アル者收入豫算年額四分ノ一以上ヲ減損シタルトキハ政府ニ所得金額ノ更訂ノ請求ヲ爲スコトヲ得但シ翌年一月三十一日ヲ過キタルトキハ此ノ限ニ在ラス

所得金額決定後贈與ヲ爲シタル爲所得金額ヲ減損シタル場合ニハ前項ノ規定ヲ適用セス

第六十四條 前條第一項ノ請求アリタルトキハ政府ハ所得金額ヲ查覈シ收入豫算年額ニ對シ四分ノ一以上ノ減損アルトキハ之ヲ更訂ス

第六十五條 ^(六) 納稅義務者第六十〇條ノ決定又ハ前條ノ更訂處分ニ對シ不服アルトキハ訴願又ハ行政訴訟ヲ爲スコトヲ得

第六十六條 ^(七) 第一種ノ所得ニ付テハ事業年度毎ニ所得稅ヲ徵收ス但シ清算所得ニ付テハ清算又ハ合併ノ際之ヲ徵收ス

第二種ノ所得ニ付テハ其ノ金額支拂ノ際支拂者其ノ所得稅ヲ徵收シ翌月十日迄ニ之ヲ政府ニ納ムヘシ

第三種ノ所得ニ付テハ所得稅ノ年額ヲ四分シ左ノ四期ニ於テ之ヲ徵收ス但シ納稅義務者納稅管理人ノ申告ヲ爲サシテ本法施行地外ニ住所又ハ居所ヲ移ストキハ直ニ其ノ所得稅ヲ徵收スルコトヲ得

第一期 其ノ年九月一日ヨリ三十日限

第二期 其ノ年十一月一日ヨリ三十日限

第三期 翌年一月一日ヨリ三十一日限

第四期 翌年三月一日ヨリ三十一日限

第六十七條 前條第二項ノ規定ニ依リ徵收スヘキ所得稅ヲ徵收セサルトキ又ハ其ノ徵收シタル稅金ヲ納付セサルトキハ國稅徵收ノ例ニ依リ之ヲ支拂者ヨリ徵收ス

第六十八條 法人解散シタル場合ニ於テ清算所得ニ對スル所得稅又ハ前條ノ規定ニ依リ徵收セラルル稅金ヲ納付セスシテ殘餘財產ヲ分配シタルトキハ其ノ稅金ニ付清算人連帶シテ納稅ノ義務アルモノトス

第六十九條 第六十三條第一項ノ請求アリタルトキハ政府ハ更訂處分ノ確定スルニ至ル迄稅金ノ徵收ヲ猶豫スルニトヲ得

第七十條 第三種ノ所得ニ付二以上ノ稅務署所轄内ニ於テ所得金額ノ決定アリタルトキハ政府ハ納稅義務者ノ住所地以外、住所ナキトキハ居住地以外ニ於ケル所得金額ノ決定ヲ取消スヘシ

第七十一條 第三種ノ所得ニ對スル所得稅ハ納稅義務者ノ住所地、住所ナキトキハ居所地ヲ以テ納稅地トス但シ住所地以外ニ在ル者ハ申告シテ居住地ニ於テ所得稅ヲ納ムルコトヲ得本法施行地ニ住所及居所ナキ者ハ納稅地ヲ定メ政府ニ申告スヘシ申告ナキトキハ政府其ノ納稅地ヲ指定ス

第七十二條 納稅義務者納稅地ニ現在セサルトキハ其ノ所得ノ申告、納稅其ノ他所得稅ニ關スル一切ノ事項ヲ處理セシムル爲納稅管理人ヲ定メ政府ニ申告スヘシ本法施行地外ニ住所又ハ居所ヲ移サムトスルトキ亦同シ

第七十三條 詐偽其ノ他不正ノ行爲ニ因リ所得稅ヲ逋脱シタル者ハ其ノ逋脱シタル稅金ノ三倍ニ相當スル罰金又ハ科料ニ處ス但シ自首シタル者又ハ稅務署長ニ申出テタル者ハ其ノ罪ヲ問ハス

前項ノ場合ニ於テ第三種ノ所得ニ付所得稅ヲ逋脱シタル者ノ所得金額ハ

第二十五條第一項ノ規定ニ拘ラス政府ニ於テ之ヲ決定シ直ニ其ノ稅金ヲ

徵收ス

第七十四條^(五) 正當ノ事由ナクシテ第五十五條第一項ノ規定ニ依リ政府ニ提出スヘキ支拂調書ヲ提出セス若ハ不正ノ記載ヲ爲シタル支拂調書ヲ提出

前項ノ規定ニ依リ處罰セラレタル者ニ對シテハ其ノ提出ニ係ル支拂調書ニ付第五十五條第二項ノ規定ニ依ル金額ヲ交付セス

第七十五條^(六) 所得ノ調査又ハ審査ノ事務ニ從事シ又ハ從事シタル者其ノ調査又ハ審査ニ關シ知得タル祕密ヲ正當ノ事由ナクシテ漏洩シタルトキハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第七十六條^(七) 本法ヲ犯シタル者ニハ刑法第三十八條第三項但書、第三十九條第二項、第四十條、第四十一條、第四十八條第二項、第六十三條及第六十六條ノ例ヲ用キス但シ前條ノ罪ヲ犯シタル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

附則

第七十七條^(八) 本法ハ大正九年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

第三種ノ所得ニ付テハ大正九年分所得稅ヨリ本法ヲ適用ス但シ第五十五條ノ規定ハ大正九年分所得稅ニ付テハ之ヲ適用セス

賞與又ハ賞與ノ性質ヲ有スル給與ニシテ從前ノ規定ニ於テ第三種所得トシテ計算スヘキモノニ付テハ本法施行前ニ於ケル收入金額ニ限り、銀行定期預金又ハ定期預金ノ性質ヲ有スル銀行預金ノ利子ニ付テハ支拂期ノ本法施行前ニアルモノニ限リ大正九年分第三種所得トシテ計算ス

第七十八條^(九) 所得稅法ニ依リ所得稅ヲ課セラレタル法人又ハ所得稅法其ノ他ノ法律ニ依リ所得稅ヲ免除セラレタル法人ノ本法施行前ニ終了シタル各事業年度分ニ屬スル第十三條第一項第四號及第五號ノ所得其ノ他本法施行前ニ於ケル第十三條第一項第四號ノ所得ニ付テハ本法ヲ適用セス

第七十九條^(十) 本法施行前ニ終了シタル法人ノ各事業年度分ノ所得ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル

第八十條^(一) 法人ノ超過所得ニ付テハ本法施行ノ日ヨリ大正十年七月三十

一日ニ至ル間ニ終了スル各事業年度分ノ超過所得ニ限リ本稅ノ七割七分

ヲ増徴ス

大正九年七月一日以後ニ於テ法人ノ事業年度ノ期間ニ變更アリタルトキ

ハ前項ニ該當スル舊事業年度ノ期間内ニ始期又ハ終期ヲ有スル各事業年

度分ノ超過所得ニ付本法ニ依リ所得稅ヲ課シ仍本稅ノ^六七割^一七分ヲ增徴ス

第八十一條 所得調査委員及所得審查委員ニ關シテハ大正十年五月一日迄
ハ仍從前ノ規定ニ依ル但シ從前ノ規定中八月三十日トアルハ九月三十日

トス
從前ノ規定ニ依ル所得調査委員、補闕員及所得審查委員ノ任期ハ大正十
年五月一日ヲ以テ終了ス

第八十二條 第三種ノ所得ニ付テハ大正九年分所得稅ニ限リ第一期ノ納期

ヲ大正九年十月一日ヨリ三十一日限トス

第八十三條 所得稅法ハ當分ノ内小笠原島及伊豆七島ニ之ヲ施行セス

所得稅法ノ施行ニ關スル法律案

右政府提出案本院ニ於テ修正議決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付
候也

大正九年七月十三日

衆議院議長奥繁三郎

貴族院議長公爵德川家達殿

所得稅法ノ施行ニ關スル法律案

第一條 所得稅法ハ朝鮮、臺灣及樺太ニハ之ヲ施行セス

第二條 朝鮮、臺灣、關東州又ハ樺太ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法

人ノ所得稅法第三條第一種甲及丁並第二種乙ノ所得ニ付テハ所得稅法ニ
依ル所得稅ヲ課セス

第三條 朝鮮、臺灣、關東州又ハ樺太ニ於テ所得稅ヲ免除スル各當該地ノ

製造業ヨリ生スル所得ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ所得稅法ニ依ル所
得稅ヲ免除ス

本法ハ大正九年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

酒造稅法中改正法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

大正九年七月十三日

貴族院議長公爵德川家達殿

衆議院議長奥繁三郎

酒造稅法中改正法律案

第一條ノ五第二項ヲ左ノ如ク改ム

左ニ掲タルモノハ味淋ト看做ス

一 前項原料ノ外味淋粕又ハ水ヲ混和シ濾過シタルモノ

二 味淋又ハ味淋ト看做シタルモノヲ粕漉シタルモノ

第一條ノ六中「若ハ甘諸」ヲ「甘諸若ハ味淋粕」ニ改ム

第四條第一項ヲ左ノ如ク改ム

酒類ヲ製造スル者ニハ其ノ造石數ニ應シ左ノ割合ヲ以テ造石稅ヲ課ス

第一種 酒精分二十三度以下ノ濁酒

一石ニ付三十圓

第二種 酒精分二十三度以下ノ清酒白酒及酒精分三十度以下ノ味淋燒酎

一石ニ付三十三圓

第三種 酒精分三十度ヲ超エ四十五度以下ノ燒酎

一石ニ付前號ノ金額ニ酒精分三十度ヲ超ユル一度毎ニ一圓

二十五錢ヲ加ヘタル金額

第四種 酒精分二十三度ヲ超ユル清酒濁酒白酒、酒精分三十度ヲ超ユル
味淋及酒精分四十五度ヲ超ユル燒酎

一石ニ付酒精分一度毎ニ一圓五十錢

第五條中「二十圓」ヲ「三十圓」ニ、「二十三圓」ヲ「三十三圓」ニ改ム

第八條第二項但書ヲ左ノ如ク改ム
但シ命令ノ定ムル所ニ依リ清酒ハ查定石數ノ百分ノ五以内、味淋ハ查定

石數ノ百分ノ二以内、燒酎ハ查定石數ノ百分ノ一以内ノ淬引減量又ハ貯
藏減量ヲ控除スルコトヲ得

附則

○國務大臣(男爵高橋是清君) 唯今議題トナリマシタル法案ニ付キマシテ、其要領ヲ説明致シマス、所得稅法改正法律案ハ曩ニ第四十二議會ニ提出イタシタル所、衆議院ニ於キマシテ其一部ニ修正ヲ、ヘテ之ヲ可決イタシテ、而シテ本院ニ提出イタシマシタガ、議會解散ノ結果、遂ニ不成立ニ歸シマシタノデゴザイマス、然レドモ財政計畫上諸稅ノ收入增加ヲ要シマスルコト、又此收入ヲ圖リマスル爲ニハ、所得稅法改正ノ必要ガゴザイマスルコトハ、既ニ四十二議會當時ト何等其事情ヲ異ニシテ居リマスセヌノデアリマス、依テ茲ニ再ビ本案ヲ提出スルニ至リマシタ次第ゴザイマス、本案ノ内容ニ付キマシテハ、前議會本議場ニ於キマシテ詳細申述べマシテゴザイマスルガ故ニ、此度ハ其要點ノミヲ説明イタシタイト考へマス、第一、法人ノ所得ニ對シマシテ從來所謂源泉課稅ノミニ止メマシテ、配當ヲ受ケタル個人ニ對シマシテハ、何等ノ課稅ヲモ致サナカッタノデゴザイマスルガ、此度ハ之ヲ個人ニ綜合イタシマシテ課稅スルコト、致シタノデゴザイマス、尤モ法人ノ配當ヲ受ケルニ付キマシテモ、相當ノ經營ヲ要スルモノデアリマスルカラ、其配當金ノ二割ヲ控除イタシテ計算スルコトニ致シマシタノデゴザイマス、第二ニハ法人ノ社内留保イタシマスル金額ニ對シマシテ、留保所得トシテ課稅スルコトニ致シタ、第三ニハ法人ノ所得ガ其運用スル所ノ資本ニ對シマシテ年八步以上ノ利廻トナリマシタルトキハ、其部分ニ對シマシテ課稅ヲ爲スコト、致シタ、第四ニハ個人ノ所得ヲ計算スルニ當リマシテ、勤勞所得ニ對スル控除歩合ヲ増加イタシタノデゴザイマス、第五ニハ所得納稅者ノ扶養スル所ノ幼者老者及ビ不具廢疾者ノ數ニ應ジマシテ、一定ノ金額ヲ其所得金額中ヨリ控除スルコト、致シマシタ、第六ニ本稅ノ課稅最低限五百圓ト現行法ニナッテ居リマスルノヲ六百圓ニ引上げマシタ、之ヲ大正七年ノ改正ト通算致シマスレバ結局五割ノ引上ゲトナッテ居ル次第デアリマス、第七ニ從來第三種所得稅ノ税率ハ、最低百分ノ三ヨリ最高百分ノ三十二至ル超過累進率トナッテ居リマスルガ、此度之ヲ改メマシテ、最低百分ノ一ヨリ最高百分ノ四十マデ累進セシムルコトニ改メマシタノデアリマス、第八ニ銀行定期預金利子ニ對シマシテ、新ニ第二種ノ所得ヲバ課スルコト、致シマシタ、第九ニ山林所得ニ付キマシテハ、現行法ハ其伐採ヲスル場合ニ課稅スルコト、ナッテ居リマスルガ、此度之ヲ改メマシテ、立木ノ儘賣却シタル時モ矢張リ之ヲ所得ニ計算スルコトニ

致シ是ト同時ニ山林所得ニ對シマシテ、他ノ所得ト區分シテ別々ニ稅率ヲ適用スルコトニ致シマシタ、以上ハ政府ノ衆議院ニ提出致シマシタルモノ、大體デゴザイマスルガ、衆議院ニ於キマシテハ之ニ對シマシテ、次ニ述ベルガ如ク修正ヲ加ヘマシタ、第一點ハ第三種ノ所得計算上、法人ノ配當金ニ對シマスル原案ノ二割ノ控除ヲ、更ニ一割ヲ増加シテ三割控除スルコトニ改メタノデゴザイマス、第二點ハ第三種ノ所得稅率ヲ改メマシテ、最低百分一トアルノヲ、百分ノ零「コンマ」五ヨリ最高百分ノ四十アルノヲ百分ノ三十六マデ累進セシムルコト、致シタノデアリマス、第三點ハ以上ノ二點ノ修正ニ依リマスル歲入ノ減少ヲ補填致シマスルガ爲ニ法人ノ所得ニ對シマシテ其超過所得及ビ留保所得等ニ課稅致シマスル外ニ、其配當金ニ對シマシテモ、配當金ノ所得トシテ課稅スルコトニ致スノデアリマス、以上ノ修正ハ其歲入ニ於キマシテ殆ド變化ナク、又政府ノ改正法律案ノ大體ノ趣旨ニ於テモ皆反セザルモノデゴザイマスル、依ツテ政府ハ之ニ同意ヲ致シマシタ次第ゴザイマス、以上ハ所得稅ニ對スル改正案ノ大體デゴザイマスルガ、尙ホ此法律案ニ關聯致シマシテ、所得稅ニ付キ内地ト植民地トノ間ニ於キマスル課稅ノ重複ヲ避クルデゴザイマスル、依ツテ政府ハ之ニ同意ヲ致シマシタカラ、此度ハ其要點ノミヲ説明イタシタイト存ジマス、今回ノ改正ハ財政計畫上歲入增加ノ必要ニ依リ酒稅一般ノ稅率ヲ増加スルト同時ニ、酒造稅法ニ付キマシテハ、從來當業者ガ最モ不便ヲ感ジツ、アリマシタル點ニ改正ヲ加ヘマシテ、尙ホ二三法文上ノ不備ヲ補ハムトスルノデゴザリマス、第一ニ酒類稅率ハ大體ニ於テ現在一石二十三圓トアリマスノヲ十圓ダケ引上げマシテ一石三十三圓トスルコトニイタシマシタ、最モ酒精分三十度ヲ超ユル燒酎ニ付キマシテハ其性質及ビ市場取引ノ實狀ニ鑑ミマシテ度數課稅トスルコトニイタシマシタ、次ハ酒造稅ノ納稅保證物ハ從來一石ニ付キ四圓ノ割合デアリマシタガ、此度ハ一石七圓ニ之ヲ引上げルコトニ致シマシタ、尙ホ燒酎ニ付キマシテハ貯藏減料トイタシマシテ、查定石數ノ百分ノ一以内ヲ控除スルコト、致シマシタ、次ニ酒精及酒精含有飲料稅法並ニ麥酒稅法中改正案、是ハ何レモ單ニ稅率ノ改正ノミニ止マスルモノデゴザイマシテ、酒精及酒精含有飲料ハ酒精分一度毎ニ稅率一圓トア

リマスルノヲ一圓五十錢ニ改メマシタ、麥酒一石十二圓トアリマシタノヲ十
八圓ニ改メムトスルノデゴザイマス、次ニ明治四十一年法律第二十四號中改
正ハ、從來沖繩縣及東京府小笠原島、伊豆七島ノ酒造稅率ハ内地ノ三分ノ一
デアリマシタガ、沖繩縣ハ近來民度昂進イタシマシテ、既ニ他ノ諸稅法モ殆
ド全部内地ト同様ニ施行サレテ居リマスルカラ、特ニ酒稅ニ限リマシテ之ヲ
輕減スルノ理由ガナイト認メマシテ、内地ト同様ニスルコト、イタシマシタ、
是ト同時ニ沖繩縣酒類出港稅則ハ其必要ガナクナリマシタカラ、之ヲ廢止セ
ムトスルノデゴザイマス、以上ハ增稅計畫ニ對スル大體ノ説明デゴザイマス、
審議ノ上御協贊アラムコトヲ切ニ希望イタシマス

〔矢口長右衛門君發言ノ許可ヲ求ム〕

○議長(公爵德川家達君) 矢口君ハ何ンデスカ

○矢口長右衛門君 質問デアリマス

○議長(公爵德川家達君) 通告ガゴザイマスカラ、暫ク御待チヲ願ヒタイ、
是ヨリ通告順ニ依リマシテ發言ヲ許シマス、東鄉男爵

〔男爵東郷安君演壇ニ登ル〕

○男爵東郷安君 私ハ唯今提出ニ相成リマシタ所得稅法案並ニ酒稅法案其他
ノ改正案ニ付キマシテ、此際二三ノ質問ヲ致シタイト思フノデアリマス、唯
今大藏大臣ヨリ御説明ガゴザイマシタ通り、改正案ノ提出理由ハ一ツニハ國
防計畫ニ屬スル新規要求ニ應ズル財源ヲ得ンガ爲メト、今一ツハ今次ノ大戰
ニ依ル國家經濟上多大ナル變化ニ應ズルガ爲メ、新ニ社會政策的意義ヲ加味
シタル稅制ヲ實施致シタイト云フ、此二ツノ理由ニ基キマシテ改正案ヲ御提
出ニナッタノデアリマス、從ツテ所得稅ノ實質ニ立入ッテ是カラ我ミガ審議ヲ遂
ゲマスニ先チ、此提出ノ理由トナッテ居ル所ノ國防充實計畫ト、社會政策トニ
付テ相當ノ考慮研究ヲ試ムルノ必要ガアルコトハ茲ニ改メテ申上ゲルマデモ
ナイコト、信ジマス、斯ノ如ク今回ノ改正案ハ其關スルトコロ極メテ廣汎デ
アリマシテ、單リ所得稅法ノ改正ニ止マリマセヌ、又其他附帶ノ諸稅法ノ改
正ニ止マリマセズ、汎ク國防計畫、並ニ百般ノ社會政策的事項ニ亘ッテ居ル
ノデアリマスカラ、我ミトイタシマシテハ此際最モ慎重ナル態度ヲ以テ研究
シ、社會各方面ノ須要ニ應ズル必要ガアルノデアリマス、而シテ其ノ總テノ
事項ニ亘リマシテ、此處ニ私ノ抱イテ居ル質疑ノ全部ヲ提出イタシマスルノ
ハ、今日ノ場合甚ダ諸君ニ對シ恐れ多イコトデアリマスカラ、今日ハ唯其中

ノ主ナル提出理由トナッテ居リマスル國防充實計畫、就中新規要求ニカ、ル海
軍計畫ニ付テ海軍當局ノ御説明ヲ煩ハシタイト思フノデアリマス、併シ此質
疑ハ私個人ノ質疑デアリマス、決シテ何等他ノ意見其他ヲ代表シテ居ルノデ
ハアリマセヌ、從ツテ極メテ貧弱デアリ且ツ素人論デアリマスカラ、此點ニ付
テハ豫メ諸君ノ御諒恕ヲ願ツテ置キタイト思フノデアリマス、然ラバ私ガ何故
是等ノ質疑ヲ提出イタスノデアルカ、又私ノ質問ノ目的ハドウ云フ所ニアル
ノカト云フコトニ付テ、豫メ御了解ヲ得テ置クコトハ此際極メテ必要デアラ
ウト存ジマスカラ、聊カ茲ニ二三言ヲ費シテ置キタイト思フノデアリマス、
元來去ル二月二十六日突如トシテ衆議院ガ解散ニナリマシテ、其結果今次ノ
臨時議會ヲ召集セラル、ニ至リマシタ、從ツテ今回提出セラレタル追加豫算ノ
性質内容ニ就テハ、憲法上會計法上其ノ範圍、其ノ經費ノ實質ニ付テ極メテ
限局セラレテ居ルコトハ、前日目賀田男爵ヨリ當壇上ニ於テ徹底的ニ且ツ的
確ニ而シテ極メテ意味深長ナル御質問ガアリマシタカラ、私ハ此點ニ付テハ
重ネテ辯ヲ費ス必要ハナイト信ジ、此處ニ諸君ト俱ニ目賀田男爵ノ御論ニ對
シ敬意ヲ以テ反覆イタサヌノデアリマス、次ニ私ハ今回改正案ノ提出ニ至リ
マシタ理由、即チ提出イタサレマシタル經緯ニ付テ暫ク考ヘテ見タイト思フ
ノデアリマス、御承知ノ通リ二三年此方經濟界ハ非常ナル好景氣デアリマシ
タ、ソレガ爲メ何ンデモカンデモ諸色ガ昂ガル一方デアリマシタ、ソコデ當
局ニ於キマシテハ昨年來此好景氣ノ絶頂ヲ目懸ケテ、多年計畫サレテ居リマ
シタ所得稅ノ根本的改正ヲ企テ、斯ル場合ニハ常ニ、有ラユル手段ヲ以テ反
對ヲ事トスル、資本家諸君ノ口實ヲ成ル可ク少ナカラシムル爲ニ、此好景氣
ヲ目懸ケテ今回ノ如キ根本的改革、換言スレバ社會政策的ノ意味ニ於テ、資
本家ニ不利ナル條件ヲ有ツテ居ル改正案ヲ、一氣呵成ニ通過セムト試ミタノデ
アリマス、而シテ財務當局ニ於カレマシテハ、先日目賀田男爵ガ御指摘ニナ
リマシタル通り、年々莫大ナル自然增收ガアルニモ拘ハラズ、之ヲ棄テ、顧
ミズ新ニ今度國防充實計畫ニ屬スル新規要求ニ應ズルガ爲、此增徵案ヲ提出
セラレタノデアリマス、則チ政府ハ國防計畫ニ屬スル新規要求ノ財源ニ供ス
ルノデアルト言フ名義ヲ以テ、一氣ニ此ノ重要ナル根本的改革案ノ通過ヲ試
ミラレタノデアリマス、而カモ當局ノ魂膽ハ之ニ止マラズ、是ダケデハ未ダ
對議會策トシテ安心ガ出來ナイト云フ御積リデアリマシタラウカ、更ニ名ヲ
國防充實財源ニ藉リテ、國防計畫ニ對シテハ容易ニ人ミガ反對出來ナイト云

フ關係ヲ見テ、ソレト是レトヲ彼此結付ケタナラバ、恐ラク議會ノ通過ハ容易デアリ安全デアルト云フ、極メテ周到ナル御畫策ノ下ニ、此改正諸案ヲ御提出ニ相成ツタコト、想像スルノデアリマス、然ルニ幸カ不幸カ第四十二議會ハ解散ニナリマシテ、提出中ノ所得稅其他關係諸法ノ改正案ハ葬リ去ラレテシマツタノデアリマス、而シテ議會解散後アノ好景氣デアッタ所ノ財界ハ間モナク急轉直下ノ勢ヲ以テ、非常ナル悲境ニ陥ツテ來タノデアリマス、即チ大小ノ成金ハ勿論、堂々タル富豪ニ至ルマデ皆何レモ大小幾許カノ手傷ヲ負ヒ、苟モ商工業等產業ニ從事セルモノハ何等カノ形ニ於テ、殆ド皆手傷ヲ蒙ラナカッタ者ハナイト断ズルモ、敢テ過言デナイ位ナ痛擊ヲ蒙タノデアリマス、是ハ今私ガ改メテ茲ニ諸君ニ申上ゲル迄モナイ次第デアリマス、而カモ今日ハ是等榮耀榮華ヲ盡シテ居ツタ資本家階級ノミナラズ、戰時中ヨリ非常ナル物價騰貴ノ爲メ大ニ困難ヲ嘗メ來タ所ノ所謂中產階級、並ニ戰時中好景氣デアッタ勞働者階級ニ至ルマデ、日用必需品ニ關スル物價ガ一向下落セザルガ爲メ戰時中ヨリ引續キ今日ニ至ル迄モ依然トシテ生活上ノ苦痛不安ヲ免カルルコトガ出來ナイノデアリマス、即チ今ヤ社會ノ上下ヲ通ジ、悉ク其ノ生活ノ安定ヲ脅サレテ居ル有様デアリマス、此點ニ付キ私共ハ今日最モ憂慮スペキコトデアルト信ズルノデアリマス掲テ加ヘテ世界大戰ノ影響ハ、各國ノ思想界ニ絶大ナル動搖ヲ與ヘ、延イテ我國ノ思想界精神界ニモ極メテ不安ナル影響ヲ及ボシマシタコトハ、是亦諸君ノ既ニ御了解ニ相成ツテ居ル所デアラウト思ヒマス、斯ノ如ク我國ノ現狀ハ物質上カラモ精神上カラモ極メテ不安ナル狀態ニアルノデアリマス、從ツテ此際爲政者ガ若シ一步ヲ誤ツテ其政策ヲ取違ヘマシタナラバ、茲ニ最モ重大ナル悲ムベキ危險ニ遭遇スベキ形勢デアルコトハ、今日迄屢々諸君ノ御耳ニ達シテ居ルコトデアラウト存ジマス、斯ル險惡ナル社會的不安ノ空氣ガ漲ツテ居ル、此時此際ニ當リ所得稅ノ根本的改正案ヲ提出セラレ、而カモ政府ノ原案ハ前回ト何等ノ變化ナク、其ノ理由トスル所モ何等ノ差違ナク、前回其儘ニ提出サレテ居ルノデアリマス、然ラバ私共ハ立法府ノ一員トシテ、一般國民ト政府トノ間ニ立ツテ、此社會的ニモ經濟的ニモ種々困難ナル事情ノ輻湊セル間ニ立チ、果シテ如何ニセバ最モ能ク國民一般ノ幸福安寧ヲ増進スルコトガ出來ルカ、又一面ニ於テハ、如何ニセバカ、或ハ又、此兩者ヲ何レノ程度迄互ニ讓合ハセ得ベキカ、是等ノ諸點ニ付、

此機會ニ於テ私共ガ最モ慎重ニ且ツ最モ周密ナル研究考慮ヲナスベキハ、當ニ吾人ノ大ニ努ムベキ仕事デアリ、本務デアリ義務デアルト思フノデアル、斯クスルコトガ實ニ國民ノ爲ヲ圖ツテ忠ナル所以デアルト信ズルノデアリマス、貴族院ハ從來ノ關係上國防計畫ニ對シ、餘り強イコトヲ言ヘナイ立場ニアル行懸リモアル因縁モアル所ニ御記憶ヲ繰ツテ見マシタケレドモ、私ノ點ニ付テ相當調査モシ考慮モシ又自分ノ記憶ヲ繰ツテ見マシタケレドモ、私ノ國防計畫ニ付、我々ハ明治四十年、先帝陛下ガ御策定相成リマシタ國防ノ根本方針、即チ陸軍ニ於キマシテハ二十五箇師團、海軍ニ於キマシテハ八八艦隊完成ノ爲ニ、ニ、十數箇年ニ亘リ、貴族院ノ諸公ガ歷代内閣ヲ通ジテ屢々懇切ナル指導ヲ與ヘ、當局ガ往々踏距逡巡シテ豫算ノ提出ヲ躊躇シテ居ルノヲ鞭撻シテ、出來ルダケノ便宜ヲ與ヘ、出來ルダケノ助力ヲ與ヘタ事實ガアルノハ、是ハ諸君ノ御記憶ニ尙新タル所デアラウト存ジマス、併シ此經濟ヲ以テ直チニ貴族院ガ國防計畫ニ囚ハレテ居ルト断ズルノハ甚ダ早計ニ失スルト思フノデアリマス、即チ我々ハ國防計畫並ニ其ノ實施ニ要スル豫算協賛上ニ何等囚ハレテ居ル者デハナイ、何等ノ拘束ヲ受ケテ居ルモノデハナイ、又何等傳統的ニ國防計畫ニ對シテ隊ヲ差揮シテハナラヌト云フ理由ハナイノデアリマス、加フルニ明治四十年ニ御策定ニ相成リマシタル國防上ノ大方針中、當時ノ戰略單位タル陸軍ノ一個師團ノ兵力ト今日ノ所謂一個師團ノ兵力トハ全クト思ヒマス、斯ノ如ク我國ノ現狀ハ物質上カラモ精神上カラモ極メテ不安ナル狀態ニアルノデアリマス、從ツテ此際爲政者ガ若シ一步ヲ誤ツテ其政策ヲ取違ヘマシタナラバ、茲ニ最モ重大ナル悲ムベキ危險ニ遭遇スベキ形勢デアルコトハ、今日迄屢々諸君ノ御耳ニ達シテ居ルノデアリマスカラ、固ヨリ彼レト是トヲ比較スルコトハ困難デアリマスケレドモ、大體ニ於テ國軍ノ主力部隊タル歩兵及ビ砲兵部隊ノ實力ニ微シテ見マシタナラバ、四十年御策定當時基準トセラレマシタ二十五個師團ノ兵力ハ既ニ業ニ大略其實力ヲ充シテ餘リアルノデアリマス、次ニ海軍ニ於テモ八八ト艦ノ數ヲ以テ御策定ニ相成テ居リマスルカラ、茲ニ申上ゲルコトヲ省略致シタイト思フノデアリマス、要スルニ我々ガ明治四十年以來軍事當局ノ爲ニ、極メテ懇切ナル態度ヲ以テ國防ノ充實ニ貢獻シリマス、此說明ハ稍々數字的ニ漠ト致シテ居リマスガ、是レ以上ノ説明ハ熊トタガ爲メ、陸海軍ヲ通ジテ今日迄ニ恰ド其ノ豫定ノ計畫全部ノ完成ニ近イ所迄進ミ來ツテ居ルト云フコトヲ申上ゲテモ、決シテ過言デナイト思フノデア

リマス、從テ又我ニ國防計畫ニ對シ何等ノ行懸リモナク、何等ノ拘束モナイト見ルノガ至當ナル見解デアルト信ズルノデアリマス、今ヤ世界大戰以來世界ノ形勢ニ非常ナル大變革ヲ生ジ、就中東洋ニ於ケル形勢ハ一變シ、從來ノ國防計畫上變更ヲ要スルモノ極メテ多岐多端ニナツテ來タノデアリマス、加之大戰ニ因ル兵器其他各種武器ノ進歩發達ニ促サレテ我國ノ國防モ亦大ニ其計畫内容ヲ變更セナケレバナラヌ必要ニ迫ツテ來タノデアリマス、即チ今回提出ニ相成リマシタル陸軍充實計畫ノ全部並ニ海軍計畫中、主力艦計畫及ビ之ニ附帶ノ經費ヲ除キテハ、大體ニ於テハ新規ノ要求デアル、新時代ノ形勢ニ基ク計畫デアルト見テ差支ナイノデアリマス、即チ今回ノ國防豫算ヲ以テ、我ガ國防上真ニ時代ヲ劃スペキ新計畫ニ入ルノ時期デアルト見テモ、敢テ不當デナイト信ジマス、此點カラ見マシテモ、我ニ議員ハ今回提出ニカ、ル國防豫算ニ付テ、何等其内容ヲ審査スル所ナク、何等其ノ根本方針ニ付テ窺知ル所ナクシテ盲判ヲ捺スコトハ、上ハ陛下ニ對シ奉リ、下ハ國民ニ對シテ我ノ職責ヲ盡ス所以デナイト信ズルノデアリマス、私ハ微力ト雖モ此點ニ付キ極力我ニノ最善ヲ盡シテ、出來得ル限り慎重ナル審査ヲ試ミタイト思フノ豫算ニ付テ、何等其内容ヲ審査スル所ナク、何等其ノ根本方針ニ付テ窺知ル所ナクシテ盲判ヲ捺スコトハ、上ハ陛下ニ對シ奉リ、下ハ國民ニ對シテ我

アリマス、唯是ヨリ軍事當局ニ向ツテ質問ヲ發シマスル事項ハ、軍事當局トシテハ極メテ御迷惑ナコトデアラウカト思ハレマスガ、決シテ軍機ノ祕密ニ瓦ルヤウナコトヲ申上ゲル譯デハアリマセヌガ、單ニ素人論トシテ難駁ナ議論ヲ申上ゲルコトハ、當局ニ取ッテ必ズ御迷惑ノ點ガ多イトハ存ジマスガ、是ハ私ノミナラズ、此機會ニ汎ク一般國民ニ御教ヘニナル意味ヲ以テ、國民ノ國防デアル、國民ノ爲ニ國防ノ内容ヲ知ラシテヤルト云フ點ニ重キヲ置カレマシテ、ドウゾ成ベク御懇切ナル御教ヘヲ賜ハラムコトヲ特ニ御願ヒスル次第デアリマス、尙モウ一ツ私ハ此際御斷リヲ申上ゲテ置カナケレバナラヌコトガアリマス、私ハ今日ノ一般國防方針ニ對シ、ドウ云フ考ドウ云フ態度ヲ有ツテ居ルカ、此コトヲチヨット申上ゲテ置キマセヌト、或ハ思ハザル誤解ヲ惹起シ、當局其他皆サンニ御迷惑ヲ掛ケルコトニナラヌトモ限リマセヌカラ、暫ラク此點ニ關シ數言ヲ費スコトヲ御許シアラムコトヲ希望イタシマス、私ハ今日ノ世界ノ大勢、帝國四圍ノ狀況ニ鑑ミ、國防ノ充實ハ我國ノ存立上極メテ必要ナルコトデアルト確信致シマス、彼ノ世間平和論者ガ申スガ如ク、軍備縮小、軍備制限若クハ撤廢ト云フコトニ付テハ、斷ジテ反對ノ意見ヲ持ツノデアリマス、併ナガラ是ト同時ニ、今日ノ軍事當局ニ對シテハ、從來ノ計畫竝ニ、今日御計畫ニナツテ居ル計畫ノ實質ニ付キ遺憾ナガラ甚ダ不徹底デアリ、小規模デアルト思フノデアリマス、世界ノ大戰ハ各國國防計畫ニ對シテ、非常ナル動搖變革ヲ齋ラシ來ツタコトハ唯今申上ゲルマデモナイコトデアリマス、殊ニ今次ノ大戰ハ所謂國家總動員ノ絕對的必要ヲ、徹底的ニ各國民ニ大戰ヲ吊ツタ軍人ニノミ任カシテ居ル、偶、兵役ニ取ラルレバ、其間國防ノ爲ニ如何デアリマスカ、國民ト國防トハ殆ド何等相關セザルガ如ク、國民ハ國防ニ對シ殆ド無關心ノ狀況デアル、國防ト申シマスレバ「サー・ベル」ヲ下ゲ、短剣ヲ吊ツタ軍人ニノミ任カシテ居ル、偶、兵役ニ取ラルレバ、其間國防ノ爲ニ義務ヲ盡スト云フ位ナ、極メテ低級ナ、極メテ貧弱ナル考ヲ有ツテ居ルノデアリマス、私ハ此點ニ付テ國民ガ今日マデ其態度ガ甚ダ宜クナカツタト思フノデドモ畢竟スルニ矢張リ國防ニ對シ斯ウ云フ考ノナイ、「インジフェント」ナアリマス、彼ノ動モスレバ軍人ト見レバ何人ヲ問ハズ、軍閥呼バリヲスル人ナシテハ極メテ御迷惑ナコトデアラウカト思ハレマスガ、決シテ軍機ノ祕密ニ全ニシテ徹底的ナル國防計畫ヲ組織シ能ハザルモノデアルト思フノデアリマス、故ニ今後我國ノ國防ハ、宜シク全國民ノ利益ヲ考慮シ、國家ノ全經濟組織ノ上ニ鞏固ナル基礎ヲ有スル大規模ノ計畫ニ依ラナケレバ、到底完ドモ畢竟スルニ矢張リ國防ニ對シ斯ウ云フ考ノナイ、「インジフェント」ナヨリ宜シウゴザイマスガ、併シ彼等ハ一體何ヲ改造スルノデアリマスカ、何ヲ改造セムト企圖シツ、アルノデアリマスカ、其ノ内容ニ立入ッテ見マスレバ、殆ド荒漠トシテ捉ウル所ガナイノデアリマス、私ハ此點ニ付テ、彼等急進論者ノ爲メ極メテ惜ムノデアル、私ハ今日我國ニ於テ最モ改造ノ急ヲ要スルモノガアリトスレバ、實ニ先刻來申上ゲマシタ所ノ、國家存立ニ關スル大目的ヲ經トシ、產業組織ノ基礎ヲ一層健實ナラシメ、國民的活動能力ヲ極度ニ發揮セシムベキ政策ヲ締トスル、官民一致ノ協同動作ヲ、一日モ速カニ實現セシムル手段方法ヲ講ゼザルベカラズト信ズルノデアリマス、併ナガラ此コトハ餘リ長ク申上ゲマセヌ、時間ヲ取リマスカラ此位ニ切上ゲマス、而シテ以上申上ゲマシタコトハ、要スルニ是ハ國防方針ニ對スルノ理想デアリマス、之ヲ以テ今直ニ其主義ヲ實行シヤウト、軍事當局ニ迫ル譯デハナイノデアリマス、即チ私ハ何等ノ顧慮何等ノ割引モナク此理想ニ向ツテ直進セントスル積リデハアリマセヌ、凡ソ物ニハ順序アリ、手段モアルデアリマス、彼ノ維新以來古キ歴史長キ沿革、厖大ナル組織ヲ以テ存立シ來ツテ居ル今日

ノ軍事機關ハ、一朝一夕ニ此理想ニ向ッテ改造ヲ斷行スルコトガ出來ナイコトハ、是ハ申スマデモナイゴトデアル、唯今後ハ成ルベク此理想ニ基キ、諸般ノ國防計畫ヲ實行致シタイ、是ハ單リ軍事當局ニ向ッテ希望スルノミデナイ、我ニ一般國民ガ其決心ヲ取ラケレバナラヌト、斯ウ思フノデアリマス、言葉ヲ換ヘテ申シマスレバ、今日マデノ國防計畫ハ、唯單ニ軍人ノ實行シ計畫スル範圍ニ止ムテ居ルノデアリマスルガ、私共ノ新ニ申シマスル國防ノ意味ハ、苟モ帝國ノ國民デアリ帝國ノ領土内ニアル所ノ、生キトシ生ケル者ハ無論ノコト無生物ニ至ルマデ、又精神力ノ如キ目ニ見エナイモノ迄モ、一切合切ヲ蒐メテ、之ヲ將來ノ國家總動員ノ目的ノ爲ニ、豫メ組織按配ヲシテ置クコトガ、今日ノ國防ノ第一義デアル、戰後經營上國策ヲ樹立スルコトヲ必要トルナラバ、正ニ此主義ヲ以テ其ノ第一義トスルコトガ、極メテ必要デアルト申スノデアリマス、併ナガラ主義ト實際トハ違ヒマス、此主義ヲ有ッテ居ルト云ウテ、此度提出セラレムトスル九年度ノ豫算ヲ、此主義ノ爲ニ理想化セムト試ミルモノデハアリマセヌ、唯此考ヲ以テ現實ノ問題デアル、九年度ノ國防ヲ研究シテ見タイト思フノデアリマスカラ、其點ニ付テハドウカ御誤解ノナイヤウニ願ヒマス、今一度繰返シテ申上ゲマスレバ、國防ノ必要ハ一日モ忽諸ニ付スベカラズト能ク人ガ申シマスガ、私モ同意デアリマス、併ナガラソレハ主義ノ問題デアリマス、一日モ忽諸ニスベカラズト云ッテ、直チニ九年度ノ豫算ヲ丸呑ミニ致シテ、何等審査ヲ行ハズトモヨイト云フ論理ニハ直チニ歸著シナイノデアリマス、此點ハドウカ皆様モ徹底的ニ御諒解アラムコトヲ希望致シマス、以上甚ダ長イ前置ヲ申上ゲマシテ洵ニ相濟ミマセヌ次第デアリマス、此種ノ國防ニ關シマスル論議ハ、貴族院ニ於キマシテハ、私ハ承知致シマス範圍ニ於テ、極メテ其數ガ稀レデゴザイマス、又私ト致シマシテモ諸君ノ前ニ立チ、一般國民ノ前ニ立チマシテ、斯ノ如キコトヲ申シマスノハ實ハ初メテ、ゴザイマス、從ツテ餘分ニ長タラシク唯今マデノコトヲ申上ゲマシタノハ、一方ニ於テハ誤解ヲ避ケ、又一方ニ於テ私ガ是カラ御質問申上ゲヤウト思フノハ、ドウ云フ考ニ基イテ居ルカ、ドウ云フ頭デサウ云フコトヲ申スノデアルカト云フコトニ付テ、皆様ノ御諒解ヲ得ムガ爲ニ、斯ク御清聽ヲ煩ハシマシタ次第ゴザイマス、是ヨリ私ハ海軍大臣ニ對シ、九年度ノ追加豫算ニ提出致サレマシタ國防計畫、殊ニ主力艦計畫ニ付テ二三ノ質問ヲ致シタイト思ヒマス、第一ニ艦齡ノ計算ニ付キマシテ御尋ネ致シタイト思

ヒマス、所得稅改正問題ガ朝野囂々トシテ論議サレテ居リマス内ニ、所得稅法一年延期ヲ希望スル論者モアリマス、又之ニ伴ヒ之ト密接ノ關係アル國防計畫ヲモ亦一年延期ヲシタイト云フ議論モアルノデゴザイマス、併ナガラ彼等ノ云フコトノ多數ハ、何等特別ノ根據ニ基キ國防計畫延期ヲ主張スルモノデナイト私ハ認メテ居ルモノデアリマスガ、之ニ對シ海軍當局ハ、十六年度末迄ニ、八八艦隊ノ完成ヲナシナケレバ甚ダ困ルノダト云ッテ、艦齡ノ點カラ駆擊ヲ加ヘラレテ居リマス、是ハ衆議院ノ委員會ノ質問ニモ出テ居リマス、又世間ニモ度々御發表ニナッテ居リマス、海軍當局ノ御趣意ヲ申シマスレバ、「我海軍ハ大正十六年度末ニ至リテ主力單位トシテ戰艦長門、陸奥、加賀、土佐ノ四隻ニ、今回要求スベキ四隻ヲ加フル八隻ト、巡洋戰艦天城、赤城、愛宕、高雄、ノ四隻ニ新計畫ノ四隻ヲ加ヘテ八隻トシ、以テ第一期艦齡ニアル八八基本艦隊ヲ完成セントスルモノナルガ、今若シ此計畫ヲ一箇年延期ストセバ、大正十六年度末ヲ以テ第一期艦齡ヲ丁ルモノノ戰艦ニ長門、陸奥アルヲ以テ、差當リ大正十七年度末迄ニ八八ヲ整備セムニハ、此年度マデニ此二隻ノ代艦ヲ建造セズンバ、大正十七年迄ニ完全ナ八八艦隊ヲ得ルコト能ハズシテ、結局八六艦隊ヲ得ルニ過ギズ、而カモ其數ハ僅カニ隻ナリト雖モ、我現在ノ造船能力ニテハ大正十七年迄ニ補充艦二隻ヲ建造スルガ如キコトハ思ヒモ依ラズ」云々斯ウ申サレテ居ルノデアリマス、此文字ノ末ハ扱テ措キ意味ニ於テ大體ドノ場合ニ於テモ同ジ様ニ申サレテアリマス、私ハ此點ニ付テ海軍大臣ニ伺ツテ見タイノデアリマス、實際ノ計畫進行上ヨリ申セバ、唯今述べマシタ中ノ、戰艦陸奥ハ、本年五月ニ横須賀デ盛大ナル進水式ヲ舉ゲラレタス、即チ十七年度ニ於キマシテハ陸奥ハマダ第一期ニ在ルノデアリマス、然コトハ、諸君御承知ノ通リデアリマス、然ラバ其竣工ハ十六箇月後ノ大正十一年九月ニナリ、從ツテ第一期艦齡ヲ了リマスノガ大正十八年度ノ半デアリマス、即チ十七年度ニ於キマシテハ陸奥ハマダ第一期ニ在ルノデアリマス、然ルニ海軍當局ハ第二期ニ這入ルト申サレルノデアリマス、又諸君ノ御手許ニ配付サレテ居リマス、軍艦艦齡表ニヨリマシテモ、明カニサウ書イテアルノデアリマス、併シ實際ノコトヲ申上ゲマスレバ、サウ云フ計算ニナルノデアリマス、從ツテ大正十八年カラ陸奥ハ第二期ニ這入ルノデアリマス、長門モ本デアリマス、第一期艦齡ヲ終ラヌノデアリマス、依ツテ大正十七年度ノ始メノ三分ノ二ダケバナ月頃ニハ竣工スル豫定デアリマスカラ、大正十七年ノ十月デナケレバ第一期艦齡ニ當然這入ツテ居リマス、アトノ三分ノ一ダケハ……四箇月第二

期艦齡ニ這入ルノデアリマス、從ツテ若シ此四箇月ヲ宥恕スルナラバ長門ハ矢張リ陸奥ト同ジク、第二期ニ這入ルノハ大正十八年度カラト申サレルノデアリマス、此四箇月ヲ宥恕スルノハドウカト申スコトハ、既ニ先例モゴザイマシテ、扶桑其他ニ於テモ既ニ諸君ガ御認メニナツテ居ル所デアリマス、加之全艦齡ヲ二十五箇年ト致シ、其内ノ最初ノ二期ヲ八箇年宛ニ分ケテ艦齡ヲ計算スルコトハ、是ハ御承知アラセラレマスル通り、大隈内閣當時ニ於ケル防務會議ノ際、確定シタコトデアリマス、是トテモ今日迄必ズシモ嚴格ニ守ラレテ居ラス、假ニ守ラレテ居ルトモ、何モ八年ト九年トガサウサウ明確ニ艦ノ勢力ニ差違ヲ生ズキモノデナイト云フコトハ、是ハ事理ノ當然デアリマス、即チ艦齡ノ一年位ハ他ニ緊要ナル事由ガアリマスレバ、必ズシモ忍ベナイコトハナイノデハナイカト、斯ウ云フ疑ヲ私ハ持ツテ居ルノデアリマス、其他現在既ニ起工シ、若クハ起工準備中デアル戰艦、加賀、土佐ノ如キハ、何レモ大正七年度ニ起工スル豫定デアリマシタガ、加賀ハ本年十月頃、土佐ハ本年二月ニ起工サレテ「キール」ヲ据エタノデアリマス、其竣工ハ加賀ハ大正十二年度半、土佐ハ、大正十一年度終リニ竣工シ、從ツテ第一期艦齡ヲ終ルノハ加賀ハ二十年度ノ半、土佐ハ、大正十九年度ノ終リデアリマス、即チ豫定計畫ガズット下ッテ來テ居リマス、此表ノ線ガ豫定ヨリ下ッテ居ルノデアリマス、其他天城、赤城ノ二巡洋戰艦ニ於キマシテモ、八年度ニ起工致サルベキモノガ尙ホ未ダ著手サレテ居ラナイ狀況デアリマス、斯ノ如ク考ヘテ見マスルナニコダワツテモ、先刻讀上ゲマシタヤウナ意味ヲ以テ海軍當局ガ延期論ヲ駆スル爲メ、艦齡論ヲ主張セラル、コトハ、海軍ノ爲メニ誠ニ取ラザル所デアリ、且ツ事實ニ相違スルト思フノデアリマス、此點ニ付テ當局ノ懇切ナル御辯明ヲ煩ハシタインデアリマスト、次ニ、軍艦ノ製造能力ノ方面カラ、此今回ノ計畫ガ延期ヲ許サナイモノデアルカ、ドウカト云フコトノ研究ヲ致シテ、其結果ヲ御尋ネ致シタイト思フノデアリマス、諸君ノ御手元ニ配付サレテ居リマス海軍ノ豫算書ヲ御覽ニナリマスト、我國ノ軍艦製造費ハ、大正三年即チ戰前ノ頃當リノ直段ヲ基礎トシテ、本年ハソレニ七割ヲ掛ケ、大正十年以後ハソレニ二割ヲ掛ケテ、繼續費トシテ要求サレテ居ルノデアリマス、此計畫ガ果シテ宜イカ惡イカ、殊ニ大正十年度、即チ來タルベキ冬ノ議會ノ豫算ニ提案サルベキモノ、及ビ其以後ノ計畫ガ僅ニ戰前ニ比ベテ二割ノ増加シカ見込

ンデナイト云フコトガ、果シテ適當ナル計算ノ仕方デアルカ、ドウデアルカ、其間ニハ相當ノ魂膽ガアル、斯ウ思ハレテモ仕方ナイデハナカラウカト思ハレマス、併シ是ハ本論デアリマセヌ、又茲デ強ヒテ御尋ネ致シマセヌ、唯私ハ戰前ノ値段ニ或物價騰貴ノ率ヲ掛ケテ、今年ノ豫算及ビ其以後ノ豫算ヲ請求サレマスガ、是ハ要スルニ海軍工廠デ御造リニナル値段デ、民間ニ御出シニナル上ニ付テハ、今少シ餘裕ヲ取タモノヲ御出シニナルカノ如ク伺ツテ居ル、併ナガラ民間ノ造船所ニ於テハ尙ホソレデモ足ラナイノデアル、殆ド海軍ハ自分ノ工廠デ造ルト同ジ單價、同ジ値段ヲ以テ民間ニ注文セラレルト言ツテモ過言デナイ程度ノ餘裕シカ、民間ノ注文ニ對シテ御興ヘニナラナイ、從ツテ營利事業デアリマス以上ハ、此引合ハナイ、動モスレバ損失ニナル、若クハ實行不可能ニ陥ル注文ニ對シテ出來ルダケ手ヲ締メテ、經濟上若クハ精神的ニ、成ルベク此海軍ノ計畫ニ對シテ敬遠主義ヲ取ルト云フコトハ採算上已ムヲ得ナイ、又實際サウ云フ嫌ヒガアルカノ如ク私ハ仄聞シテ居ルノデアリマス、然ラバ將來民間ノ造船能力ニ對シテ相當ノ擴張……其能力ヲ向上セシムルコトガ必要デアル、即チ若シ造艦計畫ガ逼迫シテ來テ……詰ツテ來テ、ドウシテモ早ク工程ヲ進ムル必要ガアルナラバ、豫算ノ上ニ於テ相當ノ餘裕……營業費、諸償却金、相當ノ利潤等ニ對シテ相當ノ餘裕ヲ御興ヘニナツテ、彼等ニ對シテ出來ルダケノ能力ヲ發揮セシムルト云フコトガ極メテ必要デナイカト思フ、海軍工廠ニ於ケル設備ニ於テモ同様デアリマス、是ハ姑ク論ジマセヌ、又一面海軍ノ既定計畫ニ屬シマス所ノ豫算ノ上カラ研究イタシテ、今日マデノ、既定計畫ニ屬スル海軍ノ造艦能力ハドノ位カト言ブコトヲ考ヘテ見マスルナラバ、大正十年ニ於テ始メテ我國ノ造艦能力ガ、一隻ト七分ニナルト私共ハ調査イタシテ居リマス、即チ既定海軍計畫ノ繼續費ダケヲ見マシテモ、七年ヨリ十二年度ニ至リマス内、十年度ニ於テ最モ澤山ノ豫算ガ計上サレテ居ルノデアル、是レ即チ海軍大臣ガ前年當院ニ於キマシテ、凡ソ大正十年頃ニナツタナラバ更ニ新タル要求ヲ提出スルカモ知レナイト言ハレタ、理由ノ一ツデナカラウカト思フノデアリマス、即チ今日ハ大艦ヲ造リマス造船能力ハ、最早手一杯ニナツテ居ル、大正十年ニナツテ既定計畫ニ屬スル「ボイント」七隻ト云フモノ、能力ガ出來ルノデアリマス、今日唯今要求サレテ居リマス……新計畫ト云フモノニ對シテハ、ソレ以後デナケレバ著手出來ナイ、

費及ビ民間ノ造船能力ヲ増大スルコトニ依ッテ、今後ノ海軍計畫ニ相當餘裕ガ出來得ルモノデアラウト思ヒマスガ、此點ニ付テ海軍大臣ノ御教ヘヲ請ヒタイト思フノデアリマス、第三ニ私ハ、今回ノ御要求ニナリマシタ海軍計畫ノ或物殊ニ戰鬪艦其他補助艦ニ於キマシテ延期ガ出來ルノデハナカラウカト云フ疑點ノ一ツトシマシテ、茲ニ一ツノ提案ヲ申上ゲテ、御教ヲ請ヒタイト思フノデアリマス、ソレハ過日來世間ニ能ク出テ居リマスル軍艦ヲ海外ニ注文スルト云フ點デアリマス、陸奥ガ此間進水シマシタ當時ニ或ル東京ノ新聞ニ、陸奥ト英吉利ノ新艦「フード」トノ建造費ノ比較ヲ舉ゲテ陸奥ノ方ガ高クテ「フード」ノ方ガ安イカラ、ドウモ軍艦ハ英吉利邊リヘ注文シタガ宜クハナイカト云フ、議論ガ出テ居ッタ、端ナクモ此問題ガ朝野専門家ノ間ニ興味アル問題ノ一ツトシテ研究サレマシタ、海軍當局ニ於テモ種々御研究ニナッタヤウニ同ツテ居リマス、私ハ此比較論ハ少シ無理デハナイカ、艦ノ種類、即チ戰艦陸奥ト快速戰艦「フード」トハ全ク種類ヲ異ニシテ居ル、是ハ比較スルノガ不當デアル、其艦種カラ申シテモサウデアルノミナラズ、一般ノ經濟狀況殊ニ開戦中聯合國ノ軍器ヲ補充イタシマスル色ミノ狀況其他ヲ綜合シテ見マシテ、陸奥ノ建造ノ時ノ狀況ト「フード」ノ建造ノ時ノ狀況トハ、是ハ全ク根本ガ違フ、之ヲ比較シテ陸奥ガ高イ「フード」ガ安いト議論スルノハ、ソレハ私ハ不適當デアルト思フ、從ツテ是ノ比較論ヲ私ハ此處致シタクナイ、唯極メテ通常ナル場合、「ノーマル」ナル場合ヲ考ヘテ見マシテ、英吉利ニ於キマスル製艦費ト、我國ニ於ケル製艦費ト較ベテ見タナラバ、是ハ素人デヨク分カリマセヌガ、先ツ英吉利ニ於テ造ル方ガ、便宜ナ點ガ多クハナカラウカ、斯ウ思フノデアリマス、是ハ私ハ専門家デアリマセヌシ、又其時ニ依ッテ事情ガ違フノデアリマス、今日ノ知キ大戰後ノ餘波ヲ受ケタ、極メテ普通デナイ場合ニ於テハ、此議論ヲ強ヒテ致スコトハ面白クナイト思フ、唯若シ價格ヲ比較スルナラバ、同時ニ爲替相場ノコトモ考慮ノ中ニ入レル必要ガアルト思フ、今日ノ如ク對英爲替ガ非常ナ變化ヲシテ、日本ノ爲ニ極メテ有利ナ場合ニ於テハ、一億二億ノ海外注文ヲ致スニ依ッテ、莫大ナ爲替ノ差益ガアルト云フコトハ、相當考慮ノ價值ガアルト思ヒマスガ、姑ク此二點、即チ算盤勘定ヲ除外シテ考ヘテ見マシテモ、尙ホ軍艦製造ト云フコトニ付テ、之ヲ海外ニ注文スルト云フ案ヲ考ヘル價值ハ十分アルト思フノデアリマス、即チ技術ノ輸入デアリマス、軍艦ヲ海外ニ注文スルコトニ依リマシテ、彼ノ卓越シテ居ル造

船上優秀ナル技術、諸種ノ祕密、諸種ノ特權ヲ比較的容易ニ輸入シ得ラレル利益ガアルノデナカラウカト思フ、造船技術其モノ、輸入ガ利益ヲ與ヘタコトハ、先年明治四十五年金剛ヲ注文シマシテ、其雑型ニ依ッテ我國ノ横須賀、川崎、三菱ノ造船所デ比叡、霧島、榛名ノ三艦ガ出來タト云フコトハ、是ハ諸君ノ御記憶ニ新タルコトデアルダラウト思ヒマス、併シ私ハ是ハ進ンデ強クハ申サレナイコトモアルダラウト思フ、近時我國ニ於ケル造船界ニ於テ、殊ニ軍艦製造ニ關シ著シキ發達ヲ致シテ、所謂日本型ト稱スルヤウナモノガ出来テ居ル、是等ノ祕密ヲ彼ニ與ヘル危險モアリマスカラ、是等ノ點ニ付テハ宜シク専門家ノ御考慮ヲ煩ハシタイト思ヒマス、又造船業ハ極メテ澤山ノ工業ヲ綜合シテ出來ルモノデアル、從ツテ英吉利其他各國ニ於ケル大戰、其他ニ依ッテ得タ教訓ヲ、此際軍艦注文ト云フ事實ニ依ッテ輸入シ得ラレルト云フ便宜ガアルノデアリマス、此事ニ付キマシテハ尙ホ委シク申上ゲタイト思ヒマスガ、是ハ事祕密ニ涉ルコトデアリマスカラ、公開ノ席上ニ於テ言及スルノハ避ケタヒト思ヒマス、唯一ツ例ヲ申上ゲマスレバ、亞米利加ハ參戰以後、一ツノ「リバチイ、モートル」ヲ完成スル爲メニ、四億圓ノ國幣ヲ費シテ惜マナカッタト云フコトニ鑑ミマシテモ、如何ニ是等ノ新技術ヲ輸入スルコトガ、國家ノ爲メニ利益アリ、國防ノ爲メニ極メテ重要デアルカラ申上ゲタイノデアリマス、ソレカラ次ニハ技術者ノ養成デアリマス、軍艦ヲ建造スルト共ニ、高級ノ技術者ハ勿論職工ノ如キモ、多數彼ニ就テ實地ノ教育ヲ受クルコトモ出來ルノデアリマス、加之我國製艦計畫ハ既定計畫ニ屬スルモノガ非常ニ後レテ居ルノデアリマス、殊ニ主力艦ニ於テ其點ガ著シイノデアル、即チ長門ハ大正五年ニ起工セラルベキモノガ大正六年八月、陸奥ガ六年度ノ豫定ガ大正七年六月、加賀ハ七年ノモノガ大正八年七月、天城ハ八年五月ノモノガ大正九年十月、又赤城ニ至ツテハ、八年ノモノガマダ著手サレナイト云フヤウナ工合ニ、計畫ガズット後レテ居ルノデアリマス、此後レテ居ルコト、ソレカラ製艦能力ニ局限ガアルコト、サウ俄ニ膨脹シ得ナイコト、又其他種々此處ニ公開ノ席デ申上ゲラレナイ遺憾ナ事實ガゴザイマシテ、假ニ私共ガ今日全部、戰艦四隻、巡洋戰艦四隻、其他ノ巡洋艦ニ對シテ協贊ヲ與ヘタトシマシテモ、果シテ十六年度末マデニ出來ルカドウカト云フコトハ、極メテ疑ハシイ、即チ今日ノ現況及ビ從來ノ實績ニ鑑ミマシテ、大正十六年度末マデニ出來ルト云フニハ、是ハ餘程ノ決心ガナケレバ出來ナイ、其決心ヲ付

ケル爲ニハ此處ニ製艦能力ノ向上ト、ソレカラ海外ニ注文スルト云フコトモ
一ツノ案デナカラウカト、斯ウ思フノデアリマス、尙ホ最後ニ今一點國防ノ
計畫、殊ニ主力艦計畫ノ延期ガ可能デハナイカト云フ點ニ付テ、謹シテ海軍
大臣ノ教ヲ乞ヒタイト思フノデアリマス、ソレハ私ガ仄聞スル處ニ依リマス
レバ海軍ニ於キマシテハ九年度ノ新計畫ヲ編成セラル、ニ當リマシテ、省内
ノ會議ニ於テ、先づ第一ニ大正十二年度マデニ所謂八八艦隊ナルモノヲ完成
スルトシタナラバ、ドウ云フ計算ニナルダラウ、ドウ云フ計畫ニナルダラウ
ト云フコトヲ研究シテ見ラレタノデアリマス、然ルニ是ハ今日カラ十二年マ
デノ僅カノ間デアリマスカラ、非常ナ金高ニ上ルノデアリマス、平均年度割
ガ非常ノ額ニ上リマシテ、チヨット勘定シマシタ所デモ、四億圓以上ニ上ルノ
デアリマス、是ハ到底何人ガ考ヘマシテモ、日本ノ財政上許サナイ、ソコデ
第二案トシテ、モウニ年延シテ十四年ニ完成スルコトニシタナラバドウデア
ルカ、ドウ云フ風ノ計算ニナルダラウカト云フコトヲ考ヘマシテ、戰艦ニ於キ
マシテハ扶桑、山城、伊勢、日向ノ代艦ヲ作リ、巡洋戰艦ハ榛名、霧島ノ代
艦ヲ作リ、其外ニ今回要求セラレマシタ巡洋戰艦、即チ八八ニ至リマス新シ
イニ隻ノ巡洋戰艦ヲ作ル計畫ヲセラレ、其他巡洋艦六隻ヲ作ル計畫ヲ立テタ
ト仄聞シテ居リマス、併シ此計畫ガ果シテ正確デアルカドウカ分ラヌガ、兎
ニ角サウ云フヤウナコトニ計算セラレマシタケレドモ、ソレデハ非常ナ金高
ニ上ル、併ナガラ海軍當局トシテ一日モ早ク八八艦隊ヲ實現シタイ、殊ニ彼
ノ景氣ノヨイ時ニ臨ンデ租稅ノ增收案ナドハ易々トシテ出來ルカラ、實ハ十
年度ニ提出スル豫定デアッタケレドモ、ソレヲ一年繰上ゲテ九年度ニ提出シ
テ、而シテ増徵案ト相應ジテ、此八八ノ理想ヲ實現シタイト云フヤウナ御考
デアッタノデアラウカト思ヒマスガ、サウ云フヤウナ意味ニ於テ十四年度完成
案ト云フモノガ出來テ居ツタノデアリマス、ソレデ之ヲ以テ大藏省ト折衝セラ
レタモノデアルマイカト推測スル理由モアルノデアリマス、所ガ實際愈ノ決
著トナリマシテ、唯今提出シテ居ラレル通リニ大正十六年度末ニ至ツテ完成ス
ルト云フ案ガ確定シタノデアリマス、但シ其要求ノ戰艦ノ艦艇ノ數ニ於テハ、
多少ノ相違ハアリマス、又金高ニ於テモ相違ガアリマス、併シソレハ委シイ
コトデアリマスカラ、述ベマセヌガ、兎ニ角十二年度マデニ完成シテ見ヤウ
ト初メニ考ヘタガ、ソレデハ餘リ金高ガ上ルカラト云フノデ、十四年度ニ計
畫ヲ變ヘテ、ソレデモ尙ホ大藏省當局ト折衝シタガ議ガ纏マリマセヌカラ、

十六年度案ト云フモノヲ拵ヘテ見タ、ソレデアリマスカラ、海軍ガ此十六年
度案ニ對シテ一日モ延期スルコトハ出來ナイ、是非今回ノ議會ニ於テ協賛ヲ
與ヘテ貰ハナケレバ困ルト云フコトハ、如何ナル點ニ於テ言ハレルノデアリ
マセウカ、若シ十二年度案ニ於テ、九年度カラ始メテ殘リノ二艘ヲ完成スル
ト云フノカ、若クハ十四年度迄ニ完成シヤウトナラバ、私ハ是ハ出來ルダケ
バナラヌト云フコトガ、果シテ絕對的言ヒ得ラレルデアリマセウカ、是ハ私
ハ主力艦ニ付テ申スノデアリマス、ノミナラズ先刻申上グマシタ通りニ、製
艦能力ト云フモノニハ限リノアルモノデ、大正十二年ニ至ツテ既定計畫ノ最高
程度ニ達スルノデアリマス、今日要求セラレテ居ル豫算ガ通過シマシテモ、
主力艦ニ付テ申スノデアリマス、ノミナラズ先刻申上グマシタ通りニ、製
艦能力ト云フモノニハ限リノアルモノデ、大正十二年ニ至ツテ既定計畫ノ最高
程度ニ達スルノデアリマス、今日要求セラレテ居ル豫算ガ通過シマシテモ、
主力艦ノ工事ニ付テハ、マダ著手スルコトハ出來ナイト云フ推測ハ、誤リナ
イノデナカラウカト思フノデアリマス、然ラバ大正九年度ニ於テ是等ノモノ
ヲ御延期ニナリマシテ、十年ニ於テ改メテ御出シニナリマシテモ宜シクナイ
カト私ハ想像スルモ、必ズシモ見當達ヒノコトデナカラウカト思フノデアリ
マス、是等ノ點ニ對シテ謹シテ海軍大臣閣下ノ教ヲ乞ヒ、國民ト共ニ我ミノ
最モ急務トシ最モ必要デアルトスル所ノ國防計畫ニ付テ、徹底的ナル了解ヲ
得タイト思ヒマス、唯繰返シテ申上ゲマスガ、前ニ申上ゲマシタ通り、斯ノ
如キ議論ヲ立テマスコトハ、今日所得稅案問題即チ我ミ一家ノ經濟上ニ於テ
申セバ、米櫃ノ問題ト、外ニ出マス時ノ紋付羽織袴ノ問題ト何レヲ取ルカ、
若シ兩立シ得ナイモノナラバ、ドツチカ取ラナケレバナラヌ、若シ兩立シ得ル
モノナラバ、ドノ程度ニ於テ取ルカト云フコトデアリマス、若シ更ニ進ンデ
海軍當局ガ我ミニ善良ナル了解ヲ與ヘラル、ナラバ、我ミハ三度ノ飯ヲ二度
ニ減ラシテモ、斷ジテ國防計畫ニ缺陷ヲ生ゼシメナイト云フダケノ覺悟ヲ持ツ
テ居ルト云フコトヲ申上ゲタインデアリマス、以上誠ニ粗雜ナ素人論ヲ遠慮
モナク此席デ申シマシタコトハ、當局ニ對シテ恐縮デアルノミナラズ、本日
ハ殊ニ酷暑ノ砌、長時間諸君ノ御清聽ヲ煩シマシタコトニ付、茲ニ謹シテ御
詫ビヲ申上グマス

〔國務大臣加藤友三郎君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(加藤友三郎君) 東郷男ノ御質問ノ第一點ノ、艦齡ニ關スル御質
問ノ要旨ヲ捕捉シ兼ネタノデアリマス、チヨットモウ一度簡單ニ第一ノ御質問

ヲ御話ヲ願ヒタイ

○男爵東郷安君 簡單ニ申上ゲマス、世間ニ國防計畫ヲ一年延期シテ宜イジヤナイカト云フヤウナ議論ガアリマス、又衆議院ニ於テモ、サウ云フヤウナ質疑ガ出タノデゴザイマス、ソレニ對シマシテ大臣竝ニ當局ハ、十七年度ニナツテハ陸奥、長門ノ代艦ヲ造ル必要ガアル、艦齡ヲ八年トスルナラバ、此十七年度ニ於テ我國ノ造船能力デハ達シ得ナイ、造リ得ナイ、餘裕ガ無イ、ダカラ今日延期スルト云フコトハ、海軍ノ計畫ニ於テハ甚ダ迷惑ナコトデアルト云フコトデス、尤モ其言葉ノ末ニ至ッテハ正確トハ私申上ゲマセヌガ、其趣意ニ於テ多クノ機會ニ於テ御答辯ニナツテ居ル、併ナガラ私共ガ自分、テ研究シテ見マスル所ニ依リマスト、海軍當局ノ御説明ハ甚ダ事實ニ違ッテ居ル、表ノ上ニ於テハサウデアリマスルケレドモ、事實……

○國務大臣(加藤友三郎君) 大體了解イタシマシタ、御答ヲ致シマス、御質問ノ出マシタ原因ハ、私ガ衆議院ニ於テ答辯イタシマシタ速記ヲ基礎トシテノ御質問ト考ヘルノデアリマス、衆議院ノ質問ニ接シマシテ、即チ延期云々ニ關シテ、延期ガ出來ナイト云フ意味ヲ説明イタシマシタ主モナル趣旨ハ、單ニ此陸奥、長門ガ艦齡ガ來ルカラト云フコトノミデハナイノデアリマス、御話ノ通リ豫定ト致シマシテハ、陸奥ト長門ガ艦齡ガ大正十七年ニナルト八年ヲ經過スルノデアリマス、長門ハ本年ノ十月乃至十一月ニ完成スル豫定デアリマス、是ハ艦齡ヲ經過スルノデアリマス、又陸奥ハ少シク工事ガ遅レマシタカラ、技術官ノ見込ニ依リマシテ、本年度一杯ニ完成スル今日ハ豫定ヲ持ツテ居リマス、ソレデ此艦齡ニ付キマシテ、八年ト云フコトニ付テ云々ト云フ御話モアリマシタガ、御承知ノ通リ列國ノ艦齡ヲ起算ヲ致シマス基礎ハ、八年ヨリ多イノハ私ノ承知シテ居ル所デハナイノデアリマス、而モ日本ノハ完成イタシマシタ時期ヲ以テ始メトシテ、サウシテ八年ヲ計算イタシマスガ、國ニ依リマシテハ起工イタシマシタ時ヲ以テ艦齡ヲ計算スルノモアリマスノデ、要スルニ日本ノガ一番長イ、斯ウ云フ意味ニ相成ルノデアリマス、ソレカラ第二ノ質問ハ能力ノ問題デアリマスガ、十年ニナルト既定ノ設備ガ完成スレバ「ボイント」七内外ノ能力ヲ有ツノデアル、然ルニ今日カラ計畫ヲ出スノハ符合セヌデハナイカ、斯ウ云フヤウナ御趣旨ノヤウニ拜聽シタノデアリマス、理論上カラハ一應御尤ナ御意見ト考ヘマス、併ナガラ此能力ハ工廠ノ實際仕事ヲ致シマス能力ヲ重ニ意味シテ居ルノデ勿論能力ノ中ニハ材料ノ

蒐集、其他萬般ノ事ガ含マレテ居リマスルナレドモ、主ナルモノハ工廠ノ所謂工業能力デアルノデアリマス、一面カラ申シマスルト、今日ハ材料ノ蒐集ニ一番困難ナ時期デアリマス、外國ニ注文ヲ發シマシテモ、殆ド得ラレナイト云フ狀況デアルノデアル、今年計畫ヲ立テマシテ、是ガ材料ノ蒐集ニ當局ハ非常ナ苦心ヲシテ、工廠ノ一切ノ工事ヲ起工イタシマスル迄ニハマダ間ガアルノデアリマス、若シ萬事ノ事情ガ許シマシタナラバ、昨年グラキニ御協賛ヲ經テ置キマシタナラバ、ヨリ以上便宜デアッタラウト思フ、是ハ材料ノ點ノミカラ申スノデアリマス、ソレトモウーハ唯今ノ御話ハ、主トシテ大艦ノミニ付テノ御話デアリマシテ、私モ主トシテ大艦ニ付テ申上グルノデアリマスガ、小艦艇ニ於キマシテハ、マダ能力ノ餘力ガ多少アルノデアリマスガ、モ少シ早ク此計畫ヲ提議イタシマシテ、御協賛ヲ經テ居リマシタナラバ、ヨリ以上最モ便宜デアッタラウト思フノデアリマス、斯様ナ事情デアリマスルカラ、既定ノ計畫ニ依ツテ、來年度ニ於テハ一「ポイント」七ト云フ大體ノ數字ハ、是ハ唯今記憶イタシマセヌケレドモ、略其位デアッタラウカト思ヒマス、併シ實際問題ト致シマシテハ、何等之ニハ影響ナイノデアリマス、今年ハ御承知ノ通リ年度割モ少額デアリマス、今年ハ材料ノ注文ニ全力ヲ注グノデアリマス、其材料ノ注文ハ來年度ニ要スルモノモ本年度カラ發スルノデアリマス、從ツテ本年度ハ豫算ヲ有チャマセヌデモ、材料ノ注文ヲナシ得ルト云フスウ云フ事情ノ下ニ在ルノデアリマスカラ、曩ニ十年頃ト申シマシタノハ、別ニ必ズ十年度ニ提議スルト云フ意味ヲ以テ申上ゲタノデハナカッタ、財政上ノ關係其他ノ關係ニ於テ、或ハ九年度ニナルカ、或ハ十一年度ニナルカ、豫メ此十二年度迄ノ計畫ヲ提議イタシマシタ時ニハ、ハッキリトシタ見込ガ立タナカッタ爲ニ、常ニ「頃」ト云フ一字ヲ拔カシタコトハ私ハナイノデアリマス、サウ言フ事情デアルカラ御了承ヲ願ヒタイ、ソレカラ此延期ト云フコトニ付テ縷々御話デアリマシタ、即チ其御趣旨ノ主モナル點ハ、海外注文ト云フ御趣旨ダラウト思フ、是ハ其理由トシテハ技術ヲ輸入スル上ニ於テモ必要デアラウ、又早ク造ルト云フ上ニ於テモ必要デアラウ、斯ウ云フヤウナコトガ主モナル御趣旨ノヤウデアリマス、是ハ度々聽ク議論デアリマス、勿論外國ヘ注文ヲ致シマスレバ、内地ニ注文ヲ致シマスルヨリモ、一定ノ期間ニ於テ數ノ出来ルト云フコトハ、數ノ多ク出來ルト云フコトハ是ハ論ノ無イ話デアル、又或ル一定ノ數ヲ造ルト致シマスルナラバ、ソレガ早ク出來ルト云フコトモ、

是モ議論トシテ論ノナイコトデアリマス、私共ハ海外注文ト云フコトハ常ニ念慮カラ去タコトハナイノデアリマス、御話ノ通り技術ヲ輸入シ、技術官ヲ派遣イタシマシテ、是等モ種々ナル新ラシキ知識ヲ得テ來ル、萬事便利ナコトガアル、其點ニ付キマシテハ全然御同感デアリマス、併ナガラ現ニ計畫ヲ致シテ居リマスル大艦ニ付テ申シマスレバ、之ヲ外國へ注文イタシマスルト、一面ニ於キマシテハ内地ニ於ケル工業力ノ多少發達ヲ阻止スルト云フ嫌ヒナキニシモアラズデアリマス、例ヘバ私立會社ニ注文イタシマスルモノモ、總テ今回計畫イタシマシタ艦艇ハ、現在ノ設備デハ不足ノ點ガアルノデ、多少ノ增備ヲ私設會社ガ致シマセヌケレバ、此計畫ヲ遂行スルニ不便ナル理由ガアルノデアリマス、ソレ等ニ付キマシテモ、私立會社ト内議イタシマシテ、増備ノ計畫ヲモ立テサセテ居ルト云フヤウナ事情モアリマス、是ハ他ノ方面カラ申シマスレバ、私立會社ノ能力ヲ増加スル、斯ウ云フ意味ニモ相成ルノデ、若シ外國へ注文ヲ發シマシテ、之ヲ私立會社ニ注文イタシマセヌト云フコトニナレバ、ソレダケ内地ニ於ケル工業能力ニ多少ノ不足ヲ感ズル、是ハ有事ノ際ニ内地ニ於ケル工業能力ヲ維持スル上ニ於テハ、多少ノ不便其他ハ忍ンデモ、私立會社ニ注文スルコトガ有利デアラウ、斯様ニ私共ハ考ヘテ居リマス、故ニ大艦ニ於キマシテハ、今日ハ外國へ注文イタスト云フ考ヲ有ッテ居リマセヌ、併ナガラ小艦艇ニ於キマシテハ……潛水艦ノ如キ、其他特殊ノ艦ニ於キマシテハ、多少外國ニ注文シタイト云フ考ヲ有ッテ居リマス、併シ此處ニ更ニ御考ヲ願ヒタイノハ、大艦ト云ハズ小艦ト云ハズ、今日外國ニ注文ヲ發シテ直チニ其注文ニ應ジ得ルヤ否ヤト云フコトハ、大ナル疑問デアル、現ニ小サナ艦ノ注文ニ付キマシテ、英米等ニ種々交渉ヲ致シテ居リマスケレドモ、中々思フヤウニ參ラナイノデアリマス、恐ラク大艦ニ於キマシテモ、同様デアラウト考ヘテ居リマス、デ斯様ナルコトヲ算ニ入レマシテ計畫ヲ立てテ、此計畫ヲ立テタ次第デアリマス、ソレカラ最後ノ御質問ハ能ク御趣意ノアル所ハ分リマセヌダッタガ一日モ早ク國防ノ充實ヲ圖リタイト云フナラバ……十四年度頃ニ完成スルヤウナ計畫ヲスルヤウニシタラドウカ、サウ云フ案ヲ大藏省ニ提議シテ、ソレガ成立タズシテ今回提案シタヤウナモノニナタト云フコトハ信ズベキ理由ガアルト云フヤウナ御話デアリマス、大藏省ニ案ヲ出シテ種々査定ナリ應接ナリ致シマスルコトハ、總テノ豫算ニ於テアルノデアリマス、其内容ヲ一々申上ゲル必要ハアリマスマイ、併シ十四年度マデノ計畫ヲ立て、大藏省ト交渉ライタシタコトハナイノデアリマス、單ニ軍事當局者ノ見地ノミヨリ申シマスレバ、十四年度ノモノハ十三年度マデニモ致シタインデアリマス、併ナガラ御承知ノ通リ財政計畫ト併ヒマセヌケレバ實行ハ出來ナイノデアリマス、今回ノ十四年度迄ノ計畫ニ於テスラ、御話ノ如ク增收案ガ出ルト云フ事情デアリマシテ、尙ホ是ガ十四年度迄ニ云々ト云フ御話デアリマスガ、十四年度マデノ計畫ヲ立テマスルニ於キマシテモ、艦雲フコトハ……責任ヲ有ッテ出來ルト云フ御答辯ヲ致スコトハ甚ダ困難デアリマス、右等ノ事情ノ爲ニ總テ大艦ハ内地デ造ルト云フ計畫ヲ立テ居ルノデアリマス、從ツテ之ヲ延期スルト云フコトニ付キマシテハ、唯今ノ計畫ヲドレダケ延期ト云フ御考デアルカ存ジマセヌガ、將來……今年ノ暮ノ議會ニ出セト云フ仰セデアリマスレバ、完成期ハ十七年ニ後レルト云フコトハ已ムヲ

得ナイ、十四年度迄ノ完成ハ到底見込ガアリマセヌ、ソレカラ又是迄ノモノハ多少後レテ居ルト云フ御話デアリマスガ、ソレハ其通りデアリマス、遺憾ナガラ後レテ居ルト云フ御話デアリマス、是ハ此時局ノ影響ヲ受ケマシテ、主トシテ此材料ガ意ノ如ク手ニ入リマセナカッタノト、職工ガ多少民間ノ造船所ノ發達ニ伴ヒマシテ出行ツタ、其不足ヲ補フコトノ困難、此ニツガ原因シテ一般ニ多少ヅツ工事が後レテ居リマス、後レテ居リマスルガ、是等ノ後レテ居リマスルノハ十六年度迄ニ取返ヘシ得ルト云フ計畫ヲ立ツテ居ルノデアリマス、其具體的ノコトハ私説明ライタシ兼ネマスケレドモ、此技術上ノ計畫ハ總テ左様ニ相成ツテ居ルノデアリマス、從ツテ主ナルモノハ材料デアリマス、内地ニ於キマシテモ、此時局ノ結果トシテ、製鐵業者モ多少出來テ居ル、既往ニ於キマシテハ内地ニ於ケル材料ハ枝光製鐵所ノミデアリマシタノガ、今日ハソレ以外ニ私立會社カラモ多少得ラレルト云フ狀況デアリマス、唯値段ガ少シ高イト云フコトデアリマス、又現在ニ於キマシテハ外國カラ材料ヲ輸入スルコトハ甚ダ困難デアリマスケレドモ、一兩年後ニ一般ニ安定イタシマシタナラバ、若シ内地デ得ルコトガ不足デアルナラバ、多少得ラレヤウカト思フ、併ナガラ當局トイタシマシテハ計畫全部ヲ内地ノ材料ニ依ツテヤル、斯ウ云フ算ヲ立て、此計畫ヲ立テタ次第デアリマス、ソレカラ最後ノ御質問ハ能ク御趣意ノアル所ハ分リマセヌダッタガ一日モ早ク國防ノ充實ヲ圖リタイト云フナラバ……十四年度頃ニ完成スルヤウナ計畫ヲスルヤウニシタラドウカ、サウ云フ案ヲ大藏省ニ提議シテ、ソレガ成立タズシテ今回提案シタヤウナモノニナタト云フコトハ信ズベキ理由ガアルト云フヤウナ御話デアリマス、大藏省ニ案ヲ出シテ種々査定ナリ應接ナリ致シマスルコトハ、總テノ豫算ニ於テアルノデアリマス、其内容ヲ一々申上ゲル必要ハアリマスマイ、併シ十四年度マデノ計畫ヲ立て、大藏省ト交渉ライタシタコトハナイノデアリマス、單ニ軍事當局者ノ見地ノミヨリ申シマスレバ、十四年度ノモノハ十三年度マデニモ致シタインデアリマス、併ナガラ御承知ノ通リ財政計畫ト併ヒマセヌケレバ實行ハ出來ナイノデアリマス、今回ノ十四年度迄ノ計畫ニ於テスラ、御話ノ如ク增收案ガ出ルト云フ事情デアリマシテ、尙ホ是ガ十四年度迄ニ云々ト云フ御話デアリマスガ、十四年度マデノ計畫ヲ立テマスルニ於キマシテモ、艦雲フ御話デアリマスガ、十四年度マデノ計畫ヲ立テマスルニ於キマシテモ、艦ノ數ナドニ於テモ財政計畫上カラ多少斟酌ライタシテ居ルノデアリマス、要スルニ是等ノ點ハ總テ我々軍事當局ノ見地ノミヨリ提出イタシタルモノガ、

ソックリ通ル譯ニハ中ミ參リ兼ネル、是ハ軍事當局トシテ遺憾デアリマスケレドモ、是ハ已ムヲ得ナイ次第デアリマス、要スルニ御話シノ根本ハ、所得稅問題ニ關聯シテ、此計畫ハ延バスクトハ出來ナイカト云フノガ御質問ノ要旨カト思ヒマス、其點ニ付テハ別ニ御問ヒハナ、カッタヤウデアリマスガ、併ナガラ其點ハ大體ニ於キマシテ、私ノ腹藏ナキ考ヲ御参考マデニ申上ゲタイト思ヒマス、御承知ノ通リ軍備補充費、即チ國防計畫ト申シマスレバ、先刻ノ御議論デハ非常ニ範圍ノ廣イ意味ニ於テノ御議論デアリマシタ、ソレハ其通りデアラウト思ヒマス。唯海軍當局トイタシマシテ國防費、其中ノ主ナルモノハ軍艦製造費デアルノデアリマス、軍艦ガ製造セラレマシテモ、之ヲ有效ニ活用サセル爲ニハ、種々ナル費用ヲ要スルノデアリマス、夫等ヲ包含イタシマシテ、單ニ豫算面ニハ前ニ書イテアル譯デアリマセヌケレドモ、國防費ト稱シテ居ル、併シ軍艦製造費ナルモノハ既ニ多年ノ問題デ、皆サン御承知ノ通り、寧ロ我ミハ意氣地ガナイト云フ御叱ソラ受ケタコトガ度ミアル、漸ク此案ガ出來テ議會ニ提議イタスト云フ運ビニ相成シテ、茲ニ於テ先ツ一段落ヲ告ゲ得ルト喜ンダノデアリマスガ、不幸御話ノ如キ解散ノ結果ニ陥リマシタ、此點ハ軍事當局ノ見地ノミヨリスレバ誠ニ遺憾デアリマス、併ナガラ他ノ政治上ノ意味ニ於テ已ムヲ得ザル事情ガアルト云フコトデアリマスノデ、軍事當局トイタシマシテハ、是ガ特別議會即チ四箇月間後レテ通過スルト云フヤウナ確信ヲ得、且ツ此四箇月間ヲ後レタノハ完成期ニ影響ヲ及ボサナイ、斯ウ云フ技術上ノ確信ヲ得、是ヲ私ガ信シテ以テ即チ十六年度マデノ完成期ニ變更ヲ來サナイ限り、四箇月間ノ遲延ニ對シテハ之ヲ戻スト云フ信念ノ下ニ、議會解散ニ賛成ヲシタ云フノガ私ノ心事デアリマス、斯様ナ譯デアリマステ、之ヲ又今日延バスト云フヤウナコトニナリマスト、軍事當局トシテ到底堪ヘ得ルコトハ出來ナイノデアリマス、殊ニ戰爭ノ結果ト致シマシテ、列國ハ如何ナル狀態デアルカ、或國ノ如キハ既定ノ計畫ヲ遂行スルノミナラズ、尙ホ之ニ加ヘタル計畫ヲ將ニ爲サムトシツ、アルト云フ狀況デアリマス、又或國ノ如キハ、爲シタクモ大戰ノ後トシテ爲シ得サルガ爲ニ、多少延期シテ居ルト云フ國モアリマス、御承知ノ通リ我國ニ於キマシテハ、軍艦ヲ急ニ多數造ラウト云フ考ヲ起シテ、金ガ有ルトシテモサウ急ニハ出來ナイ、況シヤ金モサウ澤山一時ニ貰フコトハ出來マイト思ヒマス、併ナガラ歐米ノ強國ニ於キマシテハ、爲サウト思ベバ直チニ爲シ得ル、金力能力共ニ有ツテ居ルノデア

リマス、斯様ナル國ノ眞似ハ到底我國デハ出來ナイ、故ニ時機ヲ逸セズ速ニ之ヲ完成イタシテ置クト云フコトハ、國家ノ爲メニ有利デアラウト斯様ニ考ヘルノデアリマス、大體御質問ニ對シマシテハ御答ヘシ得タ積リデアリマス

〔國務大臣田中義一君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(田中義一君) 私ガ不在中阪本サンカラ、此間私ノ申述ベマシタコトニ付イテ御尋ガアッタサウデゴザイマス、ソレハ速記録ヲ見マスルト、先達テ申シマシタ言葉ノ最後ニ於テ、「陛下ニ對シ奉ツテハ誠ニ宸襟ヲ惱シ奉ツタ次第デアリマス、國民ノ義憤ヲ招イタ次第デアリマス、其點ニ付キマシテハ、私ハ親切ヲ缺カヌ積リデアリマス」、而シテ其「シンセツ」ナルコトノ文字ハ「親」ト云フ文字ト切腹ノ「切」ト云フ字ガ書イテアリマス、是ハ文字ハ速記ノ間違ヒデ「シン」ハ臣下ノ臣「セツ」ハ節義ノ「節」、斯ウ御了解ヲ願ヒマス○議長(公爵德川家達君) 東郷男爵ニ伺ヒマス、唯今ノ海軍大臣ノ答辯ニ對シテ、尙ホ質疑ノ御希望ガゴザイマスカ

○男爵東郷安君 簡單ニ致シタイト思ヒマス

○議長(公爵德川家達君) 極ク短カイノデゴザイマスカ

○男爵東郷安君 左様デゴザイマス

○議長(公爵德川家達君) 短カケレバ宜シウゴザイマス

○男爵東郷安君 チヨット海軍大臣並ニ諸公ノ御了解ヲ願ツテ置キタイト思ヒマス、私ガ先刻陳述イタシマシタノハ、艦齡ノコト、内地ノ製艦能力ノコト、海外ニ軍艦ヲ注文スルコト、此三ツヲ合セテ主力艦計畫延期ハ不可能デハナカラウト云フ質問デゴザイマス、其間ニハ固ヨリ輕重ハゴザイマス、其三ツハ同一ノ目的ノ爲メニ進ンデシタイト思ヒマス、ソレカラ海外ノ注文ニ對シ一應御説明ガゴザイマシタガ、元來我國ハ軍器ノ獨立上、内地ノ工業力助長ノ爲、軍艦其他ヲ内地ノ造船所ニ注文スルコトハ當然ノコトデアリマス、コトデアルト云フ御論デアル、是ハ本員ニ於キマシテモ全然御同感デアリマス、日露戰後桂内閣ノ當時ニ其方針ヲ確定サレテ今日ニ及シテ居ル、其效果極メテ善良ナルコトモ我ミハ明瞭ニ了承イタシテ居リマス、唯私ノ申シマシタノハ、艦齡ノ方カラ見マシテ、工事能力ノ不足及ビ實際ニ建造ガ遲延シテス、日露戰後桂内閣ノ當時ニ其方針ヲ確定サレテ今日ニ及シテ居ル點カラ申シマシテモ、或ハ將來ニ於テ時機ヲ見テ海外ニ注文スルコトガ便宜デアリハシナイカ、斯クシテ十六年度迄ニ是非トモ完成スル方ガ便宜ノ方法デハナカラウカト云フコトデアリマスガ、同時ニ今日私ハ注文サレルノ

ニハ何種ノ艦ヲ注文スルガ最モ良イカト云フコトハ申シテ居リマセヌ、今日御承知ノ通リ英吉利ノ造船界デハ商船ヲ造ル必要ガアリ、澤山ノ船臺ヲ使用シテ居リマス、大正十六年迄ノ八箇年間ニ於テ、英吉利ノ造船界ガ今日ヨリモ他日、以上或ハ更ニ便宜ノコトガ出來ヤシナイカ、其時機ヲ狙フテ我國トシテ注文スベキガ當然デアル、若シ誤ッテ十六年度迄ニ完成スルコトガ出來ナインラバ、其餘分ダケヲ海外ニ注文シタ方ガ宜クハナイカト云フコトヲ一案トシテ申上ダタノデアリマス、尙ホチヨット申上ゲテ置キマスガ、コノ議論ハ同時ニ國防上必要ノ場合ニハ亞米利加ノ上院ガ、度々試ミマスガ如ク、海軍計畫ヲ繰リ上ゲルト云フ議論ニ進ム場合ガアルカモ知レマセヌ、十六年ト言ハズ、十五年度、十四年度ト繰上ゲルコトハ畢竟當局ト國民ノ決心如何ニ依ッテ決スルノデアリマス、是ハ將來ノコトデ此所デハ私一己ノ言トシテ申上グルノデアル、尙ホ御懇切ナル御説明ヲ得タイト思ヒマス

〔國務大臣加藤友三郎君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(加藤友三郎君) 多少誤解ヲシテ御答ヘヲシテ居ルヤウデアリマス、唯此計畫ガ十六年度迄ニ出來マイト云フ心配ノヤウデアリマシタガ、私共モ極メテ此點ニ付テ隨分技術官ヲ鞭撻シタノデ、技術官ハ十分ナル確信ヲ以テ私ニ建議シテ、出來ルト云フコトヲ責任ヲ以テ申出マシタ之ヲ私ハ信じテ居リマス、斯様ナ次第デアリマス、其邊ハドウカ宜シク御了承ヲ願ヒマス、海外ニ注文ノ御趣旨ハ承知シテ居リマス

○議長(公爵德川家達君) 此際休憩致シマシテ、午後一時三十分ヨリ開會致シマス

午前十一時五十七分休憩

午後一時三十六分開議

○議長(公爵德川家達君) 是ヨリ報告ヲ致サセマス
〔瀬古書記官朗讀〕

本日請願委員長ヨリ左ノ報告書ヲ提出セリ
請願文書表第二回報告書

○議長(公爵德川家達君) 是ヨリ午前ニ引續キマシテ午後ノ會議ヲ開キマス
〔伯爵松浦厚君發言ノ許可ヲ求ム〕

○議長(公爵德川家達君) 松浦伯爵ハドウ云フコトデスカ

○伯爵松浦厚君 大正八年勅令第八十七號ノ承諾ヲ求ムル件ニ付キマシテ、委員會ヲ開キタイト思ヒマス

○議長(公爵德川家達君) 松浦伯爵ノ特別委員會ニ退席ノ許可ヲ致シテ御異議ハゴザイマセヌカ

「異議ナシ」ト呼フ者アリ

○議長(公爵德川家達君) 御異議ナイト認メマス、自賀田男爵
〔男爵自賀田種太郎君演壇ニ登ル〕

○男爵自賀田種太郎君 今回提出、所得稅法其他ノ改正ハ、是ハ追加豫算ノ經費ニ對スル財源ト考ヘマスルガ、然ルニ茲ニ大ニ疑惑ヲ生スル所以ノモノハ、日露戰後ニ於テ當時ノ戰時稅率ヲ輕減セズシテ之ヲ繼續シ來タツタノハ、是ハ無論公債償却……還債ヲ急グ所ノ趣意ニ基イタノデアリマス、其間ニ於テ多少ノ改正ハアリマシタケレドモ、大體舊時ノ戰時稅率ヲ繼續シ來タツタノデアリマス、全ク還債ヲ急グノ趣意ニ外ナラヌノデアリマス、早ク公債ヲ整理シタイト云フ歴代ノ政府ノ方針ニ基イタコト、考ヘマス、然ルニ今各稅法ノ整理モナサズ、輕減モナサズ、殊ニ所得稅法其他ノ稅法ノ改正ニ依ッテ增收ヲ圖ラル、然ラバ是ハ尙更一層公債ノ償却ヲ急ガル、方針ノ如クニモ見エマスル、併ナガラ又顧ミテ見ルト、國債償還基金ノ執行ハ一時中止トカ云フコトデゴザイマス、暫ク中止スルトカ云フコトデアリマシテ、一方ニハ此度ノ所得稅法等ノ改正ト共ニ、公債發行ノ計畫モ伴ウテ居ルヤウニ存ジマス、然ラバ其點ヨリ見レバ稅率ハ据置キ尙ホ増徵モスルガ、公債ノ償却ハ急ガヌト云フ風ニモ見エル、所ガ公債ノ償却ニ付テハ從來ノ成行モアリマシテ、其中殊ニ外債ノ償却、是ハ御承如ノ如ク大正十四年ニ至レバ四分半利付ノ英貨公債ヲ幾分カ償却ニハナツテ居リマセウガ、マダ存在シテ居ルノミナラズ、此二ツノ公債ニ向ツテハ擔保ガ這入ッテ居ル、勅令デ規定シテ專賣收入ヲ以テ之ガ擔保ニ供セラレテ居ル、故ニ返サネバ無論擔保ヲ要求スルコトニナッテ居リマス、併シ大部分ハマダ存在シテ居ル、大部分存在シテ居ルノミナラズ、此二ツノ公債ニ向ツテハ擔保ガ這入ッテ居ル、勅令デ規定シテ專賣收入ヲ以テ之ガ審カニ存ジマセヌ、殊ニ此度ノ增稅其他ノ計畫ニ依ッテ大正十二年頃ハ隨分巨多ノ國費ヲ要スル場合デアル、然ラバ矢張リ歲出ノ豫算トシテ其時ニ於テハ

是等擔保ノ義務アル公債ニ向ッテハ、確實ナ公債償還ノ途ヲ講ジテ置カナケレバナラヌト思フ、ソレ故ニ今マデ戰時稅率ヲ据エ督イテ、公債ノ償却ヲ急ガル方針ヲ採ラレタノデアリマスルガ、段々顧ミテ見ルト更ニ公債ヲ募集セラレ、或ハ國債償還ノ基金ノ執行ハ一時休止ト云フガ如キコトデアルナラバ、公債ノ償還ヲ急ガレナイヤウデアル、又或ハ茲ニ大イニ翻ツテ考ヘテ、今ハ從來歷代内閣ノ採リタル局面トハ違フ、更ニ大イニ新ナル局面ニ向ッテ計畫ヲ立テラル、ナラバソレハ一つノ道理デアル、然ラバ大體各稅法ノ整理ヲセラレ、總豫算ニ於テ總テノ問題ヲ提出セラレテ、之ガ解決ヲ求メラレタラバ宜カラウト存ジマス、今日ハサウデナイ、故ニ私ハ政府ニ御尋ねシタインハ、此今度ノ增稅或ハ公債計畫ニ依ツテ從來ノ方針ヲ變ヘラレタノデアルカ、變ヘラレナイノナラバ、矢張リ從來執行シテ參ッタル此國債償還ト云フコトハ確實ニ順次行ハル、ヤ否ヤ、外國貿易ハ、是ハ一時ノ變態ニ依ツテ隨分盛況ヲ極メシタガ、自然ニ返レバ從來ノ如クニハ參ラヌ、然ラバ在外正貨等ノ狀態ハ又變ラレル、此邊ヨリ大イニ將來ヲ憂慮シテ一應伺ヒマスルガ、矢張リ政府ハ從來ノ如ク戰時稅率ヲモ尙ホ手ヲ付ケラレザル以上……主トシテ未ダ手ヲ付ケラレザル以上、矢張公債償還ヲ急ガル、方針デアルカ、又或ハ是ハ急ガヌ方針デアルカ、此二ツヲ伺ヒタイノデアリマス、ソレカラ今一ツハ最前ノ議會ニ於テ大藏大臣ガ本員ノ質疑ニ答辯セラレマシタガ、追加豫算ヲ提出スル、其追加豫算ハ繼續費ニ瓦ルモノハ憲法ニ追加豫算ノ規定ハ無イガ、矢張リ憲法六十八條ヲ適用シテ差支ナイ如クデアルトカ、差支ナイトカ云フ御説明デアリマシタガ、ドウモ何分理由ヲ示サレヌモノデスカラ、本員未ダ分ラズニ居リマスル、元來會計法ニ於テ追加豫算ヲ規定シタル場合ハ、必要避クベカラザル經費ノ外ハ出シテハイカヌ、必要避クベカラザルモノ……憲法六十八條ノハサウ云フモノデヤナイ、特別ノ樞要ニ依リ豫メ年限ヲ定メテ繼續費トシテ提出セラレムト云フコト、特別樞要ト云フノハ豫算ノ順序ヲ云々タノデアル、憲法六十八條ノ中ニハ急グ經費モ急ガヌ經費モアル、急不急共ニ包含シテ居ル、唯其次第二特別ノ性質ヲ有スルガ故ニ特別ノ樞要ニ依ツテ年限ヲ定メテ繼續費トスル、會計法五條ノハ誠ニ急グモノバカリ多イノデアリマス、是ハ兩者各違テ居ル、兩者違フガ當然デアル、即チ一ハ法律ニ規定シ、一ハ憲法ニ規定スル、之ヲ混用スルコトハ出來ナイト私ハ思ヒマス、又追加豫算ヲ出シテ繼續費トシテ理由ヲ示シテ一應御説明ヲ願ヒマス、又追加豫算ヲ出シテ繼續費トシテ

出シタル前例モアルト云フコトデアリマス、其前例ニ付テモ、審カニ御説明ヲ得タイト思ヒマス

〔國務大臣男爵高橋是清君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(男爵高橋是清君) 唯今ノ目賀田男爵ノ御質問ニ對シテ御答ヲ致シマス、最初ノハ公債償還ノコトニ付テ從來政府ノ採リ來タ所ノ方針ヲ變ヘタノデアルカドウカト云フ御問ヒデアリマス、從來ノ方針ヲ根柢カラ變ヘタト云フコトハ申上げ兼ネル、ソレハ戰時利得稅カラノ……戰時ノ……日露戰爭時代ノ特別稅カラノ御話デアリマシタガ、是ハモト、日露戰爭ノ爲ニ起債シタ所ノ公債ヲ償還スル爲ニ特別稅ヲ其儘通常稅ニ引直シテ減債基金ナルモノヲ設定セラレタノデアリマス、其後漸次其減債基金ニ依ツテ從來ノ政府ハ債還ヲシテ參ッタノデアリマス、サウシテ其債還ナルモノハ、主トシテ日露戰爭ノ當時外國ニ於テ起債シマシタ所ノ公債ヲ償還スルコトヲ、主タル目的トセラレテ居タ、其間ニ於テ、一時此減債基金ノ公債償還ニ向ケル高ヲ減ジテ、サウシテソレダケノ、ソレニ依ツテ生ズル餘裕ヲ以テ、他ノ目的ニ使用シタ場合モアツタノデアリマス、而シテ一面公債ノ總高ニ於キマシテハ、年々鐵道其他政府デ經營イタシマス所ノ事業ノ爲ニ起債ノ必要ヲ生ジテ居ルノデアリマス、是等ハ其事業ヨリ生ズル所ノ收益ヲ以テ元利償却ノ方針ニナツテ居ルノデアリマス、租稅ヲ以テ償還スル所ノ公債ノ主ナルモノハ戰時中ニ起ツタ所ノ公債デアリマス、堵唯今御述ベニナツタ外債ノ中デ、最モ多額ニシテ償還年限ノ近付イテ居リマスモノガ彼ノ四分半利附英貸公債、來ル大正十四年ニ償還期日ノ到來スルモノデゴザイマス、從來政府ハ減債基金ヲ以テ、成ベク此四分半利附ノ買入債還ヲ實行シテ參ッタノデアリマス、今日デハ三億七千万圓バカリ合セテ……二度ニ募リマシタ、四分半利附公債ガ第一回第二回トヲ合セテ、今日ノ計算ハ、大正十四年ニ至テ三億七千万圓バカリ殘ルコトニナツテ居リマス、是ハ確カ前議會ニ於テモ豫算ノ節ニ申上ゲタ考ヘテ居リマスガ、今回減債基金ヲ四箇年間中止シマシテ、其是マデ一般會計ヨリ減債基金ニ繰入レテ居リマシタ金ヲ、國防充實ノ方ノ經費ニ充テルコトニ致シタノデアリマス、元々非常特別稅ヲ以テ、此減債基金ノ基礎ヲ作ッタノデアリマスガ故ニ、若シ減債基金ヲ中止スルニトノ出來ル場合ニハ、或ハ是ヲ廢止スルコトノ出來ル場合ニ於テハ、第一ニ租稅ニ於テ廢減稅ヲ行フガ正當デアラウト思ヒマスル、併ナガラ一方ニ於テ今日租稅ノ增收ヲ計ラネバナラヌト

云フ場合ニ於キマシテ、一時此減債基金ヲ繰入レテ、其費用ニ充テレバ今日ソレダケノ増稅ヲ行ハズト濟ム、即チ増稅ノ高ガソレダケ減ッテ宜イト云フ茲ニ計畫ガ立チマスレバ、國民ニ向ツテ新ニ增稅ヲ行フ代リニ、此減債基金ヲ一時特別ノ費用ニ向ケルト云フコトハ已ムヲ得ヌコトデアツテ、且ツ是ガ妥當ナリト考ヘルノデアリマス、而シテ四分半利付公債ニ對シマシテハ、擔保ガ付イテ居ル、名義上ノ擔保ハ無論付イテ居リマス、而シテ之ニ向ツテハ既ニ償還ノ計畫ハ今日ハ立ツテ居ルノデアリマス、即チ外債ヲ償還シテ代ツテ是ガ内國債ニ於テ殖エルト云フダケノ計畫ハ立ツテ居ルノデアリマス、嘗テモ申上ゲマシタ通り、今日預金部ノ所有シテ居リマス所ノ在外正貨ハ三億八千万圓程ニナツテ居リマス、故ニ今日直ニ其計畫ヲ實行セムトスレバ、國債整理基金ノ特別會計ニ於テ、英貨公債償還ノ目的ヲ以テ、預金部ノ内國債ヲ發行シ、預金部ヨリハ其應募金トシテ在外正貨ヲ受取ツテ、此公債整理ノ會計ニ於テ持チマスレバ、十四年ニ至ツテ確實ニ償還ガ出來、又今日減債基金ヲ廢シマシテモ預金部ノ計算ヲ執リマシテ、公債整理ノ基金ノ方ノ勘定ナリ時ニ市場ニ於テ賣物ガ出マスレバ、買入レテ償還スル手段モ執ルコトガ出來ルノデアリマス、寧ロ今日ニ於キマシテハ、若シ賣ルモノガ餘計アリマスレバ、減債基金ニ依ツテ制限セラレタル金高以上ニ進ンデ買入償還ガ出來ルヤウナ自由ガアルノデゴザイマス、故ニ決シテ從來ノ政府ノ執リマシタ方針ノ主トシテ多額ニシテ且償還期限ノ近クアル所ノ四分半利附ノ償還ニ付テノ方針ハ一向變ラヌノデアリマス、又公債償還ハ急グカ急ガナイカト云フ御尋ガ第二デアリマシタガ、政府ト致シマシテハ公債ノ如キハ成ルベク餘裕ガアリマスレバ、早ク償還イタシタイト云フコトハ無論ノ話デアリマス、併シ一方ニ於テ公債ヲ募リツ、又一方ニ於テ減債基金ヲ中止スルガ如キハ恰モ急ガヌカノ如キ感ヲ致シマスケレドモ、一方ニ於テ起シマス所ノ公債ハ、從來所謂事業公債デアリマシテ、是ハ先刻モ申シマシタル通り、其事業ヨリ生ズル所ノ收益ヲ以テ元利ヲ償還スルト云フ計畫デアリマシテ、國民ノ租稅ヲ以テニ充テルト云フ計畫デハナイノデアリマス、唯近頃公債買入金ト云フ手段ニ依ツテ臨時軍事費ヲ賄ツテ居リマス、是ハ利益ヲ生ズル事業ニ放資スルモノデアリマセヌカラシテ是ハ矢張リ一般會計カラ……歲入ノシタ公債以外ニ是ガ亦增加シタト云フコトニナルノデアリマス、今日デハ軍

事費ハ借入金、若クハ公債トナツテ居リマシテ、大部分借入金ノ方デ支辨シテ居リマスガ、此借入金ナルモノハ今日ノ所デハ國庫ニ色ミノ會計、特別會計ニ於テ餘裕ガアリマシテ、ソレヲ以テ一時繰替ヘテ居ルノデアリマス、併シ結局ハ是ハ公債ニナラナケレバナラヌモノデアリマス、ソレカラ最後ニ憲法第六十八條ト會計法第五條ノコトニ付キマシテ、是ハ詰リ追加豫算ト云フモノガ憲法ニ依ツテ出ルカ……會計法ノ第五條ニ依ツテ提出スルノデアリマセウカ、憲法ニハドウ云フ因ミガアルカト云フヤウナ御尋ト私ハ御質問ノ趣意ヲ受取ツタノデアリマス、憲法ニハ追加豫算ノコトハ自賀田男爵ノ御述ベニナツタ通り何等條項ハナイノデアリマス、而シテ會計法ニ於テハ第五條ニ依ツテ追加豫算ヲ提出スル規定ガアルノデゴザイマス、追加豫算ナルモノハ何レモ通常議會マデ待ツコトガ出來スト云フ緊急ノモノニ對シテ協贊ヲ仰グモノデアルコトハ無論ノ話デアリマス、而シテ此追加豫算ノ中ニ、新ニ繼續事業ノ豫算ヲ計上シテアリマスガ、是ハ矢張リ會計法第五條ニ謂フ所ノ必要ナルト云フコトニナツテ居リマスカラシテ強ヒテ憲法ノ條項ニ付テ其關係ヲ見出サントスレバ、六十八條ニ依ルヨリ外ハナイノデアリマシテ、即チ追加豫算ハドウカト申シマスレバ、矢張繼續事業ニ付テハ憲法ハ議會ノ承認ヲ求メヨト云フコトニナツテ居リマスカラシテ強ヒテ憲法ノ條項ニ付テ其關係ヲ見出スル、ソレデ追加……其繼續費ト云フモノガ……憲法ノ六十八條ニ依リマシテ、其繼續費ナルモノガ必ズ通常議會デナケレバ提出スルコトハ相成ラヌトニ於テ緊急ヲ要スル、急ヲ要スル繼續事業ノ計畫ハ之ヲ立テ、其豫算ヲ議定スル、ソレデ追加……其繼續費ト云フモノガ……憲法ノ六十八條ニ依リマシテ、其繼續費ナルモノガ必ズ通常議會デナケレバ提出スルコトハ相成ラヌト云フ意味ニモ解セラレヌノデアリマス、故ニ是ハ追加豫算ニ於テモ矢張リ提出スルコトハ出來ルト解釋シテ居リマス、左様私ハ了解シテ居リマス○男爵自賀田種太郎君 唯今從來ノ例ヲ伺ヒマシタガ、先日例モアルコトダト仰シャイマンタカラ、ソレヲ伺ヒマス○國務大臣(男爵高橋是清君) 唯今茲ニ手許ニ書類ヲ持ツテ居リマセヌノデシテニ取調ベテ御答イタシマス○男爵自賀田種太郎君 大藏大臣ニ伺ヒマスガ、此位ナ重大ナ事件ヲ提出シマシテ、其據ル所ノ例ハ今答ヘヌ、ソレデハ本員等ガ此豫算ヲ協贊スルニ甚ダ難澁イタシマス、又先般來ノコトニ對シテモ、唯今ノ御説明ハ唯矢張リト仰シヤイマンタカラ、私ハ矢張リヲ伺ツタノデハナイ、其理由ヲ伺ツタノデアル、ドウシタ公債以外ニ是ガ亦增加シタト云フコトニナルノデアリマス、今日デハ軍

○議長(公爵徳川家達君) 目賀田男爵ニ伺テ見タイト思ヒマス、唯今ノ最後ノ御質問ニ對シテ未ダ答辯ガ間ニ合ハナイヤウデアリマス、暫時目賀田男爵ノ質疑ハ留保致シマシテ次ノ通告者ニ移ッテハ如何デスカ

○男爵目賀田種太郎君 宜シウゴザイマス

○議長(公爵徳川家達君) ソレデ宜シウゴザイマスカ……矢口長右衛門君

〔矢口長右衛門君演壇ニ登ル〕

○矢口長右衛門君 本日ノ議事日程第二所得稅法案ニ付キマシテ、私ハ質疑ヲ致シタイ積リデゴザイマス、先刻東郷男爵竝ビニ目賀田男ヨリ質問ガゴザイマシタ、ソレデ重複シタ所ノ質問ハ力メテ避ケル積リデゴザイマス、唯概要ダケニ付キマシテ、二三點當局大臣ニ伺ヒタイ積リデゴザイマス、此所得稅法ハ御承知ノ如ク昨日衆議院ニ於テ決定致シマシテ、本日茲ニ上程サレマシタノデゴザイマス、之ニ付キマシテハ、國民ハ非常ニ此問題ニ付テ注意ヲ拂ツテ居ル、此問題ハ果シテ如何ニナルノデアルカ、衆議院ニ於テハ既ニ可決サレテアルノデ、貴族院ニ於テハ如何ナル態度ヲ以テ、如何ナル考ヲ以テ、此問題ヲ處スルカト云フコトハ、是ハ朝野ヲ舉ゲテ注目スル所デ、所謂國家ノ視聽ノ中心トナツテ居リマス、斯ル際ニ於テハ我ニ議員ハ最モ心ヲ公平ニシ、國家ト云フモノ、見地ヨリ致シマシテ之ヲ討究シ、真正ニ國家人民ノ期待ニ背カナイガ我ニ議員ノ本分デアルト心得マスルノデ、私ガ茲ニ質問ヲ提出イタシマスルノモ矢張リ其本意ニ外ナラヌノデゴザイマス、私ガ第一ニ同ヒタイノハ、本案ヲ提出スルニ付テハ政府ハ十分ノ審議ヲ致シタカ、十分ナル調査ヲ遂ゲラレタカ、此問題デゴザイマス此提出サレマシタ……第一讀會ニ提出サレマシタ所ノモノハ、四十二議會ニ於テ可決サレタ所ノモノヲ其儘何等ノ修正ヲ加ヘナイデ、而シテ其儘提出サレタモノデゴザイマス、アノ當時ト今日ノ財界トハ如何ナル違ヒガゴザイマセウカ、雲泥ト云ハウカ霄壤ト云ハウカ、非常ナ差異ノアルモノデゴザイマス、而シテソレ等ニ對シテ何等ノ考ヲ用ヒナイデ、當時ノモノヲ其儘茲ニ出スト云フコトハ、調査上ニ於テ審議上ニ於テ、十分盡シ得タリト云フコトハ、私ハ考ヘ得ヌノデゴザイマス、假リニ又大臣ノ言フ所ニ委シテ、是ハ十分ノ審議アリトシタナラバ餘リ修正ニ同意スルノガ甚ダ早クハナイカ、苟モ一ツノ議題ヲ出ス以上ニハ十分ノ確信ト云フモノヲ持タナケレバナラヌ、其確信ヲ持テ議場ニ立ツテ、十分ノ意見ヲ鬪ハシテ、而シテ之ヲ決スルノガ本來デアルノニ、其修正ニ對シテ

殆ドスラ～ト何等異議ハナイト云フ位ニ之ニ同意サレタノデアリマス、苟モ緊要ノ問題ヲ出スノニ斯ノ如ク十分ナ審議ヲ盡サナイデ、又ソレニ十分ノ論議ヲ盡サナイデ、修正ニ對シテ早クモ同意イタスト云フノハ、果シテ確信ト云フモノハ何レニアルカト云フコトヲ疑フノデアリマス、現内閣ト云フモノハ衆議院ヲサヘ解散シテモ、自分ノ所信ヲ決行シヤウト云フ勇氣ト決心トヲ持ツテ居ルモノデアル、而シテ其内閣ガ自分ノ議案ヲ出スニ付テ、何等ノ確信ヲ持タズニ出シタト云フコトハ、甚ダ審議調査ト云フモノガ十分デナイト云フコトニ付テ疑ハザルヲ得ナイノデアリマス、次ニ伺ヒタイノハ、財界ノ救濟ト本案トノ關係デアリマス、政府ハ財界ノ救濟ヲシナケレバナラヌ、財界ニ安定ヲ與ヘナケレバナラヌト云フコトヲ言ハレタ、ソレハ施政ノ方針ニ於テモ確ニ言明サレタノデアル、而シテ此所得稅法案ナルモノガ、財界ノ救濟ト云フコト、兩立サレルモノデアルカ、是ハ兩立スベキモノデナイト思フ、財界ヲ救濟シナケレバナラヌ、財界ヲ安定サセナケレバナラヌト一方ニ言ウテ、而シテ此場合ニ斯ウ云フ議案ヲ出スト云フ政府ノ眞意ガ疑ハレルノデアリマス、或ハ言ハシ、國防充實ノ必要ガアルト言フカモ知ラヌガ、ソレニ付キマシテハ外ニマダ幾ラモ方法ガアルノデアル、財界ノ安定ヲ侵シテ、財界ノ動亂マデ侵シテ出スト云フ必要ハナイ、之ニ對スル政府ノ所見ハ如何、大藏大臣ハ常ニ是ハ社會主義ヲ加味シテアルト……社會主義ト云フハ……其社會主義ト云フモノ、上カラソレヲ加味シテ、之ヲ政策トシテ居ルモノニアリ、既ニ富豪征伐ト云フヤウナ言葉ガアルカラ、是等ニ對シテサウ云フモノヲ緩和イタスニハ、ドウシテモ所得稅ト云フモノハ實行シナケレバナラヌ、是ハ前議會ニ於テモ申サレタコトデアリマス、而シテ現在ノ社會ハドウデアルカ、社會ハ隨分倒産スル會社モアル、又財界ノ不況ノ爲ニ非常ナル失業者ト云フモノガ起ツテ居ル、一方ニハ失業者ヲ擁ヘテ、社會政策ノ上カラ云ツテ、斯ウ云フ事ヲスルト云フノハ、矢張リ是ハ撞着イタシテハ居リマセヌカ、社會政策ヲ加味シテアルト言ツテ居ル、其言ツテ居ル中ニ、其法案ノ爲ニ失業者トガ澤山出來ルト云フヤウナコトハ、矢張リ自家撞着ト云フヤウナ譏リハ免レヌト思ヒマス、本員ハ其疑ヒヲ解クコトハ出來ヌノデアリマス、以上ノ三點ニ付キマシテ、當局大臣ノ要領ヲ得タル辯明ヲ願ヒタイノデゴザイマス

〔國務大臣男爵高橋是清君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(男爵高橋是清君) 矢口君ノ御尋ニ對シテ御答イタシマスガ、第

一ハ政府ガ此案ニ付テ十分ナル調査審議ヲ遂ゲタノデアルカト云フ御尋ニ對シテハ、十分ナル審議調査ヲ致シタト御答スルヨリ外ハナイノデアリマス、而シテ第二ニハ十分ナル審議調査ヲシテ確信アツテ出シタモノナラバ、サウ容易ク修正ニ同意スル筈ハナイト云フヤウナ御尋ダト思ヒマス、政府ハ最初ヨリ此增收計畫ノ案ヲ提出スルニ當ツテ、申述ベテ居ルノハ、詰リ國防充實ノ爲ニ要スル所ノ經費ニ充用スル爲ニ、新ナル財源ヲ要スルノデ、新規ノ財源ヲ得ルノガ、第一ノ眼目デアリマス、其增收計畫ヲ爲スニ當ツテハ、何レノ稅種ニ付テ之ヲ行フガ妥當ナリヤト云フコトヲ考慮シテ、即チ所得稅ト酒稅ニ求ムルガ最モ適當ナリト、政府ハ考ヘマシテ、而シテ十分ニ所得稅ニ付キマシテハ審議ヲ遂ゲタノデアリマス、其財源ヲ得ルト云フコトガ第一デアリマシテ、扱所得稅ニ付キマシテ、今日行ハレテ居ル所ノ所得稅ヲ其儘ニシテ置イテ、其率ヲ唯高ムレバ宜イト云フヤウニモ思ハレマスルガ、現在ノ所得稅ナルモノガ如何ニモ負擔ノ均衡ヲ缺イテ居ルト云フコトハ、明カナル事實デアリマスルカラ、其不權衡デアル所ノ稅法ヲ其儘ニシテ、增稅ヲ計リマスレバ、愈々其不權衡ナルコトガ甚ダシクナルノデアリマスルカラシテ、已ムヲ得ズ稍々根本ニ觸レテ改正ヲ致シタト云フコトヲ申述ベテアルノデアリマス、此已ムヲ得ズシテ、稍々根本ニ觸レテ改正ヲ行シタト云フ點ハ、從來株式配當金ハ個人ニ歸屬シタ場合ニ於テ、個人ノ所得稅トシテハ何等課稅シテ居ラヌ得ズ稍々根本ニ觸レテ改正ヲ行シタト云フコトハ、是ガ現所得稅法ニ於テ最モ負擔ノノデアリマス、唯法人稅ノミデアリマス、是ガ現所得稅法ニ於テ最モ負擔ノ不公平ナルコトヲ現ハシテ居ル點デアリマス、或ハ數百万圓ノ所得ヲ得ナガラ、所得稅トシテハ僅カニ數千圓ヲ納メテ居ルト云フヤウナ今日狀態デアルノデアリマス、ソコデ政府ハ此會社ノ配當金及ビ賞與金等ノ如キモノニ、個人ノ所得ト之ヲ綜合シテ私人ニ課稅ヲスルト云フコトニ改メタノデアリマス、故ニ此改正案ヲ提出スルニ當ツテハ、政府ノ目的ハニツアル、第一ハ必要ナル財源ヲ得ルコト、收入ヲ得ルコト、第二ハ此收入ヲ得ルニ付テ現行法ノ負擔ノ不公平ヲシテ益甚ダシカラシムルコトヲ避ケタイ、成ルベク負擔ノ公平ヲ得ルヤウニシタイト云フノガ希望デアリマス、此ニ外ハ何モノノデアリマス、而シテ政府ガ此ニツノモノニ……此ニツノ目的ヲ破ラレザル範圍ニ於テ、其稅率ノ按配等ニ於テ修正ガ加ハリマシタ所デ、是ハ敢テ政府ニ於テ確信ガナイトマデ非難サレル謂ハレハナイト考ヘルノデアリマス、必ズ此稅法ノ如キニ於キマシテハ、殊ニ增收計畫ヲ立テル場合ニ於キマシテ

ハ、政府ノ提案ガ其通り一ツモ修正ナクシテ通ルコトヲ期待スルコトハ、今日ノ狀態ニ於テハ出來マセヌノデアリマス、政府ガ既ニ其目的トスル所ノツノモノヲ達シ得ル以上ハ、稅率ノ按配等ニ付テハ、衆議院ニ於テ之ヲ修正スル、此修正ガ尤モナリト考ヘテ政府ニ於テ之ニ同意スルコトハ、決シテ政府ニ始メヨリ確信ナクシテ出シタト云フコトニハナルマイト考ヘルノデアリマス、財界ノコトニ付テ今日ハ救濟ヲ政府ハ叫ンデ居ル、民間モ救濟ヲ求ムル、斯様ナ場合ニ於テ増稅案ヲ出スノハ矛盾シテ居ルデハナイカ、一方ニ於テ財界ノ救濟ヲシナガラ、一方ニ於テ増稅案ヲ出スト云フコトハ矛盾デアルト云フヤウナ御說デアリマスルガ、財界ノ救濟ト、今回ノ增收計畫ト云フモノトハ、是ハニシテ論ズルコトハ出來ナイノデアラウト思フ、假令財界救濟ヲ要シナイ場合ニ於キマシテモ、要ナキニ當ツテ政府ガ增收ヲ計ルコトハ無論スベカラザルコトデアリマス、併ナガラ財界ガ不況ニナッタカラト云ツテ、國民ニ擔稅力ガアル以上ハ、國家ノ必要ナル經費ニ向ツテ、新ニ增收計畫ヲ立テルト云フコトハ、是ハ差支ヘナイコト、考ヘル、民間ニ於テ色々此改正案ニ付テ様ミノ運動モ起り、ソレドヽ團體カラ意見ヲ申述ベテ居リマスルケレドモ、此際增收セラレルノガ困ルト云フヤウナコトハ殆ドナインデアリマス、國民ハ國防充實ト云フコトノ一日モ忽セニスベカラザルコトヲ能ク了解シテ居リマス故ニ金ハ出ス、唯取り方ニ於テ變ヘテ貰ヒタイ、若シソレガ變ヘルコトガ出來ナケレバ、財政經濟調查會ニ於テ總テノ稅ヲ根本的ニ改正セラル、ト云フコトデアルカラ、ソレ迄今日ノ稅法ノ儘デ増率スルカ、他ニ工夫シテ一年待ツテ貰ヒタイト云フヤウナ希望モアルノデアリマス、絕對ニ此增收ヲ否認スルト云フヤウナコトハナイノデアリマス、勿論此增收ヲ否認スルト云フコトニナレバ、國防充實ヲ今日ニ於テ計畫スルコトヲ否認セナケレバ順序ガ立タヌノデアリマス、成程世間デハ、是マデ配當金ナルモノハ、配當ヲ受クル人ミガ自分ガ稅ヲ出シテ居ルト云フ考ハ殆ドナインデアル、是ハ習慣ノ致ス所、會社デ稅ヲ拂ウテ、配當ヲ取ル身ニナツテ此配當金ト云フモノハ殆ド無稅ト云フ觀念ヲ持ツテ居ル、株式ノ賣買、取引所ニ於テモ、矢張リ配當金ニ稅ガ掛カルト云フ考ハナイノデアリマス、無稅ダト云フ考ヲ持ツテ居ルモノニ付テ、直チニ之ガ個人ニ集積セラレ、綜合セラレテ、累進稅ヲ課セラル、ト云フカラシテ、非常ニ是ハ驚クノモ無理ハナイ、是ハ最初ノ衆議院ニ於テ修正シテ通過シマシタ改正案ハ、此配當金ニ付テ二割ヲ控除スル、

負擔力ノ強イ者ハ國費ノ負擔ヲ餘計スルト云フコトハ、是ハ當然ナコトデアル、併ナガラ苟モ所得ヲ得ルニ付テハ、如何ナル種類ヲ問ハズ。何等カソコニ所得ヲ得ル爲ノ費用ガアルト云フコトハ認メナケレバナラヌ、故ニ配當金ヲ得ルニ付キマシテモ、二割ヲ控除シタト云フコトハ、其配當所得ヲ得ル爲ノ必要ナル費用ト達觀的ニ是ハ定メラレタモノデアリマシテ、之ニ依ツテ政府ハ同意ヲシタノデアリマス、今回ハ更ニ之ヲ三割控除スルト云フコトニ致シタイ、未ダ二割デハ今日借財ヲシテ事業ヲ起ス……我國ノ事業家ト云フモノハ悉ク皆私財豊富ナル人ノミデハナクツ、多クハ負債ヲ起シテ仕事ヲスルモノガ多イノデアツテ、ソレデ我國ノ產業ハ發達ヲシテ行クノデアル、ソレ故ニ此配當ノ控除額ヲ更ニ一割殖シテ三割ニスルガ、產業發展上ニ於テ必要ト認メラレタノデアリマス、併ナガラ矢張リ配當金ヲ個人ノ他ノ所得ニ綜合シテ、累進率ヲ課スルト云フ政府ノ主義ハ、之ガ爲ニ聊カモノ傷ケラレハ居ラヌノデアリマス、ソレカラ社會主義ヲ加味シタ……是ハ社會政策ノコトデアリマセウガ、決シテ政府ハ社會主義ナルモノヲ今日加味シテ居リマセヌ、臣民能ク社會政策ト云ヒマスルガ、此社會政策ト云フ意味ハ、詰リ稅ノ上デ申シマスレバ、貧富ノ間ニ於テ國費ノ負擔ヲ公平ナラシムルト云フコトニ歸著スルモノデアル、故ニ擔稅能力ノ薄キモノニハ課稅ヲ輕クシテ擔稅能力ノ強イ者ニ向ツテハ負擔ノ率ヲ高カメル、斯ク云フコトデアリマシテ、今日御覽下サルト能ク分リマスルガ、第一個人ノ第三種所得稅ノ課稅率ト云フモノハ、現行法ニ比較シマシテ、著シク低下シテ居ルノデアリマス、又五百圓ノ免稅點ヲ六百圓ニ引上げテモノ居リマス、而シテ現行法ハ百分ノ三デアルモノヲ、其六分ノ一二課稅率ヲ下ゲテ、百分ノ零「コンマ」ノ五ト云フコトカラ、出發モノヲ控除シテ、然ル後尙ホ六百圓以上ノ所得ガアルモノニシテ初メテ居ル、其他、幼者、老者、不具廢疾等ノ扶養ノ義務ヲ認メマシテ、サウ云フモノニ付テハ、所得ノ多少ニ依ツテ一人ニ付キ百圓、七十圓乃至五十圓ト云フモノヲ控除シテ、然ル後尙ホ六百圓以上ノ所得ガアルモノニシテ初メテ居ルノ所得稅ヲ納メルト云フヤウナコトニナッテ居リマスルカラシテ、是ハ所得者ニ對シマシテハ、現行法カラ見マスト云フト、著シク課稅率ハ輕減サレテ居ルノデアリマス、是ハ決シテ社會政策ト矛盾シテ居ル譯デモナイノデアル、私ハ此等ヲ以テ矢張リ社會政策ノ主義ニ適フモノト考ヘテ居ル、唯今失業者ノ出ル場合ニ於テ斯ノ如キ稅法ヲ出スノハ矛盾ダト仰シヤル、失業者ノ出ル

原因ト此稅法トハ餘リ關係ハナイト申シテ宜シカラウト思フ、失業者ガ出ルカラ增稅ハ相成ラヌト云フコトモ、道理ガ立ツカモ知レマセヌガ、ドウシテモ茲ニ增收計畫ガ必要デアツテ、國民多數モ之ヲ潔ク認メルノデアリマス、ヲ得ルニ付キマシテモ、二割ヲ控除シタト云フコトハ、其配當所得ヲ得ル爲ノ必要ナル費用ト達觀的ニ是ハ定メラレタモノデアリマシテ、之ニ依ツテ政府ハ同意ヲシタノデアリマス、今回ハ更ニ之ヲ三割控除スルト云フコトニ致シタイ、未ダ二割デハ今日借財ヲシテ事業ヲ起ス……我國ノ事業家ト云フモノハ悉ク皆私財豊富ナル人ノミデハナクツ、多クハ負債ヲ起シテ仕事ヲスルモノガ多イノデアツテ、ソレデ我國ノ產業ハ發達ヲシテ行クノデアル、ソレ故ニ此配當ノ控除額ヲ更ニ一割殖シテ三割ニスルガ、產業發展上ニ於テ必要ト認メラレタノデアリマス、併ナガラ矢張リ配當金ヲ個人ノ他ノ所得ニ綜合シテ、累進率ヲ課スルト云フ政府ノ主義ハ、之ガ爲ニ聊カモノ傷ケラレハ居ラヌノデアリマス、ソレカラ社會主義ヲ加味シタ……是ハ社會政策ノコトデアリマセウガ、決シテ政府ハ社會主義ナルモノヲ今日加味シテ居リマセヌ、臣民能ク社會政策ト云ヒマスルガ、此社會政策ト云フ意味ハ、詰リ稅ノ上デ申シマスレバ、貧富ノ間ニ於テ國費ノ負擔ヲ公平ナラシムルト云フコトニ歸著スルモノデアル、故ニ擔稅能力ノ薄キモノニハ課稅ヲ輕クシテ擔稅能力ノ強イ者ニ向ツテハ負擔ノ率ヲ高カメル、斯ク云フコトデアリマシテ、今日御覽下サルト能ク分リマスルガ、第一個人ノ第三種所得稅ノ課稅率ト云フモノハ、現行法ニ比較シマシテ、著シク低下シテ居ルノデアリマス、又五百圓ノ免稅點ヲ六百圓ニ引上げテモノ居リマス、而シテ現行法ハ百分ノ三デアルモノヲ、其六分ノ一二課稅率ヲ下ゲテ、百分ノ零「コンマ」ノ五ト云フコトカラ、出發モノヲ控除シテ、然ル後尙ホ六百圓以上ノ所得ガアルモノニシテ初メテ居ル、其他、幼者、老者、不具廢疾等ノ扶養ノ義務ヲ認メマシテ、サウ云フモノニ付テハ、所得ノ多少ニ依ツテ一人ニ付キ百圓、七十圓乃至五十圓ト云フモノヲ控除シテ、然ル後尙ホ六百圓以上ノ所得ガアルモノニシテ初メテ居ルノ所得稅ヲ納メルト云フヤウナコトニナッテ居リマスルカラシテ、是ハ所得者ニ對シマシテハ、現行法カラ見マスト云フト、著シク課稅率ハ輕減サレテ居ルノデアリマス、是ハ決シテ社會政策ト矛盾シテ居ル譯デモナイノデアル、私ハ此等ヲ以テ矢張リ社會政策ノ主義ニ適フモノト考ヘテ居ル、唯今失業者ノ出ル場合ニ於テ斯ノ如キ稅法ヲ出スノハ矛盾ダト仰シヤル、失業者ノ出ル

○矢口長右衛門君 唯今大藏大臣ノ色ム御辯明ガアリマシタガ、唯今ノ御辯明ノ如キコトハ恐ラク此議會中ニハ先キニ知ツテ居ラナイ人ハナイト云フ位ノモノダラウト存ジマス、唯今伺ツタヤウナコトハ御答ヲ得ヌ内ニ私ハ分リマシテゴザイマス、先刻ハ何カ私ガ租稅ト云フモノヲ此際納メルノハ嫌ダカラト云フ意味モゴザイマシテ輕減スル……サウ云フ趣旨ハ申シマセヌ、臣民ハ納稅ノ義務ガアル、又國家トシテ徵收スル租稅ノ一部ヲ負擔スルノハ我ミマスレバ、貧富ノ間ニ於テ國費ノ負擔ヲ公平ナラシムルト云フコトニ歸著スルモノデアル、故ニ擔稅能力ノ薄キモノニハ課稅ヲ輕クシテ擔稅能力ノ強イ者ニ向ツテハ負擔ノ率ヲ高カメル、斯ク云フコトデアリマシテ、今日御覽下サルト能ク分リマスルガ、第一個人ノ第三種所得稅ノ課稅率ト云フモノハ、現行法ニ比較シマシテ、著シク低下シテ居ルノデアリマス、一方ニハ既ニ經濟調査ウニ、斯ウ云フコトガ我ミノ希望スル所デアリマス、一方ニハ既ニ經濟調査會等モアル今日、今茲ニ此私ノ目カラ見ルト缺點多キモノヲ茲ニ出スト云フヨリハ、何レカノ方法ヲ以テ、而シテ之ヲ延期スルガ相當ト思ツテ居ル位、今大藏大臣ト私ノ間ニ種々質疑ヲ致シマスレバ、應答ヲ致シマスレバ時間ノ申シタコトハ能ク又味ハヘルト共ニ、私ノ申上ゲタコトモ、能ク又御考ヘ置キヲ願ヒタイ、私ハ質問ハ是デ止ママス

○阪本鉄之助君 マダ通告ガアリマスカ
○議長(公爵德川家達君) マダアリマス
○伯爵奥平昌恭君 私ハ矢口君へ、大藏大臣ノ答辯ニ付テ少シ御尋シテ見タ
居ルノデアリマス、是ハ決シテ社會政策ト矛盾シテ居ル譯デモナイノデアル、私ハ此等ヲ以テ矢張リ社會政策ノ主義ニ適フモノト考ヘテ居ル、唯今失業者ノ出ル場合ニ於テ斯ノ如キ稅法ヲ出スノハ矛盾ダト仰シヤル、失業者ノ出ル

○議長(公爵德川家達君) 後デ願ヒマス、鈴木總兵衛君
○鈴木總兵衛君 私ハ簡單デゴザイマスノデ議席カラ述ベサシテ戴キタイ、此所得稅法改正案ニ付キマシテ、大藏大臣ニ質問イタシタイノデアリマス、

ソレハ數多アリマスルガ、其中大體ニ付イタ所ヲバ二三伺ヒタイノデアリマス、此改正案ハ政府ニ於テ既ニ本年ノ初メニ於テ御提出ニナリ、既ニ衆議院ニ於テハ修正ニナッタノニ御同意ニナリマシタ、今般又此案ヲ提出ニナッテ、

衆議院デ再ビ修正ニナッタ、是ニ對シテ又矢張リ御同意ニナリマシタ、實ハ政府ニ於テ交譲ト云フ美德デアリマスレバ、其邊マデハ敢テ疑フノデハアリマセヌガ、斯ノ如ク度、御修正ガアル度ニ御同意ガアルトナリマスルト、其上ハ最早一步モ讓ラスト云フ御方針カ、本院ニ於テ相當ナル所ノ修正ガ出タレバ、矢張リ御同意ニナルト云フノカラ第一ニ伺ヒタイ、ソレカラ第二ニハ、本法ハ八月一日ヨリ施行スル、即チ附則ノ項目デアリマス、此上ニモ個人ノ第三種ノ所得ニ付テハ大正九年度ヨリ行フ、即チ今日議シテ既往ニ溯ルト云フ場合ニ當リマスルガ、是ハ自分ノ考ヘル所ニ依リマスルト云フト、一面ニ國防費ハ此決定後デ可決セラル、ト、數月ヲ經過シタ後デ見積ラレタ所ノ經費モ自然全額ハ使ヘヌダラウト思ヒマス、取ルモノハ溯ツテ取り、歳出ノ方ニ於テハサウ使ヘナイト云フコトデアル、其邊ノ所ハ如何デアリマスカ

〔國務大臣男爵高橋是清君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(男爵高橋是清君) 御答イタシマス、本院ニ於テ修正セラレタ場合ニ於テ、政府ガ同意ヲスルカシナイカト云フコトヲ豫メ確メテ置キタイト云フ御考デアリマスルガ、絶對ニ修正ヲ認メヌトモ政府ハ言ハレヌ譯デアリマス、唯今申シタ通り又過日來申シマシタ通り、政府ノ目的トスル財源ヲ得ルコトニ妨ゲナク、歲入ノ計畫ハ矢張リ行ハレテ、而シテ政府ノ所得稅ニ取リマスル所ノ納稅ニ付テ執リマシタル所ノ主義、即チ配當金ヲ以テ個人ニ増課スル、其主義ヲ破ラヌ範圍ニ於テノ修正デアリマシテ、而モ現在ノモノヨリ好キ修正デアルト申スコトガ出來マスレバ、而シテ兩院ヲ通過シマシタナラバ、政府ハ是ニ同意スルコトニ吝カナラヌノデアリマス、ソレカラ又第二ノ御問ハ、成程一月一日ニ溯リマスルケレドモ、此八月一日以後ニ實行スル法律ヲシテ一月一日ニ溯ラセル點ハ、納稅者ノ利益ニナル點ノミ溯ラセマス即チ率ヲ減ズト云フヤウナコトデ、詰リ減少ニナル方ヲ溯ラセタイ、増徵ニナル方ハ溯ラヌノデアリマス、ソレ故ニ國防計畫モ纏テ三分ノ一ハ減ッテ居ルノデ、四箇月後即チ增收モソレダケ九年度ノ增收ガ減ッテ居ルノデアリマス、其意味サウンテ此納稅者ニ對シテ利益ニナル點ノミヲ一月一日カラ施行スル其他ノモノハ矢張リ是ハ八月一日以後ト御承知下サレバ疑ヒナイコトデアリマス

○鈴木摠兵衛君 尚ホ伺ヒタイコトガアリマスガ、餘リ長クナリマスカラ是シタガ、是ハ主計局長ヲシテ御答セシメタ方ガ、詳シクテ宜カラウト思ヒマスシタ、其所得稅ノ調査ト云フモノハ、御承知ノ如ク毎年八月一日カラ三十日間ヲ期限トシテ調査會ガ開カレル、此改正案ノ決定ニナリマシテ一般ヘ公表サレルノガドウシテモ八月ノ初デアリマス、其際ニ各稅務署ガ原案ヲ調べテ、

調査會ニ付スト云フコトハ餘程至難ナコトデアリマス豫メ此位デ議會ハ通過スルデアラウト云フ豫想的カラス様ナモノヲ拵ヘレバ別デアリマス、其決定ヲ見テカラ、而シテ後ニ調査計畫ヲバ調査會ニ出スト云フコトハ容易ナ業デ無イト思ヒマス、其邊ハ差支ナイト云フ御見込デヤッテ仕舞フト云フノ御精神デアルカ、モウ一つ伺ヒタイコトハ、ソレハ少シク細目ニ瓦リマスガ、法人ノ上ニ於テ百分ノ八ヲ控除シ、ソレカラ以上ハ累進率ヲ以テ課稅スルト云フコトガ初メニアリマスガ、既ニ戰時利得稅デ百分ノ十二ヲ控除サレタモノデアル、ソレガ百分ノ八ト定メラレタモノガ一般ノ率ト云フ上カラ見テモ、又申上ゲタ如ク戰時利得稅ノ比較カラ云ツテモ、其當ヲ得ヌカト思ヒマスガ、其邊ハ如何ナル御趣意デアリマスカ其邊ノ解釋ハ……

○國務大臣(男爵高橋是清君) 此席カラ申上ゲマス、調査期限ハ、此法案ニシテ成立致シマスレバ、九年度ニ對シマシテハ一箇月遅クラカスコトニ規定シテアリマスガ、ソレカラ百分ノ八ト云フモノガ、是ハ資本即チ總資本積立金或ハ繰越金總テスウ云フモノヲ、拂込基本金以外斯様ナモノニ割當テ、ノ八歩デアリマスカラ、基本金ニサウシテ、多クハ一割以上ニナルト云フ心積リヲシタ譯デアリマス

〔政府委員西野元君演壇ニ登ル〕

○政府委員(西野元君) 先刻、目賀田男爵ヨリ御尋ノゴザイマシタル要旨ハ、私ハ此席ニ居リマセヌデ、或ハ自分ノ伺ヒ達ヒガゴザイマスカ、了解達ヒガゴザイマスカ知レマセヌガ、多分政府ガ追加豫算ヲ以テ繼續費豫算ヲ要求シタル先例アリヤ否ヤト云フ御質問ノヤウニ承知イタスノデアリマス、其意味ニ於テ御答ヘイタシマス、ソレハ先例ニ依リマスレバ大分澤山ゴザイマス、最近ノ例ヲ申上ゲマスレバ、四十一議會ニ於キマシテ、高等諸學校ノ創設及

相變ラズ東京府下ノ離島ヲ優遇セラル、ト云フコトハ、少シ了解イタシ兼ネマス、ナゼカト申シマスト、鹿兒島縣ニ屬スル大島ノ群島及ビ沖繩縣ニ屬スル群島ハ人文ノ程度進歩ノ程度ニ於テ、無論東京府下ノ小笠原島ナドハ隔絶シテ居リマスカラ、問題ニ致シマセヌトシテモ、物資等ニ於テ裕ニ是等ノ諸島ニ優ツテ居ルノデアリマス、然ルニ遠キ所ノ島ニ一般ノ島ニ法律ヲ施行サレテ、殊ニ伊豆ノ大島或ハ八丈島ノ如キ、殆ド頻々東京ト交通シテ今ハ開ケテ居リマスノデゴザイマスガ、之ヲ除外ナサルト云フコトハドウ云フ理由デアリマスカ、四十一年ノ法律第二十四號ノ改正法案ニ於テ見マスト、沖繩縣ニ於ケル民度ノ昂進ニ鑑ミテ、酒造稅ノ輕減ヲ廢スルト云フコトノ改正デアリマシテ、沖繩縣ノ民度ガ、非常ニ昂進シタト云フノデ、是マデ輕減シタ酒造稅ヲ沖繩デハ改メラル、ニ拘ラズ、所得稅法ニ於テハ東京府ノ小笠原島、伊豆七島ニ限ツテ除外セラル、ノハ、如何ニモ調査ガ普ク行渡ツテ居ナイト思ヒマス、何カ目ノ先ニ見エテ居ルモノハ善クシテヤルノデアルカ、從來斯ウナツテ居ルカラ、マア斯ウシテ置カウト云フ姑息ナ御考デアリマセウカ、誠ニ不可思議ニ存ジマスカラ、此點ニ付テ明確ナル御説明ヲ請ヒタイト思ヒマス○國務大臣(男爵高橋是清君) 唯今ノ御尋ノ伊豆七島、之ニ對シテ所得稅ノガ低イ故ニ從來ノ通り此所得稅ヲ施カヌ、是ダケノ理由デゴザイマス及ビマセヌノハ、沖繩其他ニ對シテ較ベテ見マスト云フト、民度ガ低イ、即チ產業ノ發達ガ後レテ居ル、民度ガ低イト云フコトダケデゴザイマス、民度ト御調查ヲ願ヒマス、アノ位開ケテ居ル所ノ伊豆七島ガ沖繩ヤ大島ノ離島ヨリ民度ガ低イト思ツテ居ルヤウナ觀察デ政治ヲセラレテハ困リマスカラ、實

タカラ一應申シマスガ、段々御説明ヲ承ハツテ居リマス中ニ、政府ハ國費ノ負擔ヲ期スル爲ニ本案ヲ提出シタト云フコトヲ申サレテ居ラレマスガ、何故ニ所得稅ノミヲ選バレタノデアリマスカ、此理由ニ付テ少シク徹底シタ御説明ヲ願ヒタイト思ヒマス、若シ政府ガ所得稅ノミヲヤリマシタコトノ理由ニ付キマシテ、商工業者其他ガ戰時ニ於テ非常ナ富ヲ蓄積シタト云フ所カラシテ、此本案ヲ選ンダト云フコトニアリマスナレバ、如何ニモ戰時ニ於キマシテ、空シク富ノ蓄積ヲシタモノモアルデアラウ、例ヘバ米ノ如キハ戰時ニ於テ非常ナ騰貴ヲシテ居ル、負擔力ノ點カラ云ヘバ、商工業者ノ負擔力カラ之ヲ選ブト云フコトハ同ジク負擔力ノ點ヲ論ジテ見マスレバ、農業者モ米價ノ騰貴ニ依リ且又副業トシテ、蠶絲其他ノモノニ於テ、是マデ十分利得ヲ得テ居ルノデアル、尤之ニ對シテ調査ヲナサルコトハ困難デアルカラ、出來ナイクト云フコトヲ言ハレルナラバ、同ジク所得稅ニ付キマシテモ困難デハナイカト思ヒマス、其財源ニ付テ御調査ヲナサルコトハ困難デアラウト思ヒマス、其御調査ヲナサル例ヘバ戰爭ニ於テ綿糸、綿布、其他船舶工業ノ如キハ非常ナ富ヲ得マシタデセウケレドモ、此二月以後ニ於キマシテ、段々御承知ノ通リ物價が急激ニ暴落シテ居ル、富ノ異動ト云フコトモナカヽヽゴザイマス、其御調査ヲナサルコトニ付キマシテモ、非常ナ御困難デアラウト思ヒマス、ソレ等モ顧ミマセズシテ本案ヲ御提出ニナリマシタニ付キマシテハ、富及ビ物價ガ下落シテモ、政府ハ豫算ニ計上シタヽケヲ取ルト云フ御見込デ、御提出ニナッタノデアリマスカ、其點ヲ伺ッテ見タイト思ヒマス、又矢口君ノ御質問ニ對シテ大藏大臣ノ御答辯ノ中ニ、國民ノ負擔ハ公平ヲ期スルト云フコトニアリマスカラ、御尋ネシタイト思ヒマスガ、今回衆議院ニ於キマシテ本案ヲ修正サレタト云フコトニ付キマシテハ、アノ修正ノ方ガ政府ノ御出シニナッタ原案ヨリモ負擔ノ公平ヲ期スルノデゴザイマスカ、ソレヲ承ハツテ置キタイト思ヒマス、ソレカラ社會政策ヲ加味シタト云フコトカラ申セバ、即チ政府ノ社會化ト云フコトニナラナケレバナラヌ、即チ是ガ國民ノ負擔ガ公平デナケレバナラヌト云フコトニナルナラバ、獨リ所得稅ノミヲ選ブト云フコトハナカラウト思ヒマス、先程矢口君ノ言ハレマシタ權衡ヲ得ザル云々ハソレデアル、營業稅其他ニ就テ按分的ニ政府ハ何故ニ御調査シナカツタカト云フ御質問ニアリマス、此點ニ就テハ政府ニ詳細ニ御調べニナツタコトガアリマスカ、如何デアルカト云フコトヲ御尋ネシタイノデアリマス、簡單ニ是ダケヲ伺ヒマス

〔國務大臣男爵高橋是清君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(男爵高橋是清君) 奥平伯ノ御尋ネノ第一ハ何故ニ此増徴計畫ヲ
計ルニ當ツテ政府ハ所得稅ノミヲ捉ヘルカト云フ、斯ウ云フ御趣意デアリマ
スガ、無論所得稅及ビ酒造稅ニ取ツタノデアリマス、所得稅ナルモノハ最各種
ノ稅ノ中デ彈力ノアルモノデアリマス、且是ハ廣ク國民ニ及ンデ居ル、農家
ノ方ニモ農業所得ト云フモノガアル、山林ノ所得モアル或ハ工業ノ所得モア
ル、所得ナルモノハ凡テノ人ニ皆掛カルモノデ、單ニ或ル種類トカ云フモノ
デナイノデ、最廣ク國民ニ是ハ負擔スル所ノモノデアツテ、而シテ最モ彈力ノ
アルモノデアル、國稅ノ中デ最モ所得稅ナルモノハ、諸稅ノ親柱ニナツテ居
ルト云ウテ宜イ、故ニ之ニ取ルノハ當然ノコト、考ヘマス、ソレカラ物價ガ
下落シタガ、政府ノ豫算ニ計上シタ所ノ收入ニナルト思フカト云フ御尋デア
リマスガ、是ハ成程今日財界ガ不況ニ陥ツテ凡テノ物價ガ下落ヲシタト云フ
ヤウナ場合ニ從ツテ各人ノ利益モ減ッタト云フ狀況デアリマスカラシテ、一應
其點ニ付テ御懸念ナサルノハ、御尤ナ次第デ此點ニ付テハ政府モ深ク研究モ
リマスガ、考慮モ致シタノデゴザイマスルガ、元々九年度ノ豫算ヲ立ツルニ方リマ
シテハ殊ニ此所得稅改正ニ付テ調査ヲ遂グマシテ、之ヲ基礎ニシマシタル數
字ハ、大正六年度ノ實績ヲ基礎トシタノデアリマス、大正六年度ノ實績ヲ基
礎トシマシテ、大正七年度ノ現在ノ情況ニ鑑ミテ多少ノ取捨ヲ加ヘタ、斯ウ
云フコトニナツテ居リマス、世間デハ大正七年ガ好景氣ノ絶頂デ、八年カラハ
下リ阪ニナルト云フコトガ一般ノ豫想デアリマシタ、併ナガラ大正八年ノ歲
入ノ實績モ今日デハ分ツテ居ルノデアリマス、斯ワシテ此大正八年ノ實績ニ
付テ、大正九年度ノ豫算ノ收入ノ見込如何ト云フコトヲ考慮イタシマスルト
云フト、決シテ歲入不足ヲ告ゲルヤウナ憂ヒガ……虞レガ無イト云フ、斯ウ
云フコトニ斷定ヲ致シタノデゴザリマス、是ハ詳シイコトハ委員會ニ於キマ
シテ、政府委員ヨリ表ツ以テ御答スルコトガ出來ヤウト考ヘマス、大體ニ於
テ八年度ノ實績カラ見ルト云フト、九年度ノ歲入計畫ハ三割モ控除シタ形ニ
ナツテ居ル、ソレ故ニ目的ノ金額ヲ收ムルコトニ於テハ違算無カラウト、斯
ウ確信ヲ致シテ居リマス、ソレカラ最後ハ社會政策……

○伯爵奥平昌恭君 モウ一遍申シマセウカ、最後ノ點ハ斯ウ云フ點デゴザイ
マス、詰リ要領ダケヲ申セバ、所得稅法案ノ如キハ共ニ世間ニ色ニ非難モア
ル、申サバ完璧ノモノデハナカラウト思フ、假リニ完璧ノモノデナイトスル

ナラバ、國防計畫ナラ國防計畫ノ爲ニ、政府ガ御提出ニナツタ所トスレバ、
他ノ地租トカ營業稅トカ、是等ノモノニモドウシテ手ヲ著ケナカツタカ、即チ
一方ニ於テハ所得稅ニ御手ヲ御著ケニナルニ付キマシテハ、充分ナル御調查
ト云フモノモ隨分困難デアリマセウシ、社會ノ實體ヲ御調べニナルノモ困難
デアリマセウ、ドウセ調査ニ付テ御困難デアラウト云フコトニシマスルナラ
バ、同ジク地價ニ付テモ御調查ガ御困難デアラウ、困難デアラウト云フモノ
同士ヲ取組合セテ、一時ナリトモ國費ノ負擔ヲ各種ノ稅種ニ分ケタナラバ、
一層稅ノ社會化ト云フコト、社會政策ヲ加味シタコトガ徹底的ニ行ハレハシ
マイカ、斯ウ云フ點ヲ御聽キ申シタノデアリマス

○國務大臣(男爵高橋是清君) 分リマシタ、社會政策ト云フコトヲ以テ稅ノ
負擔ノ公平ヲ期スル、是ハ確カニ社會政策トシテ必要ナコトデアリマスルガ、
此所得稅改正案ニ於テ政府ノ申シマスル、社會政策ヲ加味シタルト申シマス
ルノハ、擔稅能力ノ低イ者ニハ之ヲ輕クシ、負擔力ノ多イ者ニハ之ヲ強クス
ルト云フ、從來ト其點ガ變ツテ居ルト云フ主トシテ意味デアリマス、ソレカ
ラ諸稅ノ調査ヲシテ各稅ノ間ノ比較公平、是ハナカ／＼容易ノ業デアリマセ
ヌ、今日稅トシテ負擔力ノ非常ニ強イ稅種モアリマス、又一方彈力ノナイモ
ノモゴザリマス、或ハ此上ニ稅率ヲ増加スレバ、最早堪ヘ切レスト云フコト
ニ立至ツテ居ルモノモ、中ニハアルノデアリマス、斯ノ如キ各種ノ稅ニ向ツテ、
此國防計畫ノ爲ニ要スル費用ヲ按分的ニヤリマシタナラバ、是ハ到底ソノ圓
滿ニ通過スルコトヲ期シ難イト、私ナドハ考ヘテ居リマス、營業稅、通行稅、
織物稅、有ラユル稅ニ向ツテ此國防ノ經費ノ負擔ヲ按分シテ掛ケルト云フコ
トハ、今日ノ所得稅法ニ對シテ色々苦情ノ生ズル所ヲ以テ見マシテモ、ナカ
／＼容易デナイコトダラウ、サウシテ之ニ付キマシテハ、先刻モ申シマシタ
通リ、先づ所得稅ト云フモノハ最モ彈力ニ富ンデ居ルモノ、サウシテ農商工
總テ勤勞者ニ至ルマデ皆總テ是ハ負擔スル所ノ稅、稅ノ大宗デアリマス、依
テ之ト酒稅ニ取ツタノハ、政府ノ計畫トシテハ穩當ナルモノト、政府デハ信
ジテ居ルノデゴザイマス

○議長(公爵德川家達君) 若槻禮次郎君
○伯爵奥平昌恭君 モウ一ツ残ツテ居リマス、簡單デゴザイマスケレドモ……
○議長(公爵德川家達君) 若槻君ヲ呼ビマシタカラ、後デ願ヒタイト存ジマ
ス

○伯爵奥平昌恭君 ソレデハモウ止メマス

○若槻禮次郎君 私ハ此法案ニ付テ伺ヒタイコトハ、大抵是マデニ質問者ノ御尋ネニナツタ所ニ大體同ジイノデアリマス、デ御答辯ハ御尤ト申上ゲル譯ニハ參リマセヌカラ、何レ尙ホ御説明ヲ伺フ機會ガアラウト存ジマスルカラ、繰返シテ伺ヒマセヌガ、唯鈴木總兵衛君トノ御問答ニ付テハ、ドウシテモ茲ニ伺ツテ置カヌケレバナラスト思ヒマス、元來私ハ此臨時議會ニ於テ、所得

稅法ヲ御決メニナルト云フコトハ宜シクナイト考ヘテ居リマスガ、ソレニハ色ミノ理由デ左様ニ考ヘテ居マス、其大體ノ理由ハ年ノ七箇月モ過ギテカラ、ルカラ八月一日ニナツテカラ一月カラ溯ツテ増稅スルト云フコトハ宜シクナイト、斯様ニ私ハ考ヘテ居リマス、然ルニ鈴木君ノ質問ニ對シテ大藏大臣ハ、ソレハ減稅スル所ダケノ稅種ヲ取ルノデアツテ、增稅スルノハ溯ルノデナイト云フ御答辯デアリマス、此御答辯ハ此法案ノドノ條文ニ依テ御答ニナツタカ、ソレヲ承ハリタイ

〔政府委員松本重威君演壇ニ登ル〕

○政府委員(松本重威君) 法文ニ關係イタシマスカラ、私カラ申上ゲマス、今回提出イタシマシタ改正所得稅法案ノ附則ニ「本法ハ大正九年八月一日ヨリ施行スト書イテアリマス、從ツテ原則トシマシテハ八月一日以後ノ所得ニ適用セラルコトニナツテ居リマス、其二項ニ持ツテ參リマシテ第三種ノ所得一種ノ所得稅第二種ノ所得稅言葉ヲ換ヘテ申シマスレバ法人ノ所得稅及第二種、即チ公債社債並ニ定期預金ノ利子ニ關シテハ、八月一日カラ新法ヲ適用サレマス、第三種即チ個人ノ所得稅ダケハ「大正九年分所得稅ヨリ本法ヲ適用ストアリマスカラ、個人ノ所得稅ハ一年ヲ通ジテ新法ヲ適用サレマスカラ、新法ハ大體ニ於テ稅率ヲ低減シタモノハ一月カラ適用サレルコトニナツテ居リマス、其外勤勞所得ハ二割ヲ控除スルトカ、或ハ山林所得ニ付テハ他ノ所得ト各別ニ稅率ヲ適用スルトカ云フコトハ、何レモ稅ノ低減ヲ目的トシテ新法ハ規定サレテ居リマス、此法案ヲ適用イタシマスノデアリマスカラ、結局第三種ノ所得稅ニ付テハ改正稅法ヲ適用スルコトニナツテ、負擔ヲ輕減スルコトニナツテ居リマスカラ、此關係ヲ先程大藏大臣ハ御説明ニナツタモノト思ヒマス、法文ニ涉リマスカラ御答イタシマス

○若槻禮次郎君 法文ノ解釋デハアリマセヌカラ、私ハ大藏大臣ニ伺ヒタイ、大藏大臣ハ減稅スル所ハ適用スル、增稅スル所ハ適用セヌト云フ御答デアリマシタ、今ノ政府委員ノ説明ニ依ルト、減稅ノ分モ增稅ノ分モ共ニ適用スルト云フ御説明デアリマスガ、間違ツテ居ルカラ御取消シニナルト云フノナラバソレデ宜シイ、大藏大臣カラハツキリ御説明ヲ願ヒマス

〔國務大臣男爵高橋是清君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(男爵高橋是清君) 第三種所得稅ハ一月カラ十二月マデノ分ニ掛日ニ溯ツテ第三種ノ所得稅ノ働クト云フコトハ、詰リ政府委員ノ申シマシタ輕減スル方ノ、所謂勤勞所得ノ控除ヲ多クスル、或ル稅率ヲ輕クシテ行クト云フ方ノコトガ、大正九年一月カラ十二月マデノ分ニ及シテ行クノデアリマス、サウシテ大正十年一月以後ニ至ツテ其前ノ實績ニ依テ、個人ニ對スル第三種ノ增徵ハ實際行ハレテ行クコトニナリマス

○若槻禮次郎君 是ハ私ハ舉ゲ足取リニ申スノデハナイノデアリマス、私ハ元來此度ノ所得稅法案ハ、此臨時議會デ決定スルノハ反對デ、一年延バサレルガ相當ダト思ヒマス、其理由ノ重モナルモノガ唯今申上ゲル點ニアルノデ、大藏大臣ノ仰シヤルノハ間違ツテ居ルノデ、政府委員ノ答辯サレルノガ本當デアルト私ハ思ヒマス、然ルニ大切ナル點ヲ間違ヘテ御答ヘニナツテ居ル、何ダカ增稅ハ溯ツテ適用ハセヌト云フヤウニ仰シヤルト、此稅ハ通過シテモ宜イト云フ感ジガ一般ニ行渡ル、此處ガ大切ナ點デアルカラ伺フノデ何モ一普遍間違ヘニナツタカラ、何處マデモ大藏大臣ヲ追究スルト云フ考デハアリマセヌガ、間違ツタラ間違タト云フコトヲハツキリ仰セニナツテ戴キタイ、サウシテソレガ善イカ惡イカト言フコトハ、是ハ又大ニ意見ヲ鬪ハセナケレバナリマセヌガ、條文ニ無イコトヲ言ウテ、何ダカ政府ハ恩典ダケハ溯ツテ適用スルト云フコトニナリマスレバ、私共ガ是カラ次ニ主張スルコトニ大變影響ガアルノデアリマス、舉足ヲ取ルト云フノデハアリマセヌガ、前ニ仰シヤツタコトガ御間違ナラバ、間違ツタロ仰シヤレバ其以上ハ意見ニナリマスカラ

強ヒテハ申シマセヌガ、其點ハドウカ大藏大臣カラハッキリト此議場ニ於テ、
鈴木君ノ質問ニ對シテ増稅ニ溯ラスト仰シヤツタノハ間違デアル、矢張リ第
三種ノ所得稅ニ溯ッテ一月カラ御取リニナルノデアルト云フコトヲ、明ラカ
ニ御答ヲ願ヒタイ

○國務大臣(男爵高橋是清君) 若櫻君ノ溯ッテ一月カラ增徵スルト云フノハ、
是ハ何ニ依ツテ御見解ニナルノデアリマスカ、私ニハ御質問ガ分ラナイ

○若櫻禮次郎君 ソレナラバ申上ゲマス、「第三種ノ所得ニ付テハ大正九年分
所得稅ヨリ本法ヲ適用ス」ト云フコトガドウ云フ意味ニナルカ、第三種ノ所得
稅ダケハ大正九年ノ一月カラ十二月マデニ付イテ此法案ニ依ル稅率ヲ適用ス
ルト云フコトデハアリマセヌカ、サウナレバ溯ッテ增稅スルト云フコトニハナ
ラヌノデスカ

〔政府委員松本重威君演壇ニ登ル〕

○政府委員(松本重威君) 唯今ノ御尋ニアリマスガ、大藏大臣ガ增稅ニナル
分ハ溯ッテ適用セヌトスウ言ハレマシタノハ、詰リ第三種ノ所得ノ如キモノハ
新法ヲ適用スル、即チ改正法案ヲ適用スル、而シテ第三種ノ所得ニ對スル改
正法律案ハ、大體ニ於テ現行法ヨリモ其負擔ガ輕クナルト云フ結果ニナルカ
ラ、ソレデ第三種ノ所得ニ付テハ本年一月ヨリノ分ニ付テ新法ヲ適用スル、
併ナガラ之ガ爲ニ現行法ヨリモ大體ニ於テハ負擔ヲ増スコトハナイ、第一種
ノ所得ノ如キハ是ハ明ニ增稅ニナリマス、併ナガラ此モノハ八月一日以後ノ
モノニ對シテ増稅スルノデアル、故ニ大體ニ於テ國民ノ負擔ヲ増スベキモノ
ニ對シテハ遡ラセナイ、負擔ヲ増サナイ分ニ對シテハ年ノ初カラ適用サセル、
斯様ニ御答ニナツタモノ、如ク解釋シテ居リマス、ソレデ大抵御満足カト思ヒ
マスガ……

○若櫻禮次郎君 サウ云フ御答辯ナラバ、私ハ此席上デ稅率ヲチヨット算出シ
テ出シテ居リマスガ、ドウゾ現行ノ稅率ト此度ノ稅率ト比較シテ御示シヲ願
ヒタク、果シテ減ジテ居リマスナラバ其比較ヲ御示シヲ願ヒタイ、自分ノヤッ
タ計算ガ誤ッテ居ルカ知レマセヌガ、下ノ方ハ減ジテ上ノ方ハ増シテ居ルヤウ
ニ出テ居リマスノデ、私ハ此增稅ヲ如何ナサルカト云フコトヲ御尋スルノデ
アリマス

〔政府委員松本重威君演壇ニ登ル〕

○政府委員(松本重威君) 唯今稅率ヲ示セト云フ御話デゴザイマスガ、成程

極ク多額ノ所得者ニナリマシテ、何デモ四五百万圓以上ノ所得者ニナリマス
ト、改正所得稅法ニ依ツテ課稅セラレル方ハ、第三種ノ所得ニ付テモ、少シ重
クナリマス、併シソレハ殆ド稀有ノ場合ト想像致シマス、先ヅ大體ヨリ申セ
バ第三種ノ所得即チ個人ノ所得稅ハ輕減セラル、ノデアリマスカラ、ソレデ
溯ッテモ宜シイト申シタノデ、私ハ先程カラ説明ノ大體ノ上ニ於テ申上ゲタノ
モ其意味デアリマス

○若櫻禮次郎君 若シ四五百万圓ノ所得稅ノ悉ク輕減シタナラバ、先程申上
ゲタコトハサウ云フコトナラバ成ルベク溯ッテ適用スルコトヲ望ムノデアリ
マスガ、唯一言御確メ致シマスガ、四百万圓カ、五百万圓カ、ドッヂカ存ジマセ
スガ、ソレカラ以下ノ所得者ニハ增稅デナイ、却ツテ皆減稅ニナルト云フ言葉
ハソレハ確デアルノデアリマスカ、先ヅソレダケ……

〔政府委員松本重威君演壇ニ登ル〕

○政府委員(松本重威君) 唯今私ガ申上ゲタコトハ詰リ四百万デシタカ三百
万圓デシタカ、兎ニ角三四百万圓以上ト記憶シテ居リマス、其以上ノ場合ニ
ハ新稅ノ方ガ重クナルト思ヒマシタガ、ソレ以下ノ分ニ付キマシテハ九年度
ニ限ツテハ、此改正案ヲ適用スルコトニ依テ負擔ハ增加シナイト自分ハ信ジテ
居リマス、若シ之ニ九年度所得稅ニシテ所謂株式ノ配當ヲ加算セラレマス場
合ニ於テハ増スカモ知レマセヌガ、九年度ニ於テハ株式ノ配當金ハ加算シナ
イコトニ法律ガ出來テ居リマスカラ、而シテ此株式ノ配當金ヲ加算シナイ九
年度ノ所得ニ對シテ新稅率等ヲ適用シマスレバ頗ル巨額ノ所得者ヲ除イテハ
大體ニ於テ減稅ニナルト信ジテ居リマス

○若櫻禮次郎君 モウ私ハ質問ヲ止メヤウト思ヒマシタガ今ノ御説明ニ付テ
モウ一遍御尋シナケレバナラヌ、私ガ誤ッテ居レバ自分ノ説ハ撤回スルノデア
リマスガ、株式ノ配當ガナケレバ減稅スルト云フコトデアルガ、ソレハ株ヲ
持ツテ居ル人ダケノ話デアリマス、世間ニハ株ヲ持ツテ居ル者、持タナイ者、
イロ／＼アルノデアリマス、株式ヲ持ツテ居ル者、株券ノ所有者ダケノコトヲ
私ハ御尋シタノデナイ、所得稅法ガ所得幾ラニ對シテ稅率ガ茲ニ極ツテ居ル
ガ、此稅率ダケハ私ハ現行法令ノ租稅ノ關係ダト思フノデアル、大正九年度
ニ限ツテ減稅ニナルコトハナイ、大正九年ノ家族ノ數ニ依ツテ幾ラカ減稅スル
ト云フコトヲ適用セヌト云フコトニナツテ居リマスカラ、大正九年度ハ寧ロ稅
ガ増ストモ減ラナイ譯デアル、ソレデアルカラ今ノヤウナ御説明ハ困ルノデ、

本當ニ皆減稅セラレルノデアリマスガ、私ハ増稅セラレル者ハ溯トテ適用如何ト云フコトハ議論デアル、増稅ガナケレバ私ノ議論ノ根柢ガ立タナイ、果シテ其通りデアルカ、簡單デ宜シウゴサイマスカラ御答ヲ願ヒタイ

〔政府委員松本重威君演壇ニ登ル〕

○政府委員(松本重威君) 唯今ノ重ネテノ御尋モアリマスカラ、尙重ネテ申上ゲマスガ、自分ノ計算ト自分ノ信ズル所ニ於キマシテハ大正九年度ノ第三種ノ所得稅ハ現行法ヨリモ改正稅法ニ依ル方ガ確ニ大體ニ於テ負擔が輕減サル、ト確信シテ居リマスガ、ソレトモ又私ガ申スコトガ誤ッテ居ル、斯様ニナツテ居ルノデナイカト云フヤウナ何カ御調ベニナツタモノデモアリマスレバソレヲ拜見シマシテ、若シ誤リマシタナラバ誤ッタコトヲ申上ダマスガ、自分ガ唯今考ヘテ居リマス所デハ自分ニ於テハ誤リナイト信ジテ居リマス次第デアリマス

○議長(公爵德川家達君) 奥平伯爵ニ御約束ヲシテ置キマシタ

○伯爵奥平昌恭君 私ハ極ク簡單ナコトデアリマスガ、大概ハ今若櫻君ガ問ハレマシタ負擔ノ問題、大概分カリマシタカラ宣シウゴザイマス
○鈴木總兵衛君 私ハ松本政府委員ニ御尋致シマス、前ニ自分が大臣ニ伺ヒマシタ時ニハ誠ニ簡単ナル御答辯デ、然ラバ増稅ハ何處カラ出ルカ能ク調べテ見タイト思ウテ其儘質問ハ止メマシタガ、今政府委員ノ御答辯デアリマスト、今若櫻君ト數回ノ御應答ノ上カラ考ヘマスト、唯第三種所得ト言ッテモ營業、勤勞ト云フ分ニ限ツテ減ズル、株式ノ配當ハ此限ニ非ズト云フヤウナ風ニ減ズル、併ナガラ舊法ハ累進稅ニ依ツテ増シテ居ルガ、三半ガ三ニナリニナルガ、ケレドモ一面人數ノ上カラ申シマスト、金額ハ確ニ增稅トナル、コ、等ハ除外シテノ御答デアッタト心得テ宜シウゴザイマスカ

〔政府委員松本重威君演壇ニ登ル〕

○政府委員(松本重威君) 唯今私ハ若櫻サンニ御答イタシマシタノハ、大正九年分第三種ノ所得稅ハ現行法ニ依ルヨリモ改正法案ニ依リマシタ方ガ大體ニ於テ負擔が輕減セラレル、斯ウ申シタノデアリマス、サウシテ其場合大正九年分ノ所得中ニハ株式ノ配當金ヲ加算シマセヌカラ、ソレデ配當金ノ綜合課稅ト云フ關係ハ大正九年度ニ於テハ起リマセヌトスウ申シタノデアリマ

ス、右ニ關シテ唯今鈴木サンヨリ配當金ノコトハ何カ除外シテ居ルヤウニ説明スルガ、配當金ニハ配當金相當ニ配當課稅トシテアルノデナイカト云フ風ノ御尋ガアリマシタガ、是ハ法人所得稅ト個人ノ所得課稅ト區分シテ御考ヲ願ヒタイト思フガ、勿論此改正法案ガ通過シマシテ、八月一日ヨリ施行セラレマスレバ、法人ノ所得ニ付テハ法律ニ規定シテアル通り、或ハ超過所得ガアッタ場合ニハ超過所得ニ課稅セラレルト云フコトハ其通りデアリマス、唯個人ノ所得ニ關シテハ大正九年度分ニ限ツテ法人ヨリ受クル配當金ハ加算イタシマセヌコトニ法律ハ規定シテ居リマス、其關係ヲ先程申上ダタノデアリマス、是デ御了解ダト思ヒマス
○男爵目賀田種太郎君 本員ハ大藏大臣ニ御尋致シタイト存ジマス、ドウゾ大臣ヨリ御説明ヲ願ヒマス、最前大藏大臣ハ主トシテ減稅ニナルモノガ多イ、大正九年一月ヨリ課稅シテモ主トシテ減稅ニナルモノガ多イト云フ御答辯デアッタヤウニ伺ヒマシタ、元來稅ノ減ズルト増ストラ間ハズ、何レノ區別ヲセズニ其人ノ財產、人ノ權利ニ關シテ、以前ニ法律ノ效力ヲ及ボスト云フコトハ頗ル私ハ不法ト思フ、溯及スルト云フコトハ法理ニ於テ何レノ國モ之ヲ可トセヌノデアル、何ガ故ニ斯ウ云フコトヲ必要トセラル、ノデアルカ、是ハ大臣ヨリ伺ヒタイト思フ、ソレカラ今一つハ、稅ノ場合ニ限ラズシテ納稅者ハ所得稅ヲ納ムルコトニ依ツテ國ニ對スル選舉權ヲ得或ハ地方ノ議會其他ニ對スル選舉權ヲ得テ、公權ヲ得タル者ガ法律ヲ溯及セラル、ガ爲メニ其公權ヲ毀損セラル、場合ハ無論生ズルト私ハ思ヒマス、今迄是々ノ稅額ヲ納メ、直接國稅トシテ是々ノ稅額ヲ納メテ選舉權ヲ有シタル者ガ事前ニ法律ヲ溯及セシムル爲メニ其權利ニ影響ガアルカナインカ、是等ニ付テ大臣ノ説明ヲ伺ヒタイト思ヒマス
○國務大臣(男爵高橋是清君) 九年度ノ納稅者ハ皆減稅スルト云フヤウナ廣イ意味ニ對シテ御答ヲシタノデナイノデ、尙ソレハ速記ニ付テ御調ベヲ願ヒタイ、詰リ溯及スルノガ惡イ……溯及スルモノハ輕減ノ意味ニ於ケルモノデアル、增稅ノ意味デハナイ、斯ウ私ハ申シタノデアル、大正九年ニ於テ一月一日ヨリノ第三種ノ所得ニ對シテ此改正案ノ効ク所ハ納稅者ニ輕減トナルモノガ行ハレルノデアリマス、斯ウ云ウコトヲ申上ダタノデアリマス、ソレカラ選舉權ニ關シテハ、前來ノ所デハ五百圓ニ對シテ百分ノ三、ソレダケノ稅ヲ

出シテ居ル、サウシテ十圓ガ納稅資格ニナツテ居ル、今度ハ三圓ニナル、サウ

シテ輕減ヲシマシテ率ガ千分ノ五即チ百分ノ零「コソマ」五ニナリマシテ、六

百圓ガ最低度デアリマス、即チ矢張リ所得稅ヲ納ムル者ハ丁度三圓納ムルコ

トニナリマス、即チ選舉權ニハ大シテ關係ハナカラウト思ヒマス

○淺田德則君 此日程ノ第二ヨリ第七ニ至ル各案ハ何レモ極メテ重大ナル案

件ト存ジマス、此特別委員ノ數ハ十八名ト致シマシテ議長ニ於テ指名アラム

コトノ動議ヲ提出イタシマス

○子爵前田利定君 唯今ノ動議ニ贊成デアリマス

○議長(公爵徳川家達君) 淺田德則君ノ日程第二ヨリ第七マデノ議案ノ特別

委員ノ數ヲ十八名トナス動議ニ同意ノ諸君ノ起立ヲ乞ヒマス

起立者

多數

○議長(公爵徳川家達君) 過半數ト認メマス、特別委員ノ氏名ヲ書記官ヲシ
テ朗讀ヲ致セマス

〔成瀬書記官朗讀〕

所得稅法改正法律案外五件特別委員

公爵徳川慶久君 子爵田尻稻次郎君 子爵青木信光君

子爵八條隆正君

男爵村上敬次郎君

和田彦次郎君

男爵阪谷芳郎君

荒井賢太郎君

男爵藤田平太郎君

若槻禮次郎君

伊澤多喜男君

市來乙彦君

早川千吉郎君

田中源太郎君

中村圓一郎君

島定治郎君

四 所得稅

附 則

本法ハ大正九年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

本法施行前ニ終了シタル法人ノ各事業年度分ノ所得ニ付テハ仍從前ノ例ニ

依ル

參照

明治四十年法律第二十一號

第一條 権太ニ於ケル租稅ハ左ノ目ニ從ヒ徵收ス

一 戶數割

二 營業稅

三 雜種稅

前項租稅ノ種類及課率ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二條 租稅ノ徵收及滯納處分ニ關シテハ國稅徵收法ヲ準用ス

第三條 本法ニ規定スルモノノ外租稅ノ賦課徵收其ノ他必要ナル事項ニ關スル規程ハ權太廳長官之ヲ定ム

附 則

本法ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
〔政府委員古賀廉造君演壇ニ登ル〕

○政府委員「古賀廉造君」本案ハ權太ニ於ケル租稅課目中所得稅法ノ一課目ヲ追加シヤウト云フ案デゴザイマス、現在ニ於テ權太ニハ所得稅ノ一部ガ施行セラレテ居ラナイ、今度所得稅法ガ改正ニナリマシテ、是ガ執行セラル、

曉ニハ、權太ニ於テハ所得稅ヲ免ズルト云フコトニナツテ居リマス、所得稅ガナクナツテ了フノデアリマス、ソレ故ニ權太デハ財源ニ窮スルコトニ相成リマ

スカラ、更ニ權太限リニ行ハルベキ所得稅ノ一課目ヲ加ヘマシテ、從來ノ如クニ之ヲ徵收シヤウト云フ案デアリマス、何卒御審議ノ上協賛ヲ願ヒマス

○議長(公爵徳川家達君) 諸君ニ御詰リヲ致シタイト存ジマス、唯今古賀政

府委員ノ説明セラレマシタ議案ハ、第二ヨリ第七マデノ議案ト同一委員ニ付託シタイト考ヘマス、御異議ナイト認メマス

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス
〔異議ナシト呼フ者アリ〕

貴族院議長奥繁三郎

明治四十年法律第二十一號中改正法律案

明治四十年法律第二十一號中左ノ通改正ス

第一條第一項ニ左ノ一號ヲ加フ

○議長(公爵徳川家達君) 日程第九、議院法中改正法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會

右政府提出案本院ニ於テ修正議決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

大正九年七月十三日

貴族院議長公爵徳川家達殿

議院法中改正法律案

衆議院議長奥繁三郎

〔小字ハ衆議院ノ修正・
ハ同削除ノ符號ナリ〕

議院法中左ノ通改正ス

第十九條中「五千圓」ヲ「七千五百圓」ニ、「三千圓」ヲ「四千五百圓」ニ、「二千

圓」ヲ「三千圓」ニ改ム

附則

〔政府委員横田千之助君演壇ニ登ル〕

本法ハ大正九年七月一日ヨリ之ヲ施行ス
〔適用〕

貴族院議長公爵徳川家達殿
大正九年勅令第五十二號
右帝國憲法第八條第二項ニ依リ承諾ヲ求ムル爲
勅旨ヲ奉シ帝國議會ニ提出ス

大正九年七月三日

衆議院議長奥繁三郎

内閣總理大臣

海軍大臣 加藤友三郎

外務大臣 子爵内田 康哉

大藏大臣 男爵高橋 是清

陸軍大臣 田中 義一

農商務大臣 山本 達雄

内務大臣 床次竹二郎

文部大臣 中橋德五郎

遞信大臣 野田卯太郎

鐵道大臣 元田 肇

司法大臣 伯爵大木 遠吉

○議長(公爵徳川家達君) 別ニ御質疑モナイト認メマスカラ、特別委員ノ氏
名ヲ書記官ヲシテ朗讀致サセマス

〔成瀬書記官朗讀〕

議院法中改正法律案特別委員

侯爵蜂須賀 正詔君 伯爵兒 玉秀雄君 子爵井上匡四郎君

朕茲ニ緊急ノ必要アリト認メ樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ帝國憲法第八條第一項
ニ依リ大豆、生牛肉、鳥卵、綿織絲及綿織物ノ輸入稅ノ低減又ハ免除ニ關
スル件ヲ裁可シ之ヲ公布セシム

男爵目賀田種太郎君 男爵山内長人君 男爵黒田長和君
谷森眞男君 佐藤友右衛門君 今井五介君

○議長(公爵徳川家達君) 日程第十、大正九年勅令第五十二號承諾ヲ求ムル件、衆議院送付、會議

大正九年勅令第五十二號

右本院ニ於テ承諾スヘキモノト議決セリ因テ議院法第五十四條ニ因リ及送付候也

大正九年七月十二日

衆議院議長奥繁三郎

御名 御璽

〔前田正名君演壇ニ登ル〕

○前田正名君 残念ナガラ 今日ハ十分説明スルコトハ無理ト存ジマスルカ
 ラ、皆様ノ御賛成ヲ得テ、再び詳シク説明申スコトヲ希望スル次第アリマス、極ク簡単ニ要領ダク申上ゲテ置キタイト存ジマス、此調査ニ付キマシテハ、數十年來朝野ニ在ツテ聊カ經驗モアル次第アリマス、議院ニモ建議ヲ屢々シタ積リデアリマス、時勢ノ進運ニ從ツテ益其必要ヲ感ズルコトデアリマスカラ、此調査機關ノ設置セラレムコトヲ切望スル次第アリマス、此精神ハ相變ラズ國力増進ニ關スルコトデアリマス、マーツハ段々ト世ノ進ムニ付ケマシテ、尙ホ此上ニ世ノ中ノ組織ヲ完全ニセナケレバナラヌ、殘念ナコトデアル、又國民トシテザイマス、マーツハ御承知通リ内外ヲ始終旅ヲシテ居リマスガ、中ニハ非常ナル名案ヲ有シテ居ル人ガ隅ニニアリマス、又ハ誤解シテ居ル方ガ非常ナルモノデアル、第三ニハ不平家ガ多ウゴザイマス、皆其不平ニ負ケル、其不平ノ目的ヲ達スルコトガ出來ナイ、名案ガアッテモ名案ニ負ケテ居ツテ、其目的ヲ達スルコトガ出來ヌ、又誤解ノ如キハ御承知通リ、我ガ日本ニハ此誤解ノ爲ニ取返スコトノ出來ナイ不幸ヲ被ツテ居ルコトハ非常ナコトデアリマス、願クハ其不平其誤解其名案ノ目的ヲ達シサセル爲ニ其機關ガ欲シイ次第アリマス、此頃ニ至ツテ調査調査ト云フコトガ行ハレテ來マシテ、殊ニ我ニハ非常ニ之ヲ歡迎スルモノデアリマス、即チ此書物ハ明治十八年ニ、政府ニ於カレマシテ、國勢調査ヲセラレタモノデアリマス、即チ是レ國力ノ増進ノ方法、其増進ニ從ツテ國家ノ機關ヲ進メテ行カナクチャナライト云フ方針デアッテ、丁度明治十八年十二月二十七日ヲ以テ、三條太政大臣ヨリ各府縣廳ニ斯ウ云ゲル次第アリマス、益此調査ノ必要、益此人ノ氣合ヲ……目的ヲ達シセル、不平家ニハ不平ヲ釋イテヤル、誤解シテ居ル者ハ之ヲ充分明瞭ニサシテヤル、名案ハ之ヲ採取……廣ク聽カシテヤルト云フコトハ右申上云ヘマスルカラ、此機關ノ設置ヲ必置ト認ムル次第アリマス、極ク短カク申上ゲマス、第二ハ殖產興業、殖產興業ノ目的ハ何デアルカト云フト、國民ラシク、早ク衣食住ヲ足ラセテ獨立シテ、又海外ノ國民ト對立スルグケノ力ニサセタイト云フニ外ナラヌ次第アリマス、我ニハ此國民ノ權利、第一ニ民力はレ權利、衣食住足ツテ是レ即チ人間タル本分ヲ盡シタモノデアリマスルト

考ヘマスル故ニ、始終民力民力ト云フコトヲ目的トシテ居ル次第アリマス、第二殖產興業ノ目的ハ、申スマデモナク、早ク此世ニ相當スル國家ニ爲シタイノデアリマス、何レニ一等國ト見ル所ガゴザイマセウカ、何ヲ以テ今日ニ相當スル國家ノ組織ガ出來テ居リマセウカ、嗚呼此大切ナル國ニシテ港一ツモ無シ、道路モ無シ、山村モ無シ、衣食住モマダ足ラヌト云フヤウナ有様デアル、不合格ナ國ト言ハナケレバナラヌ、殘念ナコトデアル、又國民トシテ到底外國ノ國民ト對立ハ出來ナイ次第アリマス、是レ即チ殖產ノ目的デアリマス、國家……國家ト云フト、何ニ付ケテモ國家トシテハ百年ノ計畫ヲ遂行シテ行ク國是ガ立ツテ居ナイト、人更ハレバ物變ハル、時移レバ物變ハル、此點ハ眞ニ日本國ノ目的ヲ達スルコトガ出來ナイト考ヘマス、第二過失、極ク短ク申上ゲマス、過失……過失ガ多イ、併ナガラ此過失ト云フモノハ經驗ノ一ツデアル、又成功ノ初級デアルト考ヘマス、唯其過失ニ負クルカ勝ツカノトコロデアリマス、若シ過失ト見タナラバ之ヲ潔ク改メテ行カナクチヤナラス、是ハ利益デアリマス、過失ナルモノヲ何處カラ何處マデモ彌縫シテ行ケバ、是ハ非常ナル害ニナル次第アリマス、故ニ此非常ナル今日ノ世ノ中ニナッテ、是等ノコトヲ改メナクテハ非常ナル國家ノ不利ト云フコトガ眼前ニ横ツテ居ル、決シテ其誤リデハナイ、折角國家ノ爲ニ忠義ヲシタ人ガ、今日ニナッテハ其結果甚ダ惡イコトガアリマスカラ、潔ク後進ノ者ハ之ヲ改メテ行カナケレバナラヌ責任ヲ有シテ居ル、外交……外交、私ハ此五十三年ノ間ニ今回デ八回行ツテ居リマス、行ク毎ニ國ヲ憂フルコトガ重サナリ重サナリシテ來テ居リマス、今日ハ……五十三年前ニ行キマシタ時ニハ珍ラシ氣ニ可愛ガラガラレルト云フ見物ニナツタ時ガ、寧ロ宜シイト云フヤウナ感ヲ起スノデアリマス、何トナレバ貿易モ盛ニナル、此貿易ノ爲ニ、即チ品ハ日本ノ魂トシテ一ツトシテ濫造粗製デナイモノハナク、非常ナル立派ナ世界ニ歴史アル民族戰シテモ何ト言ツテ宜ウゴゴマイマスカ、危ナイ奴デアル油斷ハナラヌト云フヤウナ鹽梅ニ今日ハナッテ居ル次第アリマス、實ニ今日大切ナコトハ信用……信用恢復、是ヨリ外交……此外交ハ日本ノ爲ニ國民ガ、非常ナル努メシナクチャナラヌ時代ト思ヒマス、一遍不信用ヲ得タモノハ必ず恢復ハ出來マスル、第一ニ此信用ト云フコトハ恢復シナクチヤナラヌ、チヨット茲ニ第三ニ舉

ゲマスルガ、海外ヨリ日本ニ來ル人ハ第一金儲ケ、第二見物、第三學者、第四學校、日本國民ヲ造ツテ吳レルト云フ學校ガ出來テ居リマス、厚イ志ノモノデアリマス、我ガ日本國民ハ書生……書生、役人……役人、書ク程ニ書カレテ仕舞フ、書カレル、言ハレル、其言ハレルコトハ横濱ニ著スル、日光ニ行ク、箱根ニ行ク、歸リハ奈良京都ヲ見テ歸ル、其急行列車ニ乘ツテ見物スルヤウナ人カラ、此日本國ヲ皆書カレ、言ハレテ居リマス、日本國デハ決シテサウ云フ類ノ人ハ先ヅ少ナイト言ハナクチヤナラヌ、殆ドナイト言ハナケレバナラヌ、是等ノコトハ餘程御熟考ヲ煩ハシタイト思フ、先刻申上グル通り、皆サンノ御贊成ヲ得マシテ、ドウゾ不日緩クリト此説明ヲ實例ヲ舉ゲテ申上ゲタイト思ヒマス、マ一ツハ私茲ハムヅカシイ所デアリマスケレドモ、此篤志家、御承知デアリマセウガ、我々ハ六十年前ヨリ先輩ノ驥尾ニ附イテ居テ、如何ニモ感心スル、如何ニモ命モ惜シクナイト云フヤウナ人ニ接シテ居リマスガ、國ハ其當時ドコロデハナイ、十倍モ百倍モ實ニ危險ナ場合ニナッテ居ルニ拘ハラズ、誠ニ此篤志家ト云フモノガ少ナクナリマシタ、成程世界ノ地理ノ歴史ヲ視テ見マスルト、篤志家ノナイ國家ハ如何デゴザイマセウカ、或ハ屬國トナリ、世界ニ一等國ト云フ國ハナイ、屬國ハナイ、或ハ財ハナイ、或ハ有ッテモ權利ナク嗚呼實ニ油斷ノナラヌコトデアル、國ニ篤志家ノ缺乏スルトキハ、國ハ第一ニ覺悟シナクチヤナラヌ次第デアリマス、愛國……愛國ト云フコトハ其情ハ切ツテモ切レナイ、忘レササウトシテモ忘レサスコトハ出來ナイ、ケレドモ、セメテ國民ニ愛國ト云フコトガナクチヤナラヌ今日デアルト存ズル次第デアリマス、次ニ國體……國體上ヨリ風土、國風、是等ノコトニ付テモ長ク御話シシタウゴザイマスケレドモ、先ヅ茲ニ措キマス、アラン限り言ツテ聞カセルコトデアリマス、維新ノ戰ト云フモノヲ以テ、全國ニ今モ根氣ノ此維新……維新ノ時ノ戰、此維新ノ戰ト云フモノヲ以テ、是ハ今日最モ國居ル、是ハ決シテ官軍賊軍ト云フコトハナイ國ト思ヒマス、是ハ今日最モ國民ガ心得ナクチヤナラヌ次第ト思ヒマス、若シモ賊ト云フモノガ真ニ此反對ノモノデ、名ノ如ク賊デアッタナラバ、今日ニ今日ヲ見ルコトハ出來マセヌ、我々ハ兄ハ一人長州ニ殺サレ、一人ハ會津ニ殺サレテ居リマスケレドモ、少シモ怨ミヲ持タヌ、是ハ何デアルカト云フト、是ハ賊トカ官軍トカ言ハレヌ次第ノモノデアル、何デアルカト言フト、皆賊ノ他ニ薩長土肥ガ擅マニシ……官此國家ヲ擅マニスルト云フ考ヨリ反對ニ起ツタ、決シテ朝敵デハナイ……官

軍ハ又夫々理窟ガアツテ戰ツタ、後ニマア實ニ何トモナイヤウニナツタ云フコトハ、是ハ世界ノ歴史ニ見テ即チ此國體ノ有難イトコロデアリマス、此國體ヲ皆サンニ申上グル必要ハゴザイマセヌガ、不幸ニモ下級ニ居テ家庭モ教育ガ出來ナ人ハ今日ハ餘程注意シナクチヤナラヌ場合デアリマスカラ、ドウゾ五十年前カラノ歴史ハマダ消エテ居リマセヌカラ、是ヲ親シク一人デモ多クアリマセヌ、又此議場ニ詰シタクナイケレドモ、一ツ申上グテ置キタイコトシタケレドモ、印度ニ釋迦ガナイト言ツテ宜イ、支那ニモ度々行ツテ見マシタケレドモ、孔子ノ道ガドコニアルカト云フト、淺ク見テ居リマスカラ深イ所ハ宗教デアリマス、印度モ九遍ホド行ツテ見マシテ御寺ヲ見ル、坊サンモ見ハ知リマセヌケレドモ、孔子ノ道ハドコニアルカ、皆日本ニ來テ居ルト言ハナケレバナラヌ、孔子ノ道モ釋迦ノ道モ皆日本ニ眞ニ化シテ仕舞フ、決シテ外國ノモノデハナイコトニナツテ居リマス、其孔孟ノ道、其釋迦ノ道ヲ失フ所ノ國ハ悉ク誠ニ名ヲ言フニ憚ルカラ實ニ申スニ忍ビヌ位ニナツテ居ル、今既ニ此日本ノ國體ノ根源ト孔孟ノ道ヲ入レテ今日ニナツテ來タ所ノコトハ忘却シテ仕舞ツテ、濫リニ寺ヲ排スル、或ハ佛ヲ排スル、或ハ鐘ヲ收メル如何ニシテ此政治ノ機關ガ出來テ居リマスカ、論ヨリ證據僅カ五十年ノ間ニ變リモ變ツタモノ、非常ノ變化デアリマス、故ニ私ハ言フ、文明ノ歐羅巴ハ進歩ノ申スコトハ是ダケデ措キマシテ、希ハクハ私ハ議事法ヲ能ク心得マセヌガ、委員ヲ設ケラレテ御贊成ヲ得マシテ、緩々五十有餘年内外ノ調査見聞ニ依ツテ御参考ノタメ申上ゲタイコトガ多クゴザイマスガ、唯コニ一事ダケヲ、一言申上グテ置キタイト云フノハ四五十年間、朝野ニアツテ實行シタコトヲ申上ゲマス、決シテ私自身ノ仕事ハ申上ゲマセヌ、是ハ幸ニシテ此次ノ説明ヲ申上ダスマス種トシテ、唯讀上ゲテ置キタイト思ヒマスカラ、チヨット御耳ヲ拜借シタインデアリマス、先ヅ育種場、是ハ明治九年デアリマス、是ハ西洋ヨリ野菜類、穀物類、果實類、花類ヲ之ヲ日本ニ初メテ私ガ歐羅巴ノ十年間ノ土產トシテ持ツテ來テ、三田ノ四國町ニ育種場ヲ開イタ次第デアリマス、皆之ニ付テノ事ヲ此度ノ建議ニ依ツテ行ハレタイト思ツテ居ルノデアリマス、萬國博覽會、恐ク明治十一年ノ佛蘭西ノ萬國博覽會ノ如キ、日本國ヲ世ニ知ラセタ

コトハ外ニナイデアラウト信ジマス、是ハ私ノ力デナイ、日本ニ態よ其爲ニ
歸ツタ先輩諸子ノ、此書生ノ身ヲ充分御容レナサレタ其效ト、又外國デハ佛蘭
西デハ、或ハ「チッスラン」「レセップス」地中海ヲ掘ツタ、「ガンベタ」ナド、云フ
人ヨリ非常ニ愛顧ヲ受ケ可愛ガラレテ居リマシタカラ、全クソレ等ノ御蔭ヲ
以テ成功シタ次第アリマス、此目的ハマダ達シテ居ナイ、殘念デアリマス
カラ幸ニシテ餘計ナ金ヲ戴キマシタカラ芝居ヲシテ見セマシタ、マア冒險デ
アリマシタガ、此芝居ヲ見セマシテ、日本國ノ風俗ヲ知ラセ、尙ホ物産ノ用
ヒ方ヲ知ラセタ次第アリマス、是ハ效力ガアリマシタ、直接貿易、是ハ隨
分肯ガ折レタモノデアリマス、ソレマデハ丁度、長崎、神戸、横濱ト云フ所
ノ商人ハ奴隸ノ如キモノデ、アレハ即チ外國ノ城ヲ……例ヘバ五十万ノ產業
ニ從事シテ居レバ向フノ虜ニナル、或ハ百二十万ノ茶業者ノヤウナモノモ
唯言ハレル儘ニシタモノデアリマス、幸ニシテ篤志家ガ出テ居ルノデアリマ
ス、速水堅曹氏或ハ其他ノ篤志家ガ產業ノ發達ヲ今日ノ如ク養成シタ、茶業
ノ百二十万、是ハ大谷嘉兵衛君等ガ非常ニ盡力ニナッタモノデ、ソレガ城ヲ陷
シタト云ッテ宜イ、今靜岡ニ我ガ城ヲ築イテ、コニ外國ノ人ガ來テ茶ノ研究
ヲスル次第アリマス、是ハ軍人ガ敵ノ城ヲ陥スト其ノ等差ハナイト思ヒマ
ス、是ハ直接貿易ノ御陰ト思ヒマス、農工商業ノ調査、是ハ各府縣ニ數百千
アリマス、興業意見、是ハ先刻申シマシタ、コレデアリマス（書冊中ノ表ヲ
示ス）コレガ國力デアリマス、此國力ノ充實進歩ニ連レテ日本ヲ國ニナス、
港ヲ造ラナケレバナラヌ、道路ヲ造ラナケレバナラヌ、種々様ノ力ヲ以テ
行カナケレバナラヌ、唯單ニ收入ヲ以テスペキモノデナイト云フノガ其當時
ノ政府ノ方針デアリマシタ、其次ニ勤勉貯蓄、是ハ私ガ免職ニマデナッタ次第
デアリマス、農工商公報、此公報ガゴザイマシタナラバ餘程此官民ト外國ト
ノ意思ガ、非常ニ疏通シテ居ルノデゴザイマシタラウケレドモ、甚ダ遺憾ナ
ガラ皆人ガ變レバ物ガ變ツテ行ク不幸ノ目ニ遭ヒマシタ、全國農工商ノ篤志
家、是ハコニ申上ゲル次第アリマセヌケレドモ此二百五十名ノ日本ノ篤
志家ヲ集メタ時ハ非常ナ有難イコトニナリマスガ、此席コニ説明スルコト
ハ措キマス、次ニハ全國各實業團體ガ十二團體出來マシタ、次ニ各府縣ノ大
會、或ハ町村是調、伊勢大廟ノ下ノ大會内外巡視巡回、各府縣ノ篤志會ノ組
織、都合十五件デアリマス、是ハ御記憶ヲ願ヒマシテ、願ハクバドウゾ此問
題ハ委員ヲ設ケラレマシテ御贊成ヲ得マシテ再ビ詳シク内外ノ事情ヲ申上ゲ

タイト考ヘマス

○高崎親章君 本建議ニ對シテハ之ヲ委員ニ付託シ、其委員ノ數ハ九名トシ、
議長指名ノ特別委員ニ付託セラレムコトヲ希望イタシマス

○男爵千秋季隆君 贊成

○鈴木摠兵衛君 贊成

○議長（公爵德川家達君） 唯今ノ高崎親章君ノ本建議案ハ九名ノ特別委員ニ
付託スルコト、シ、其委員ハ議長ノ指名ニ任セルト云フ動議ニ御異存ゴザイ
マセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長（公爵德川家達君） 御異議ナイト認メマス、特別委員ノ氏名ヲ御報告
ニ及ビマス

〔成瀬書記官朗讀〕

國運發展ニ適切ナル社會組織及風俗慣習調査機關設置ニ關スル建議案特別
委員

伯爵萬里小路通房君 子爵蒔田廣城君 男爵肝付兼行君
男爵船越光之丞君 男爵安藤直雄君 三宅秀君

○議長（公爵德川家達君） 明十五日ハ本會議ハ休ミマス、明後十六日ノ會議
ハ午前十時ヨリ開會イタシマス、議事日程ハ本院彙報ヲ以テ御通知ニ及ビマ
ス、本日ハ是デ散會イタシマス

午後四時十分散會